

## 第2章 保護者票の調査結果

### 1. 経済的な状況、暮らしの状況

#### （1）世帯の年間収入

問 18 世帯全体のおおよその年間収入（税込）はいくらですか。（あてはまるもの1つに○）

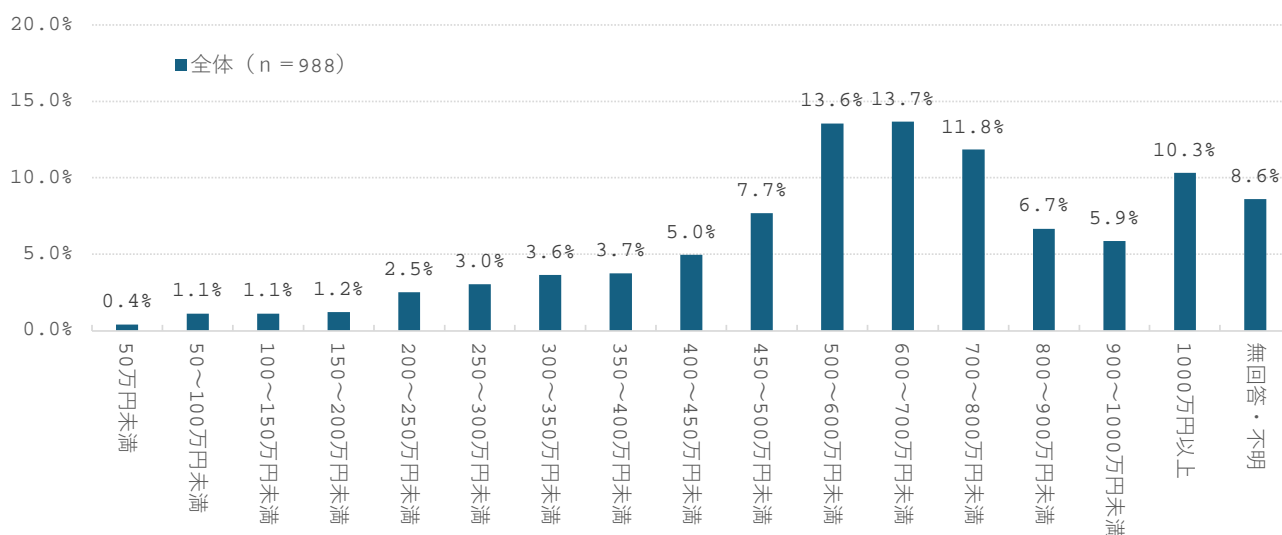


図1 世帯全体の年間収入（全体）

- 世帯全体の年間収入（税込）については、全体では、「600～700 万円未満」が 13.7%で最も割合が多く、続いて「500～600 万円未満」（13.6%）、「700～800 万円未満」（11.8%）となった。

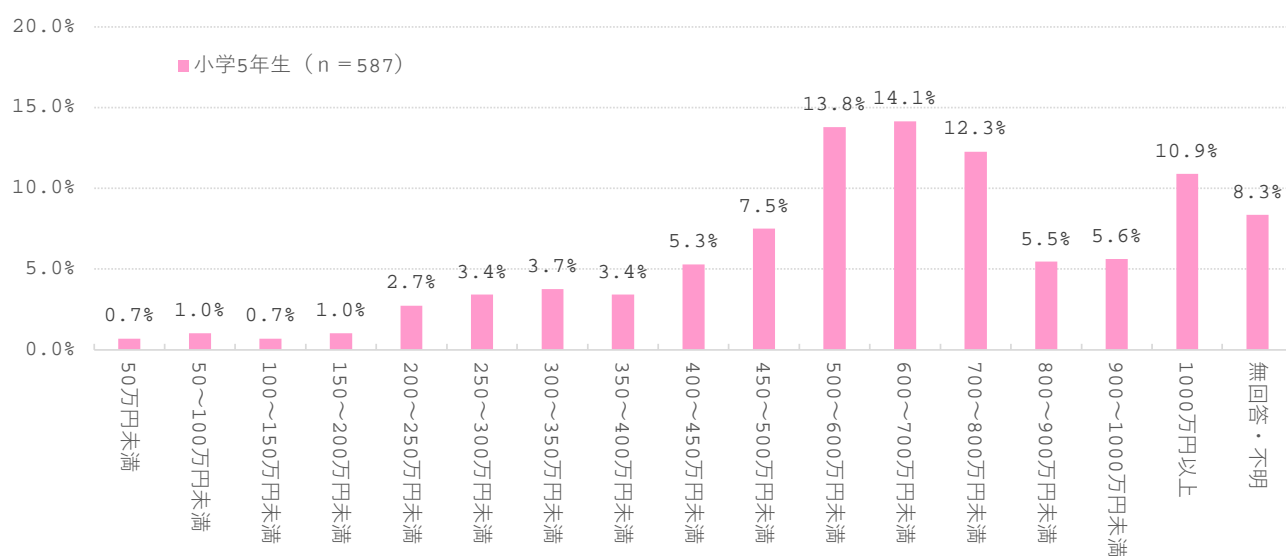


図2 世帯全体の年間収入（小学5年生）

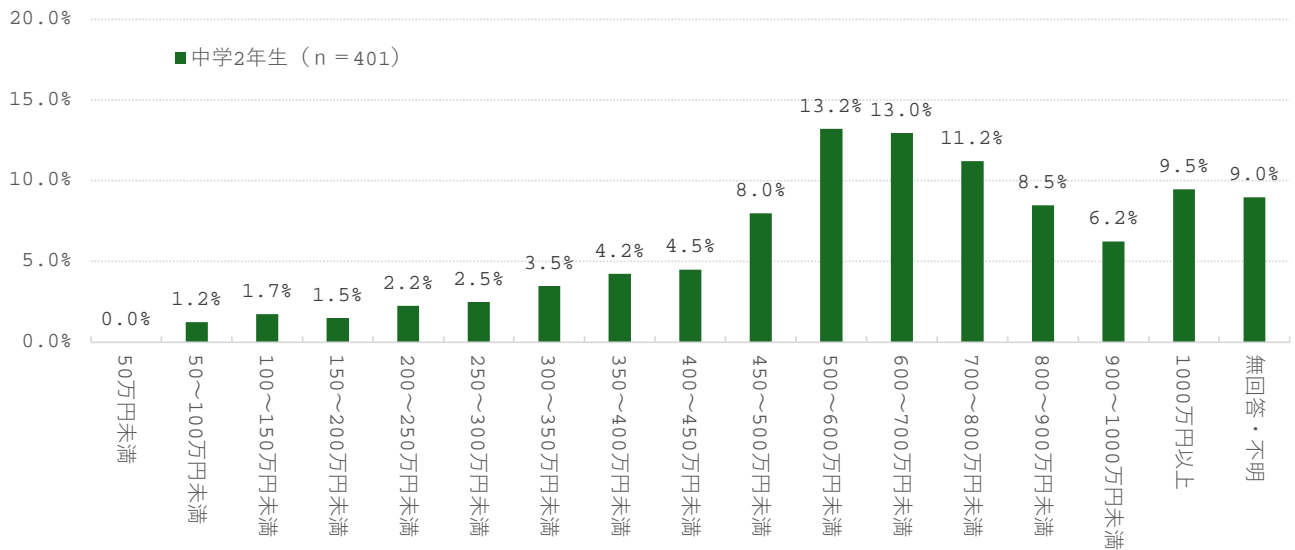
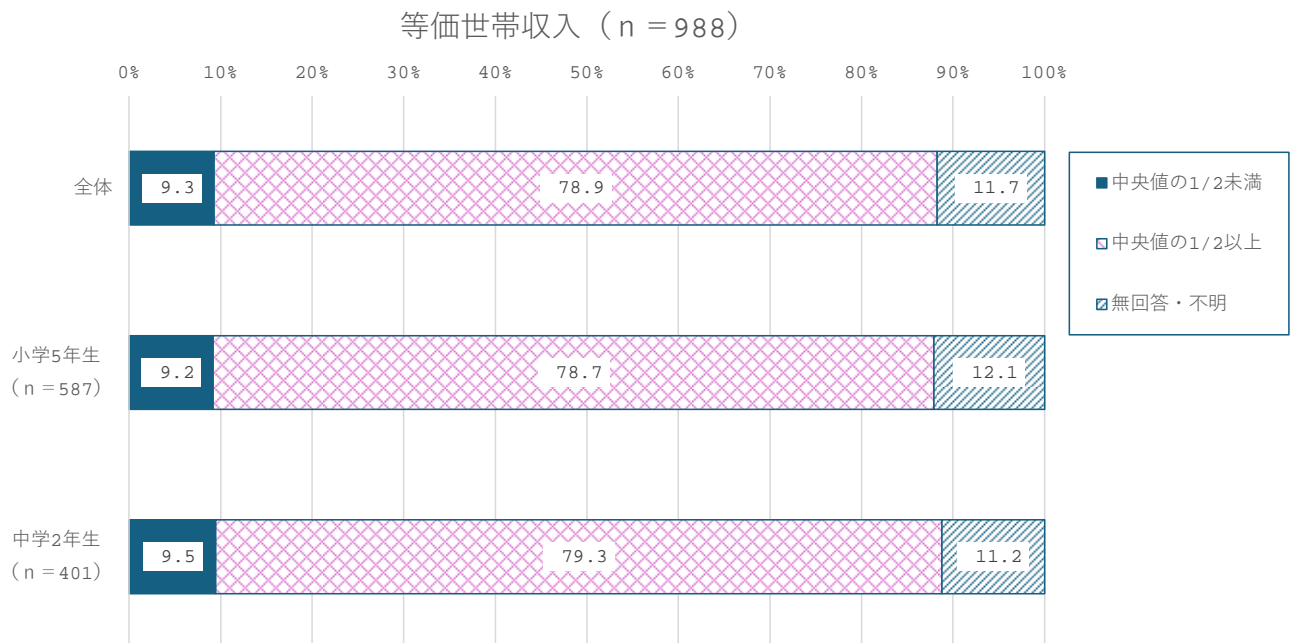


図3 世帯全体の年間収入（中学2年生）

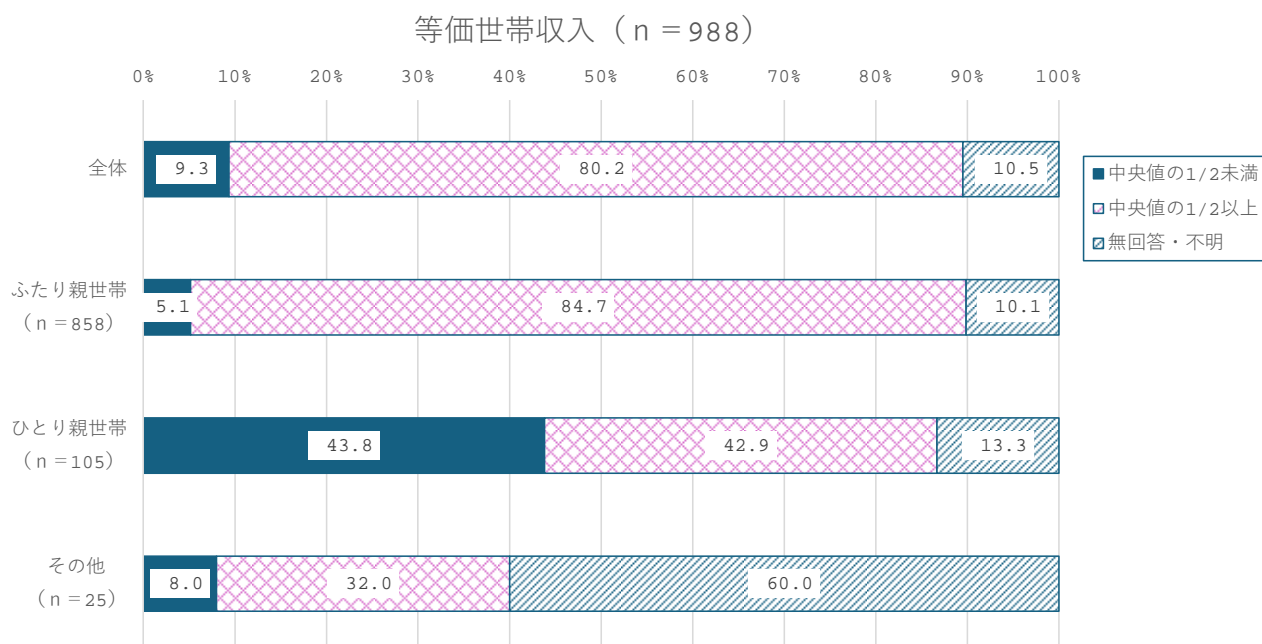
- また、得られた年間収入の結果を基に等価世帯収入による分類も行ったところ、等価世帯収入の中央値は2,907,000円、中央値の1/2の値は、1,453,500円となり、下記の結果となった。分類の結果、等価世帯収入の水準が貧困率の数字となる「中央値の1/2未満」は全体で9.3%、小学5年生で9.2%、中学2年生で9.5%だった。

### 【全体（学年別）】

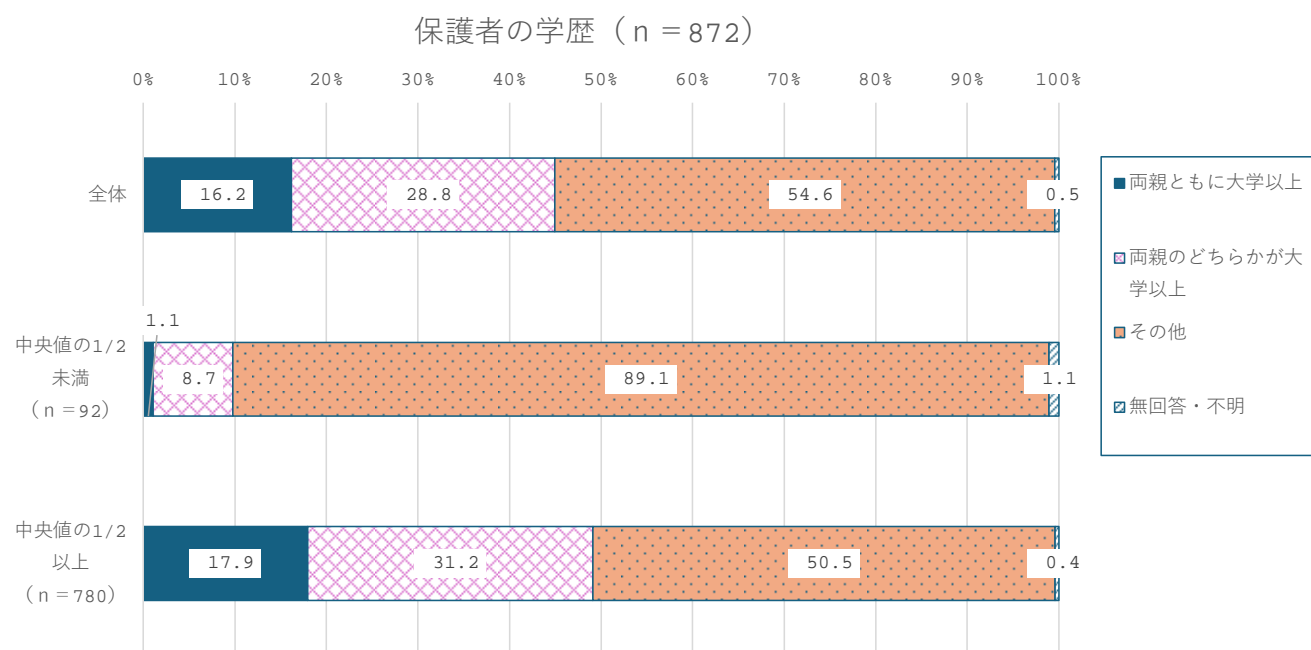


- 世帯の状況別に等価世帯収入の分類を行ったところ、下記の結果となった。  
「中央値の1/2未満」の割合は、「ひとり親世帯」で43.8%、「ふたり親世帯」で5.1%となっており、大きな差がみられた。

### 【世帯の状況別】



- 母親と父親の最終学歴の組み合わせによる等価世帯収入の分類を行ったところ、「両親ともに大学以上」、「両親のどちらかが大学以上」では、等価世帯年収が下がるに従い、割合も減少する傾向がみられた。

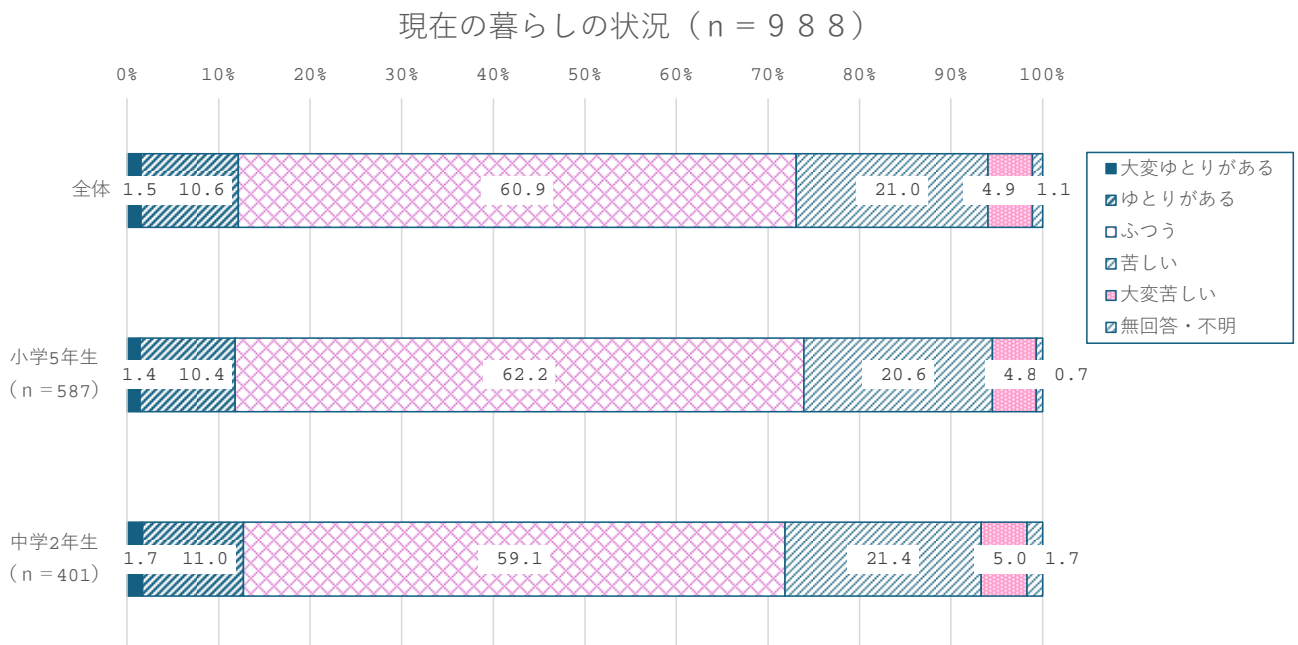


## (2) 暮らしの状況

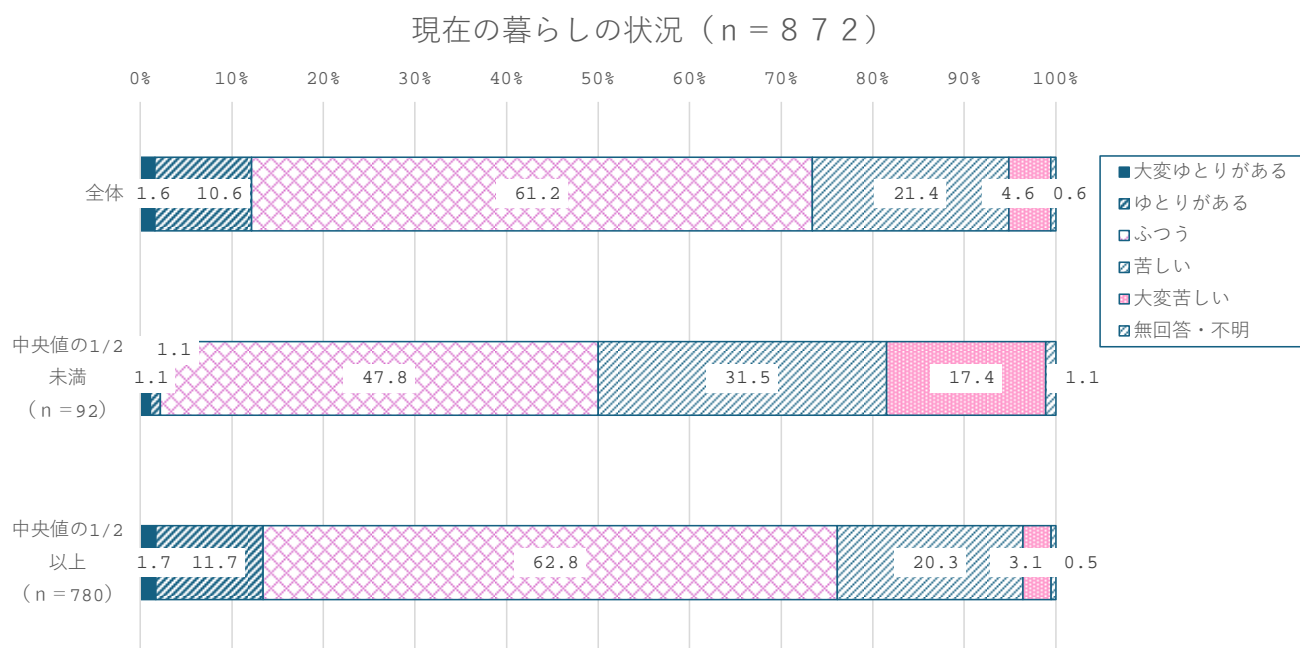
問 17 あなたは現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(あてはまるもの1つに○)

- 現在の暮らしの状況では、「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合が、全体では25.9%、小学5年生では25.4%、中学2年生では26.4%とどの層も同じくらいの結果となった。  
また、等価世帯収入で分類した結果では、等価世帯収入が減少するに従い、「苦しい」と「大変苦しい」の割合は増加していき、「中央値の1/2以上」と「中央値の1/2未満」では約2.1倍の差となった。  
世帯の状況別の結果では、「ひとり親世帯」と「ふたり親世帯」で「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合に約2.4倍の差がみられた。

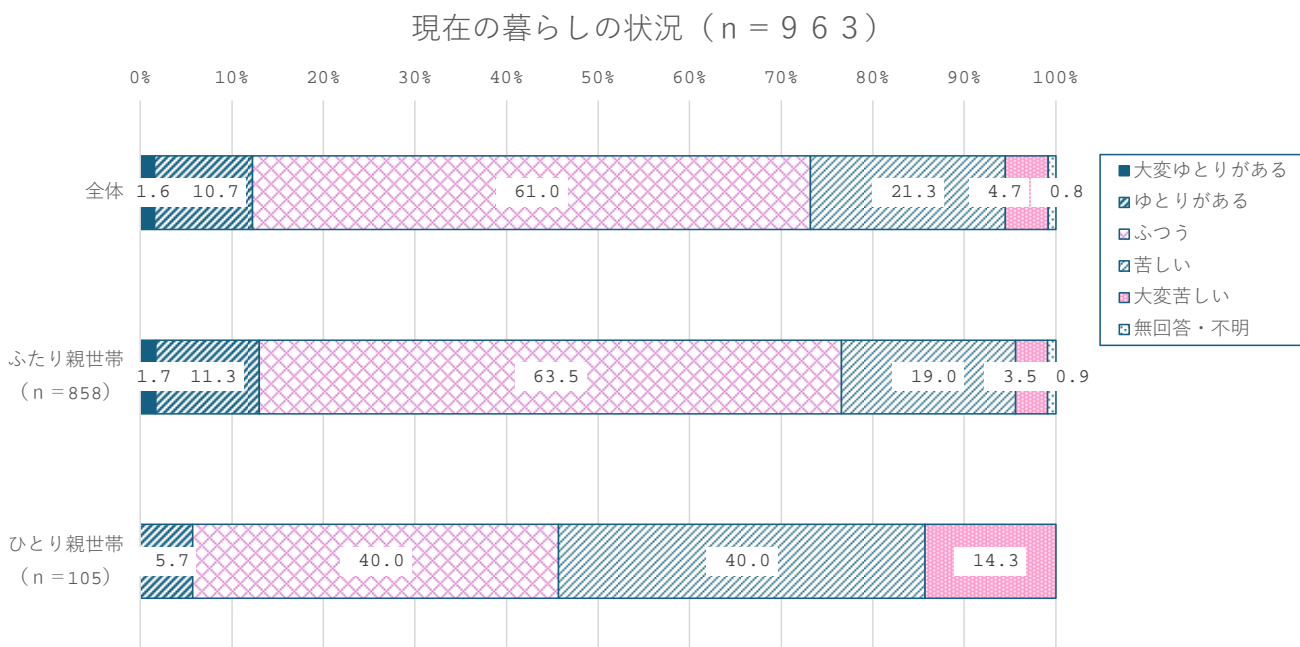
## 【全体（学年別）】



## 【等価世帯収入別】



## 【世帯の状況別】

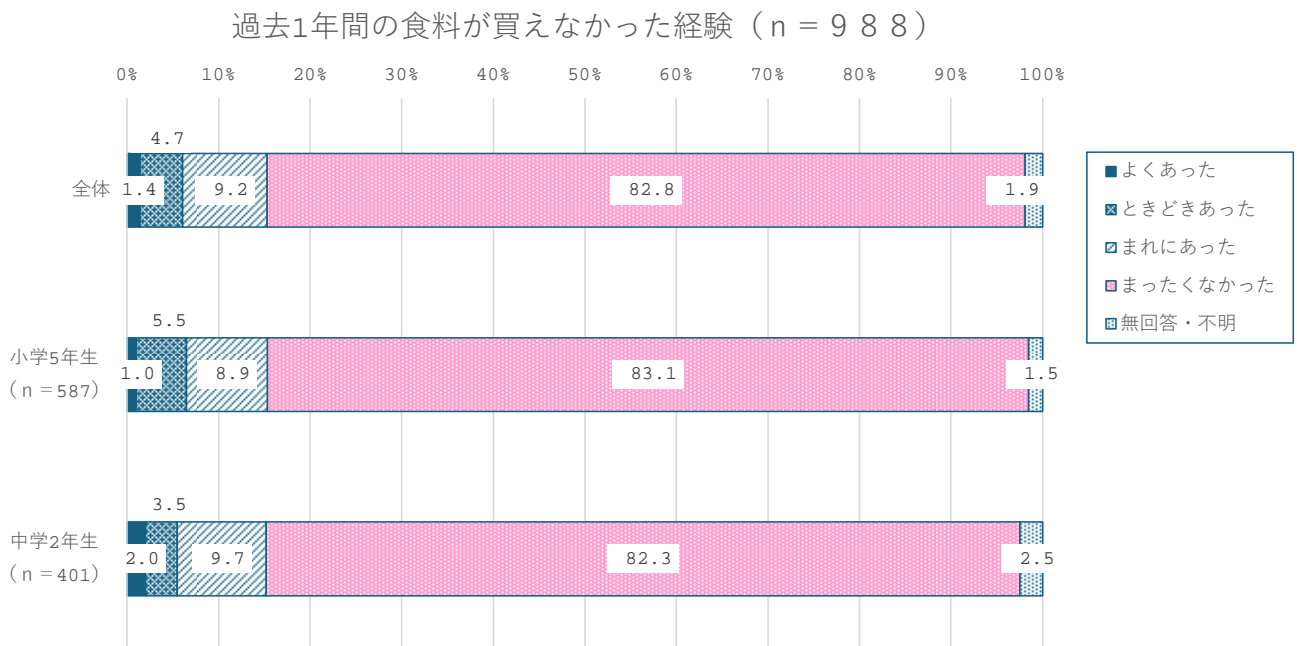


## (3) 食料が買えなかった経験

問 19 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(あてはまるもの1つに○)

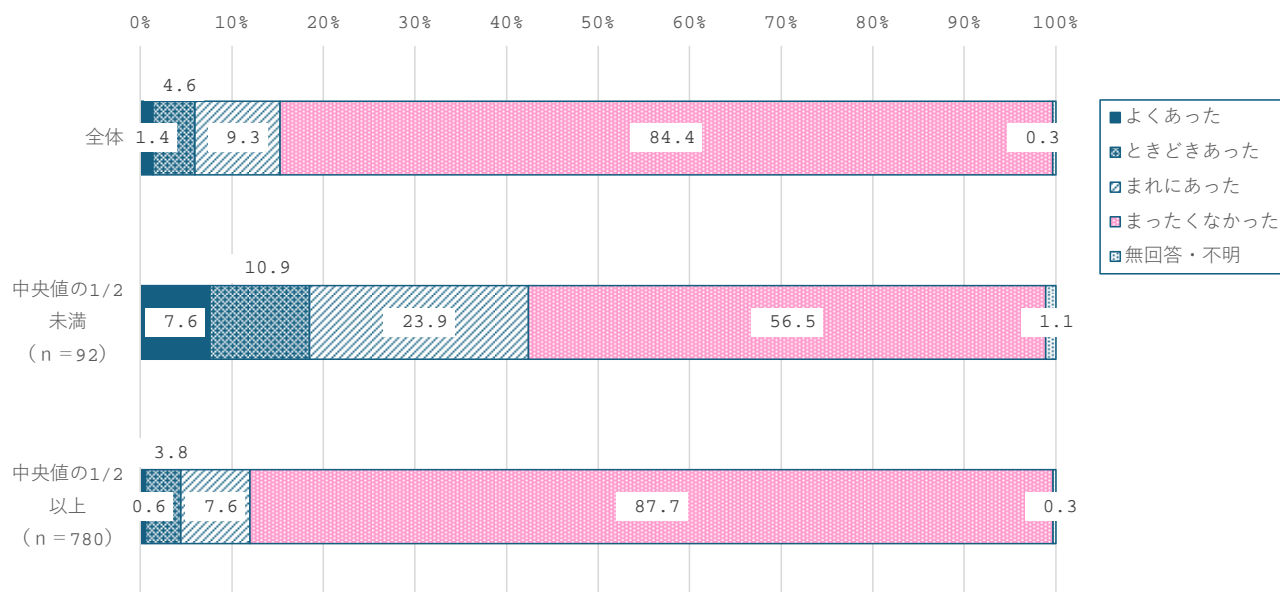
- 過去1年間に食料が買えなかった経験については、全体では「よくあった」が1.4%、「ときどきあった」が4.7%「まれにあった」が9.2%となっており、合わせた割合は15.3%だった。等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」では、「よくあった」から「まれにあった」までの合計の割合が42.4%となっていた。世帯の状況別では、「よくあった」から「まれにあった」までの合計の割合は、「ふたり親世帯」では12.8%、「ひとり親世帯」では38.1%だった。

## 【全体（学年別）】



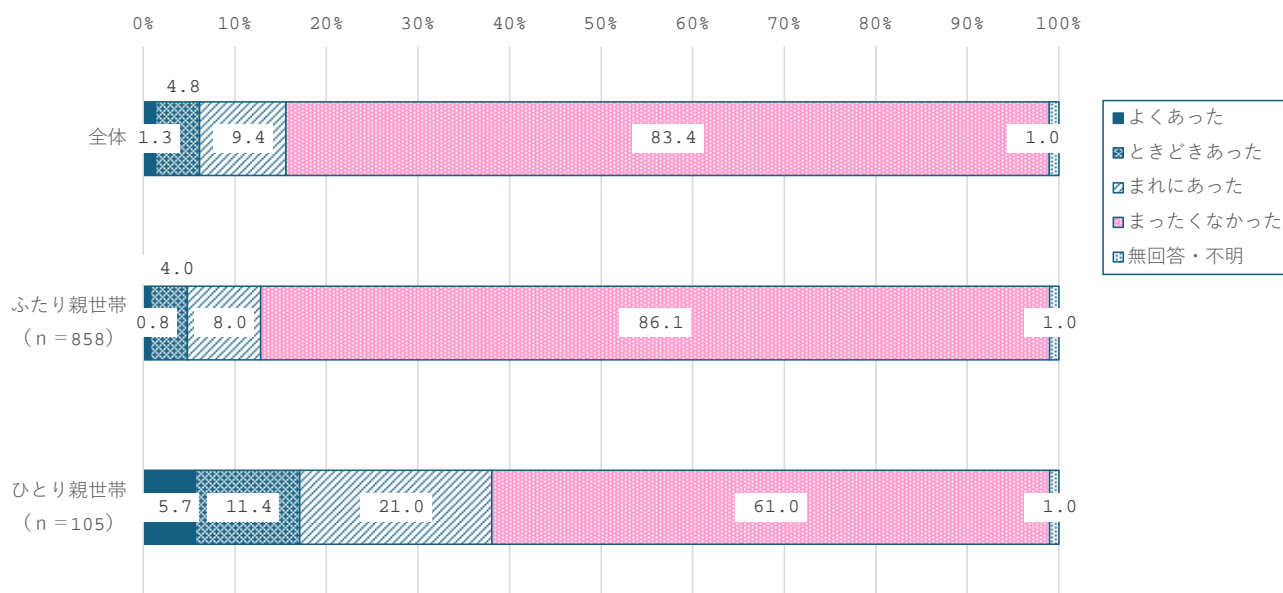
## 【等価世帯収入別】

過去1年間の食料が買えなかった経験（n = 872）



## 【世帯の状況別】

過去1年間の食料が買えなかった経験（n = 963）

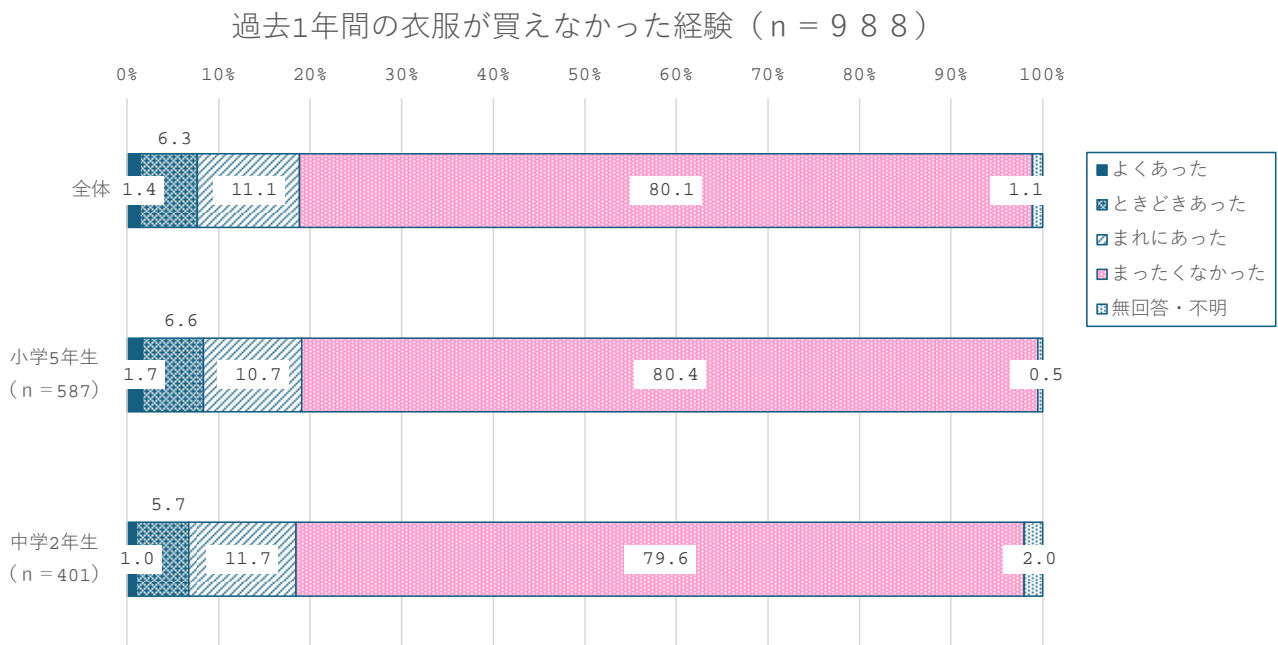


## (4) 衣服が買えなかった経験

問 20 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(あてはまるもの1つに○)

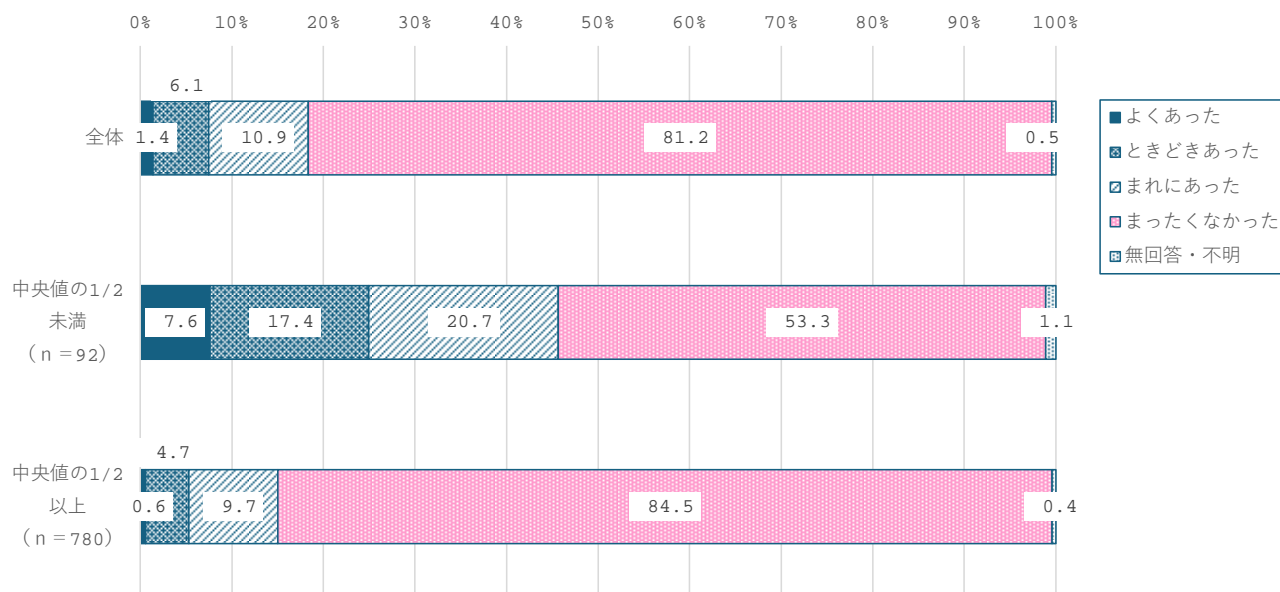
- 過去1年間に衣服が買えなかった経験については、全体では「よくあった」が1.4%、「ときどきあった」が6.3%「まれにあった」が11.1%となっており、合わせた割合は18.8%だった。等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」では、「よくあった」から「まれにあった」までの合計の割合が45.7%となっていた。世帯の状況別では、「よくあった」から「まれにあった」までの合計の割合は、「ふたり親世帯」では16.3%、「ひとり親世帯」では38.1%だった。

## 【全体（学年別）】



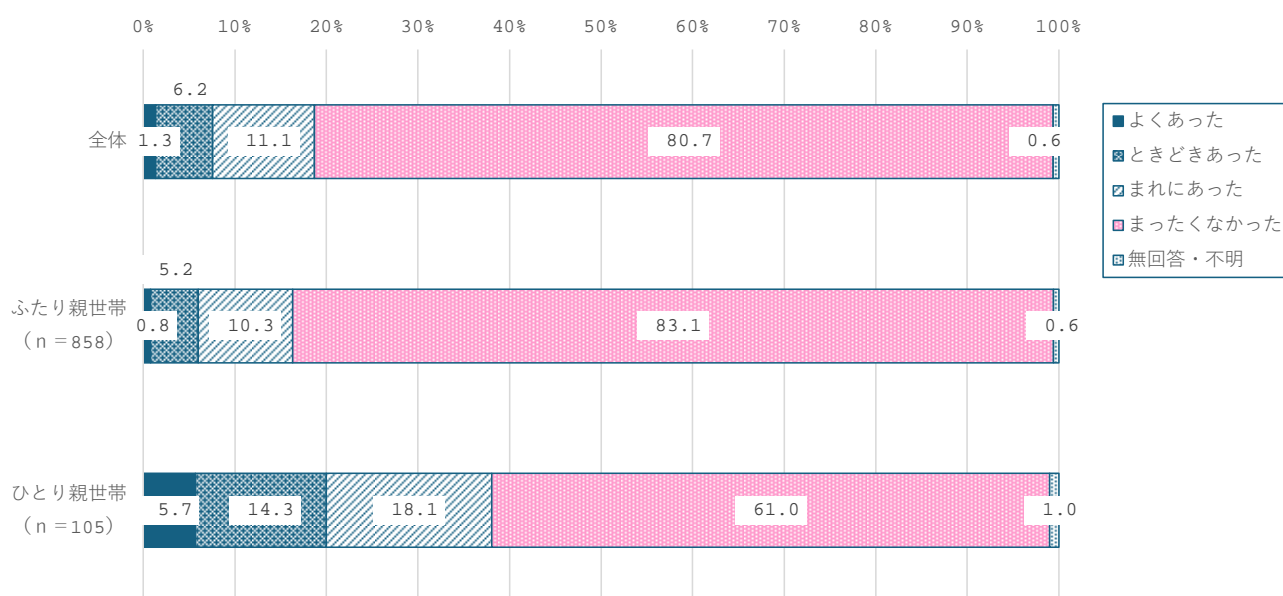
## 【等価世帯収入別】

過去1年間の衣服が買えなかった経験（n = 872）



## 【世帯の状況別】

過去1年間の衣服が買えなかった経験（n = 963）



## (5) 公共料金における未払いの経験

問 21 あなたの世帯では、過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありますか。(1～3について、あてはまるものすべてに○)

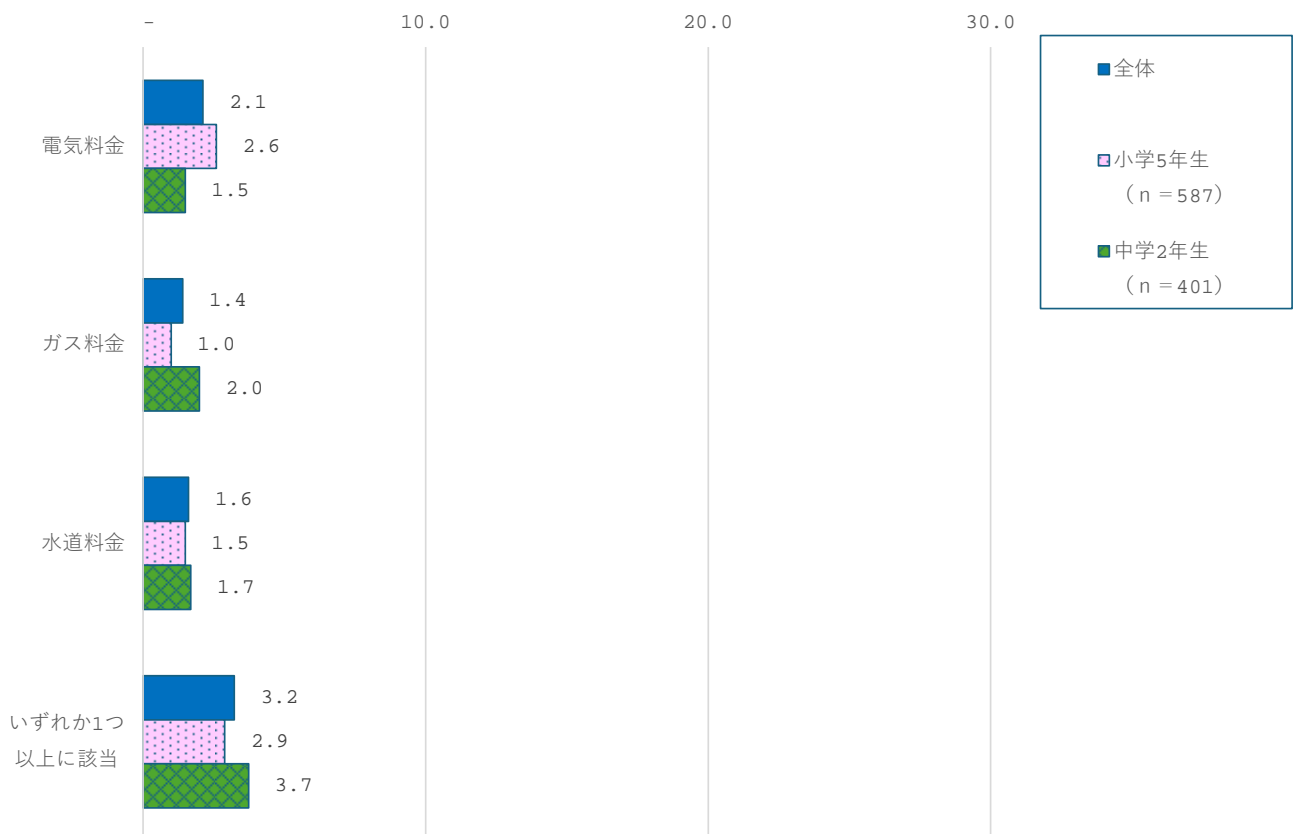
- 過去1年間に「電気料金」、「ガス料金」、「水道料金」を経済的な理由で払えなかった人の割合は、それぞれ、2.1%、1.4%、1.6%となった。

等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」でどの料金においても8%以上となり、「中央値の1/2以上」と比べて大きな差がみられた。

世帯の状況別では、「ひとり親世帯」で約4%以上となっており、「ふたり親世帯」と比べて大きな差がみられた。

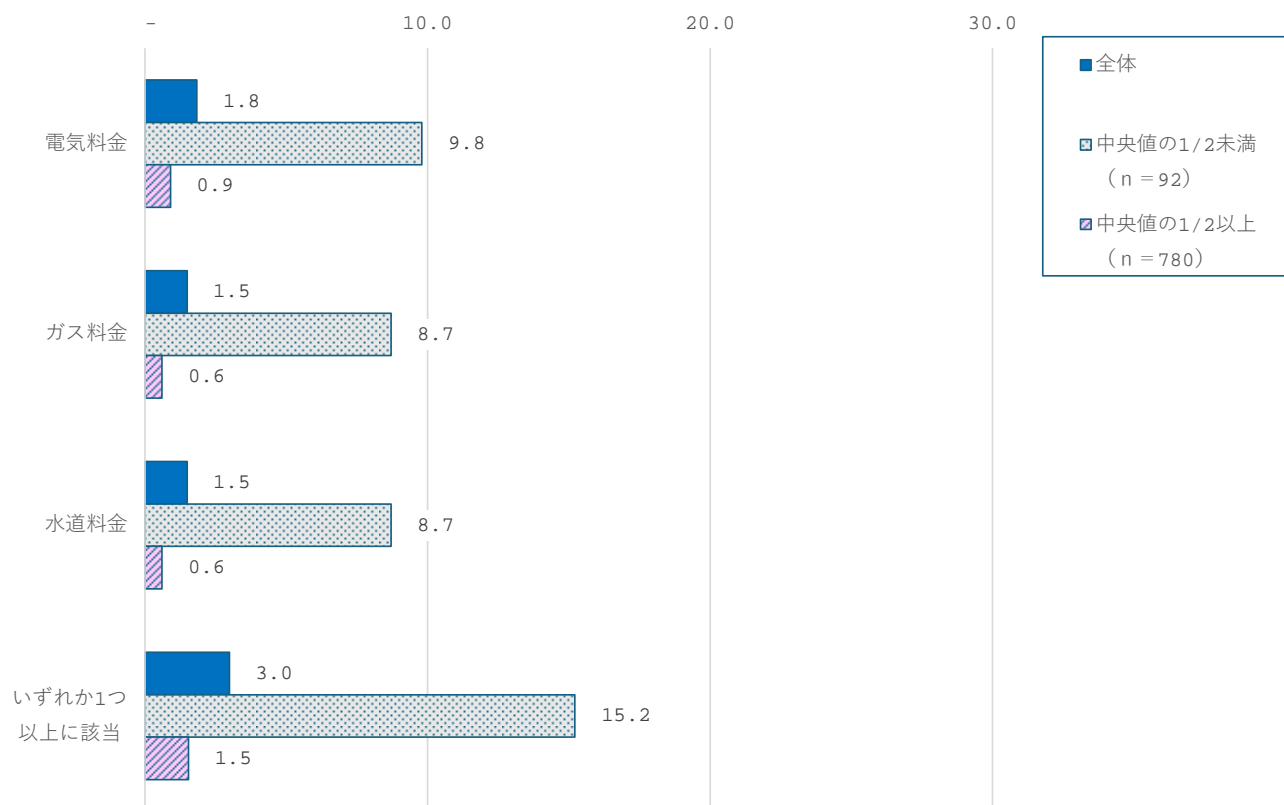
## 【全体（学年別）】

過去1年間の未払い経験（n = 988）



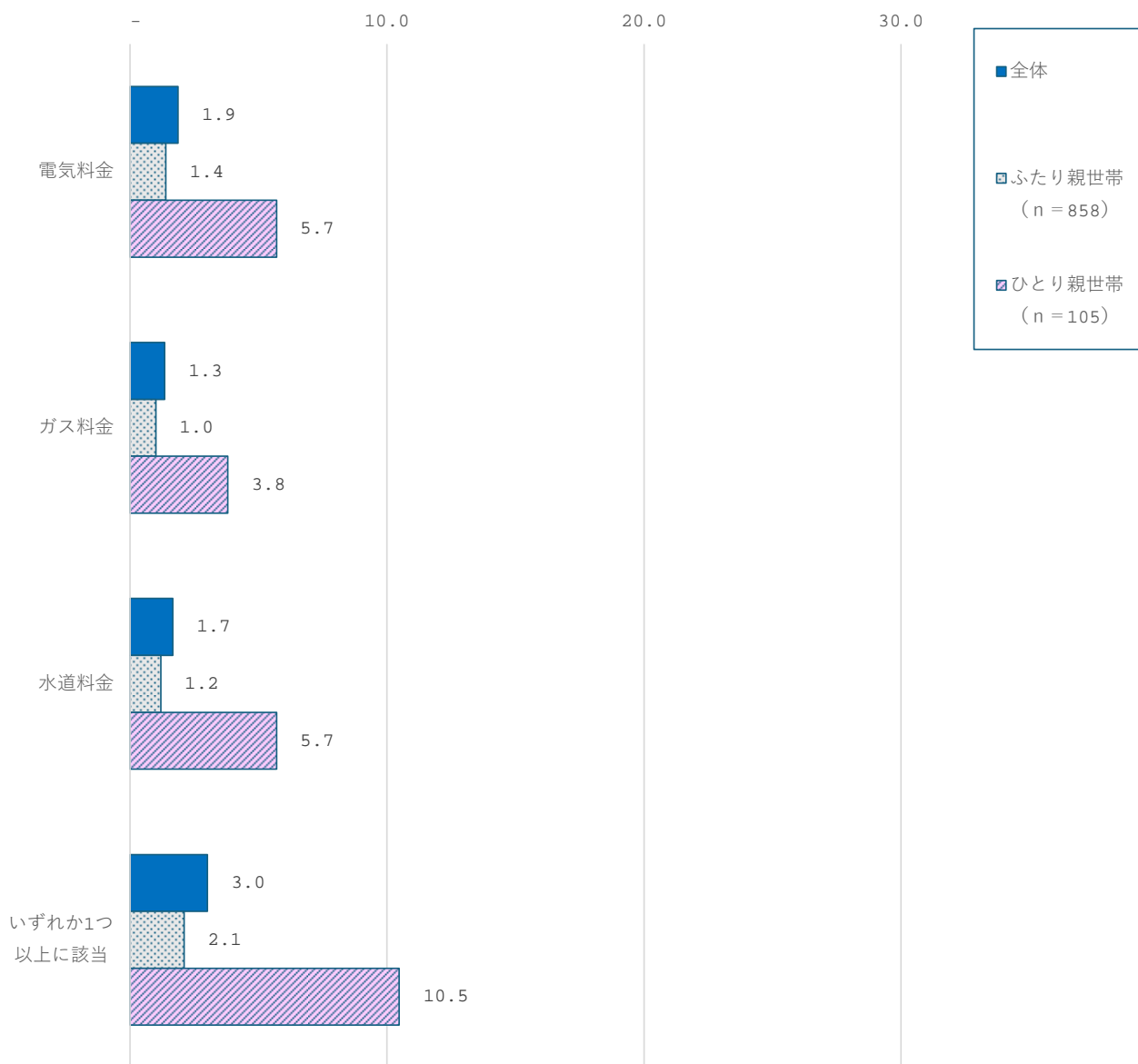
【等価世帯収入別】

過去1年間の未払い経験（n = 872）



## 【世帯の状況別】

過去1年間の未払い経験 (n = 963)



## 2. 保護者の就労の状況

### （1）母親・父親の就労状況

問8 お子さんの親の就労状況についてあてはまるものを回答してください。

（a,b それぞれについて、あてはまるもの1つに○）

#### 【母親】

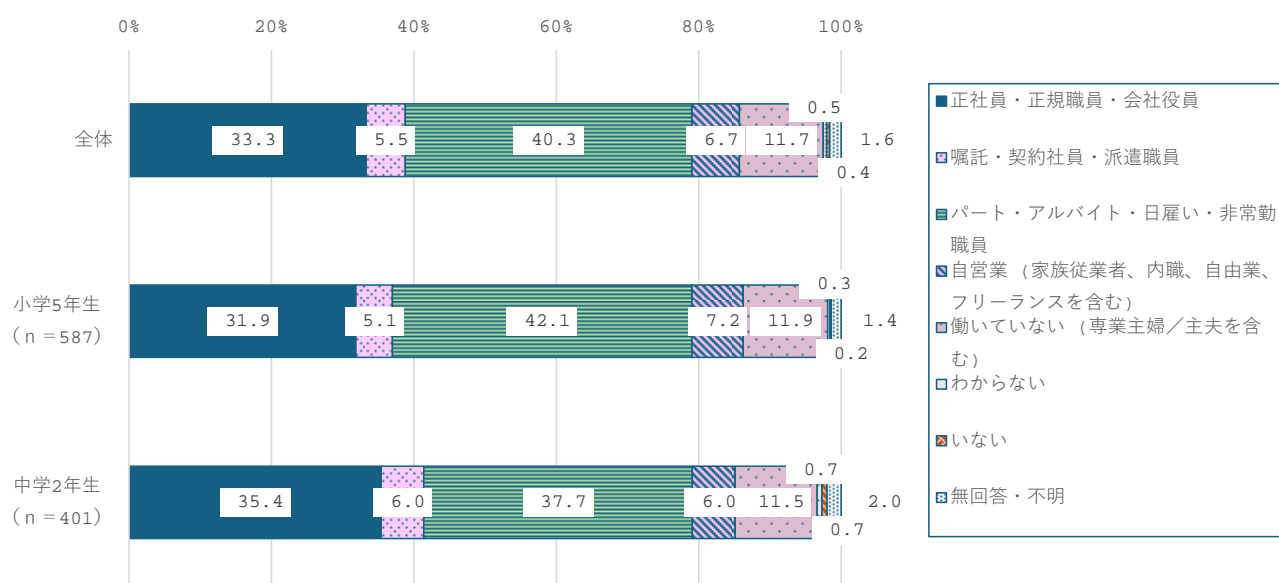
- 母親の就労状況について、全体では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が40.3%で最も高く、続いて「正社員・正規職員・会社役員」が33.3%となった。また、「働いていない」は11.7%だった。

等価世帯収入別において、「中央値の1/2未満」では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が54.3%と半数を超えており、「正社員・正規職員・会社役員」は18.5%と「中央値の1/2以上」と比べて大きな差がみられた。

世帯の状況別では、各層とも大きな差はみられなかった。

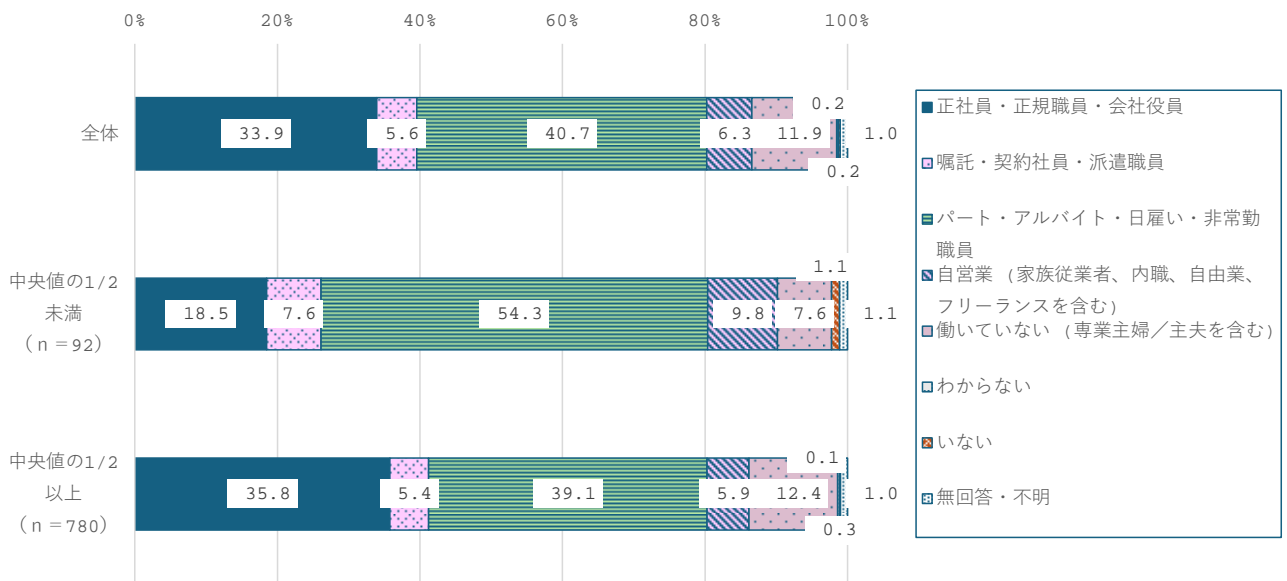
#### 【全体（学年別）】

母親の就労状況（n = 988）



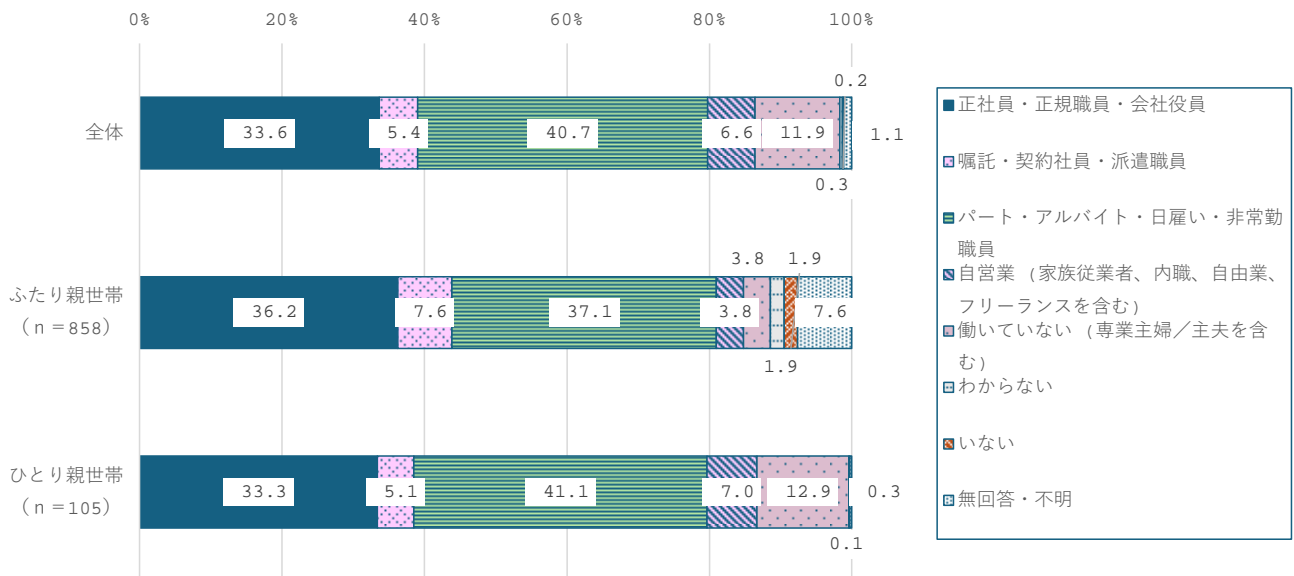
## 【等価世帯収入別】

母親の就労状況 (n = 872)



## 【世帯の状況別】

母親の就労状況 (n = 963)



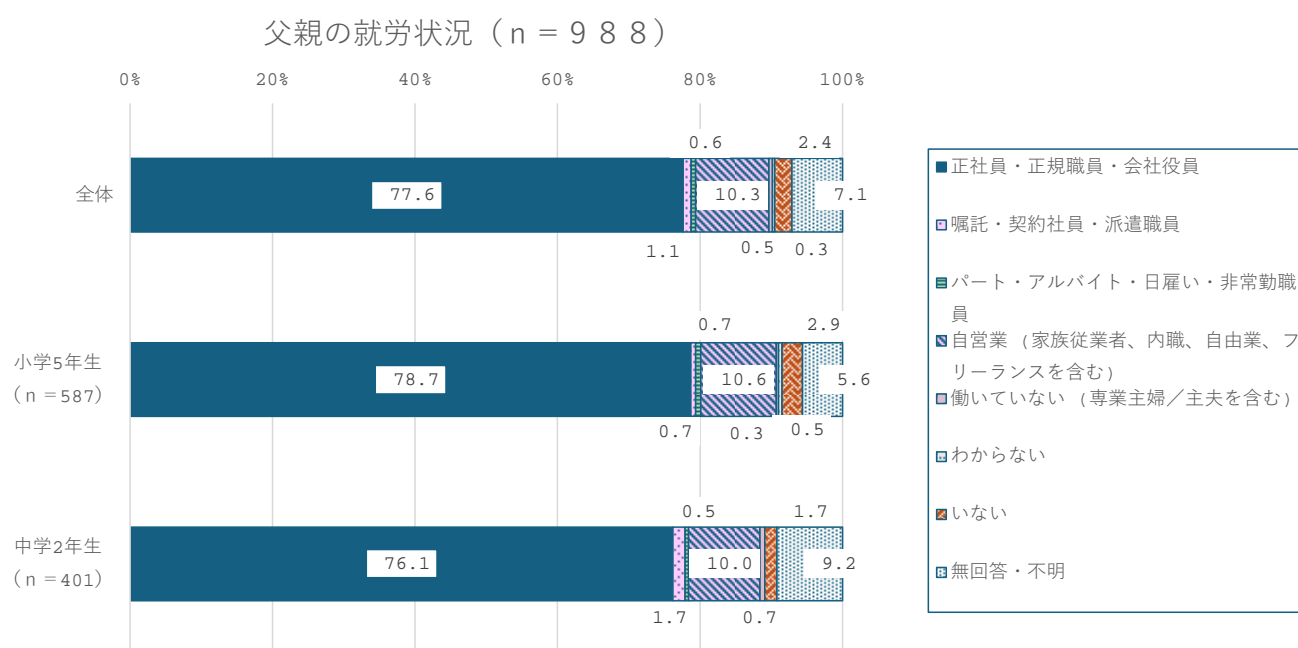
## 【父親】

- 父親の就労状況について、全体では「正社員・正規職員・会社役員」の割合が最も高く75%以上だった。

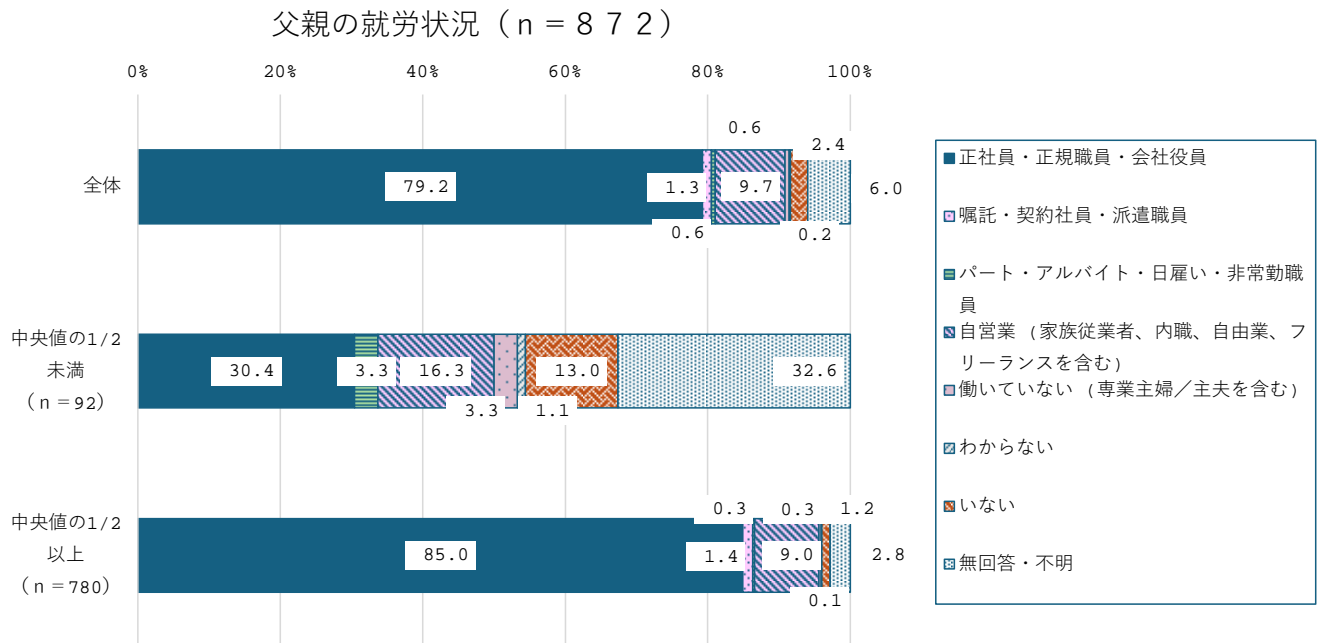
等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」で「正社員・正規職員・会社役員」が30.4%と「中央値の1/2以上」の「正社員・正規職員・会社役員」(85.0%)と比べ、少ない結果となった。

世帯の状況別では、「ひとり親世帯」で50%以上が「わからない」、「いない」、「無回答・不明」という結果となった。

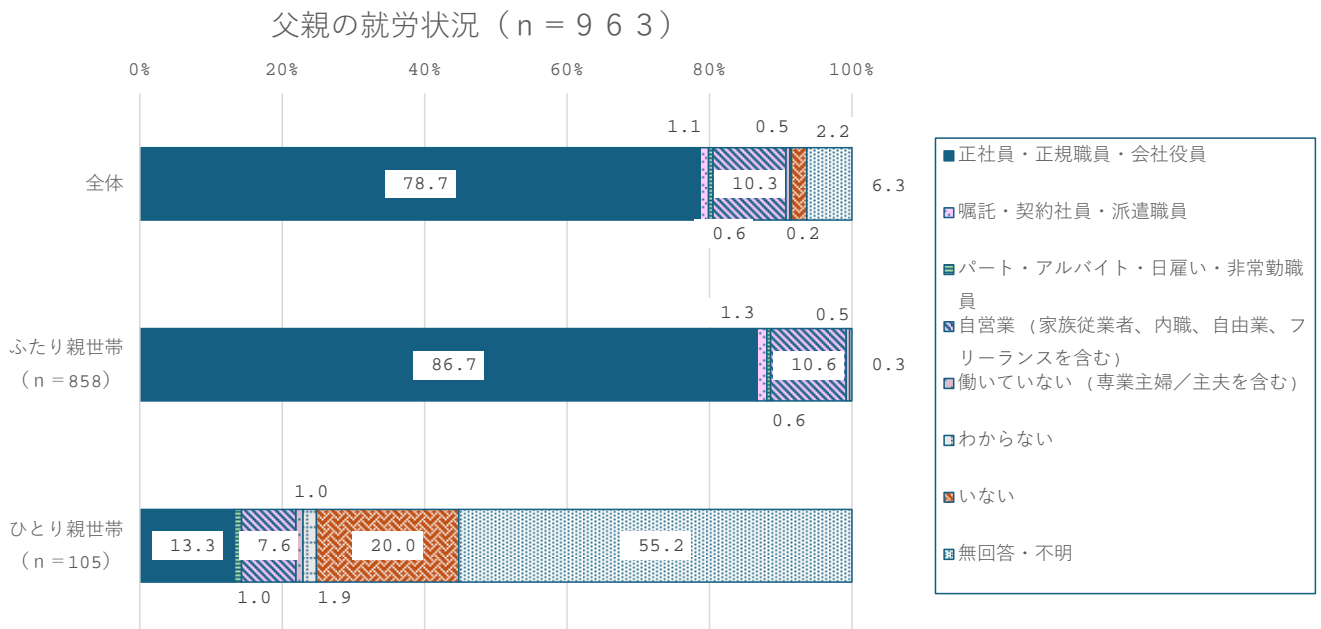
## 【全体（学年別）】



## 【等価世帯収入別】



## 【世帯の状況別】



## （2）働いていない理由

問9 前の質問で「5 働いていない」と答えた場合、働いていない最も主な理由を教えてください。（a、bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

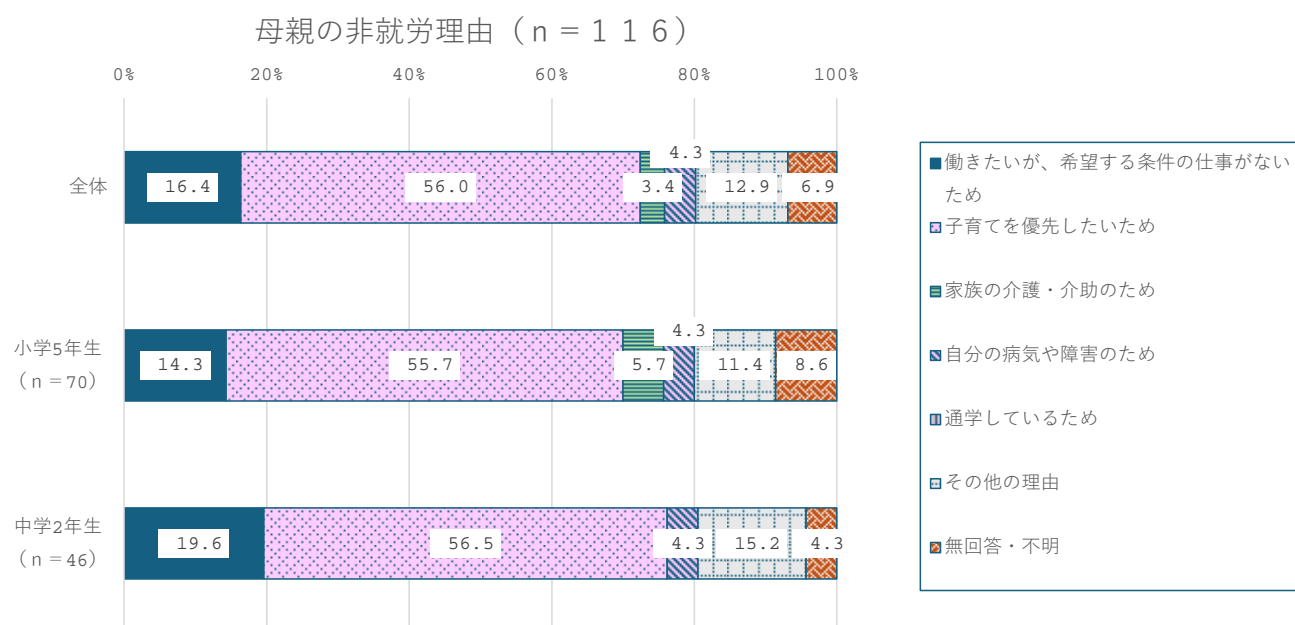
### 【母親】

- 母親の働いていない理由としては、全体では「子育てを優先したいため」が56.0%で最も多い割合となった。

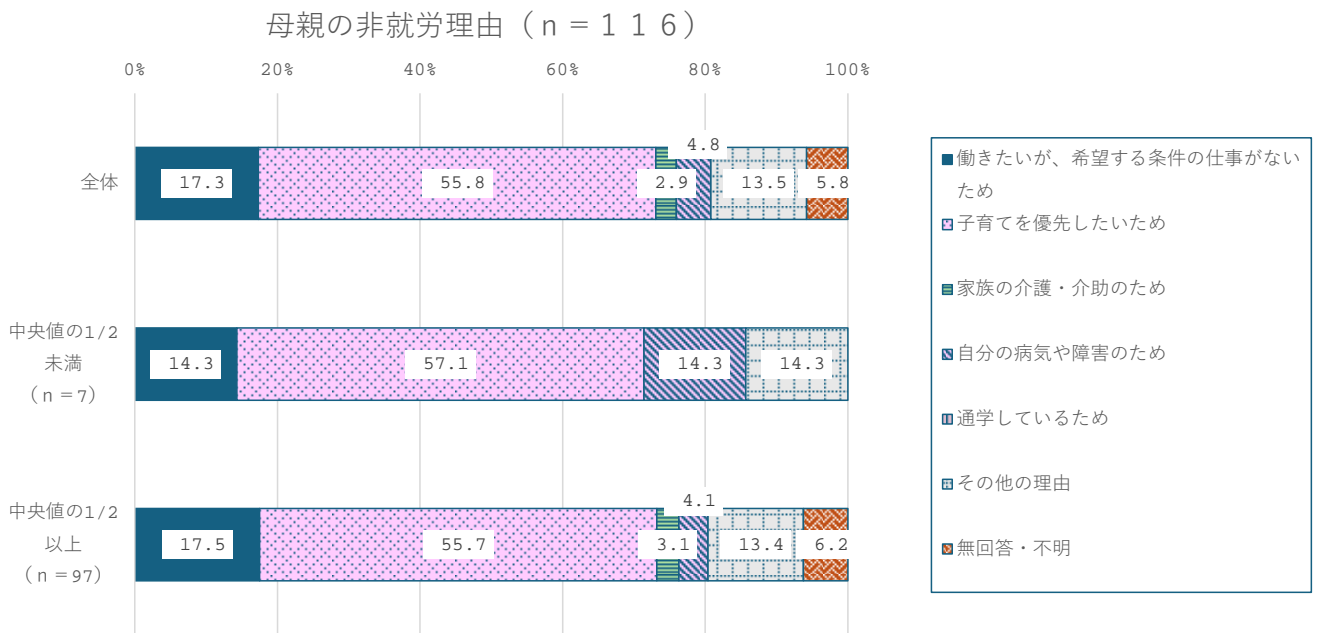
等価世帯収入別の「中央値の1/2未満」では、「子育てを優先したいため」の割合が57.1%と最も多い結果となった。

世帯の状況別の「ひとり親世帯」では、「子育てを優先したいため」の理由のみだった。

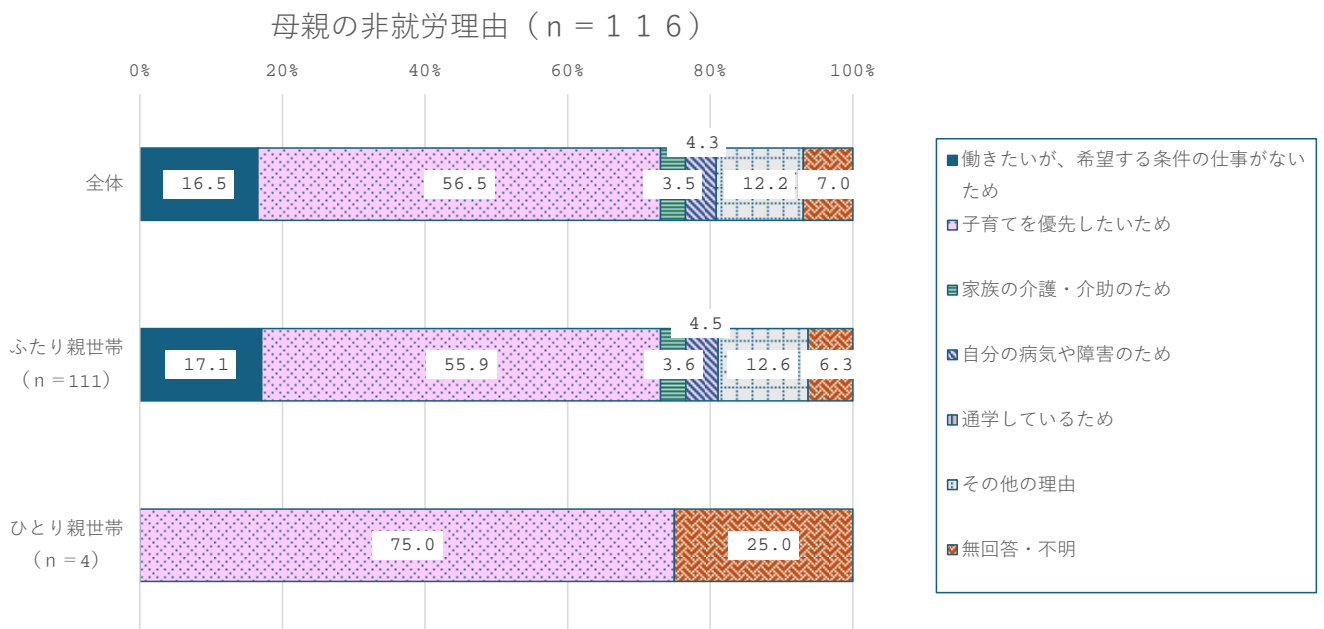
### 【全体（学年別）】



## 【等価世帯収入別】



## 【世帯の状況別】

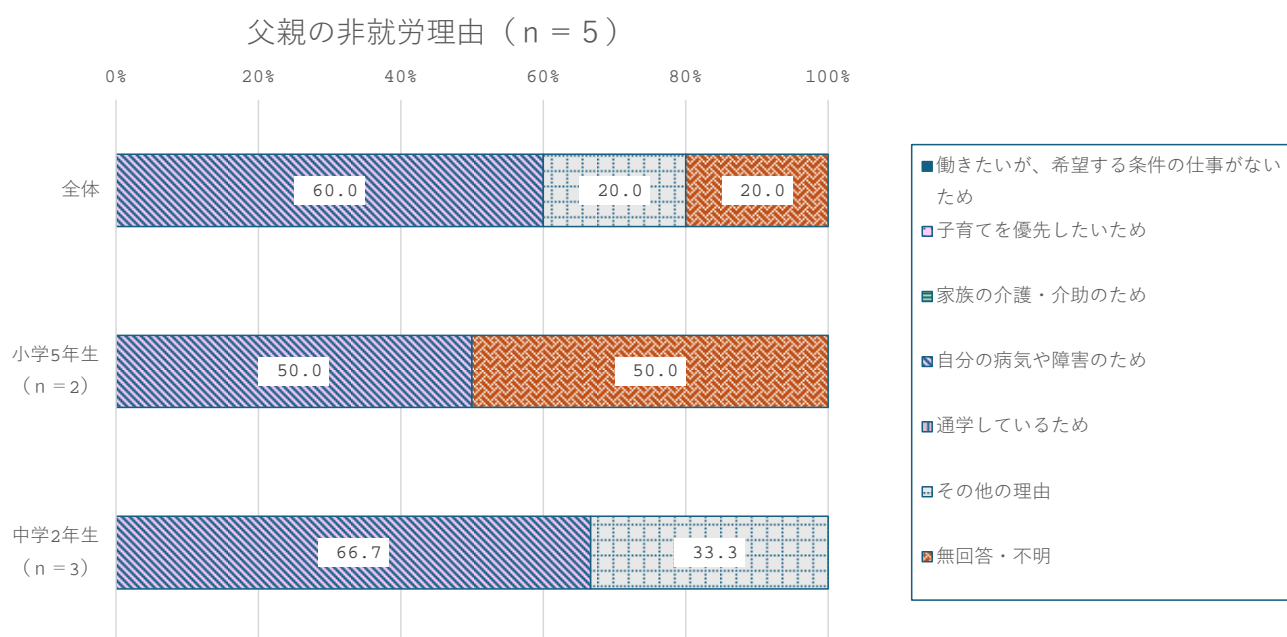


## 【父親】

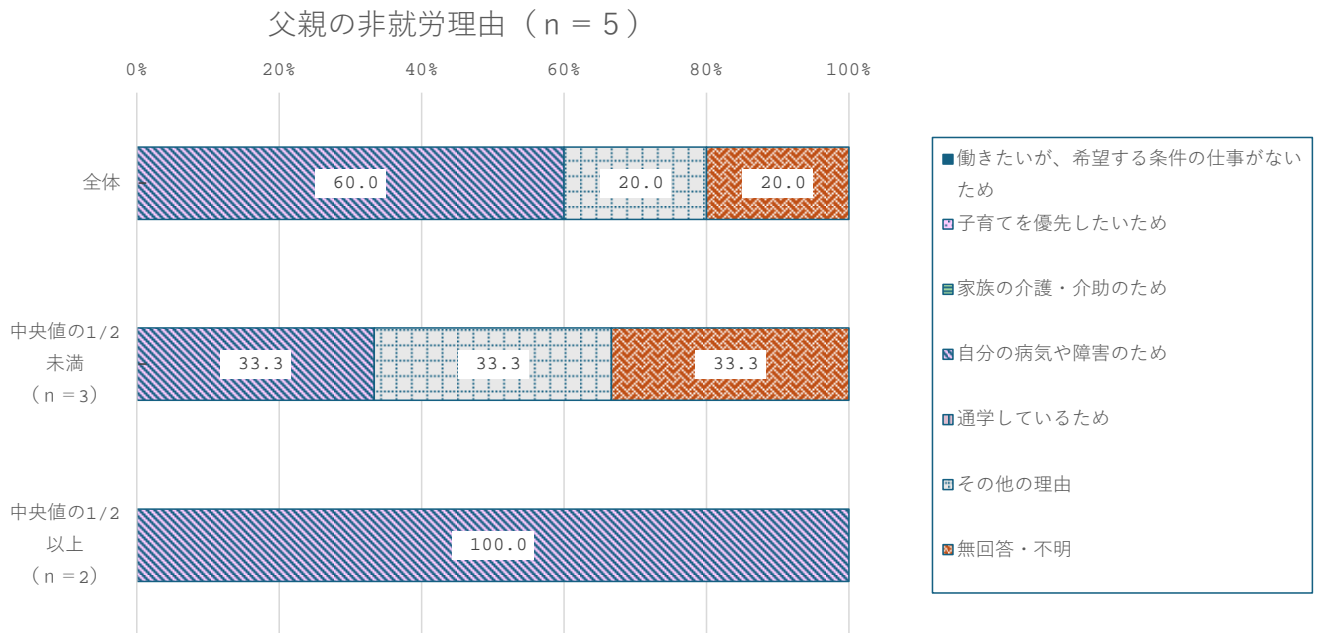
- 父親の働いていない理由としては、全体では「自分の病気や障害のため」が60.0%と最も多い割合となった。

等価世帯収入別、世帯の状況別ともに、「その他の理由」を除くと、「自分の病気や障害のため」の理由のみだった。

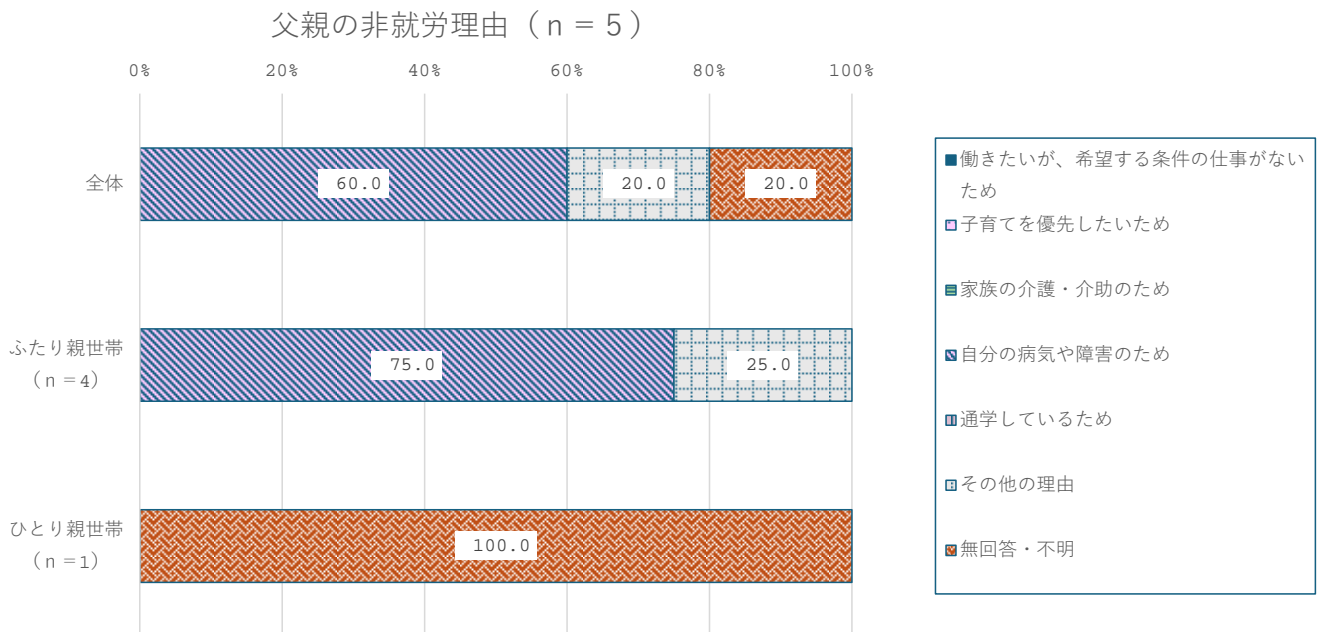
## 【全体（学年別）】



### 【等価世帯収入別】



### 【世帯の状況別】



### 3. 保育の状況

#### （1）子どもが0～2歳の時に通っていた教育・保育施設等

問 10 お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

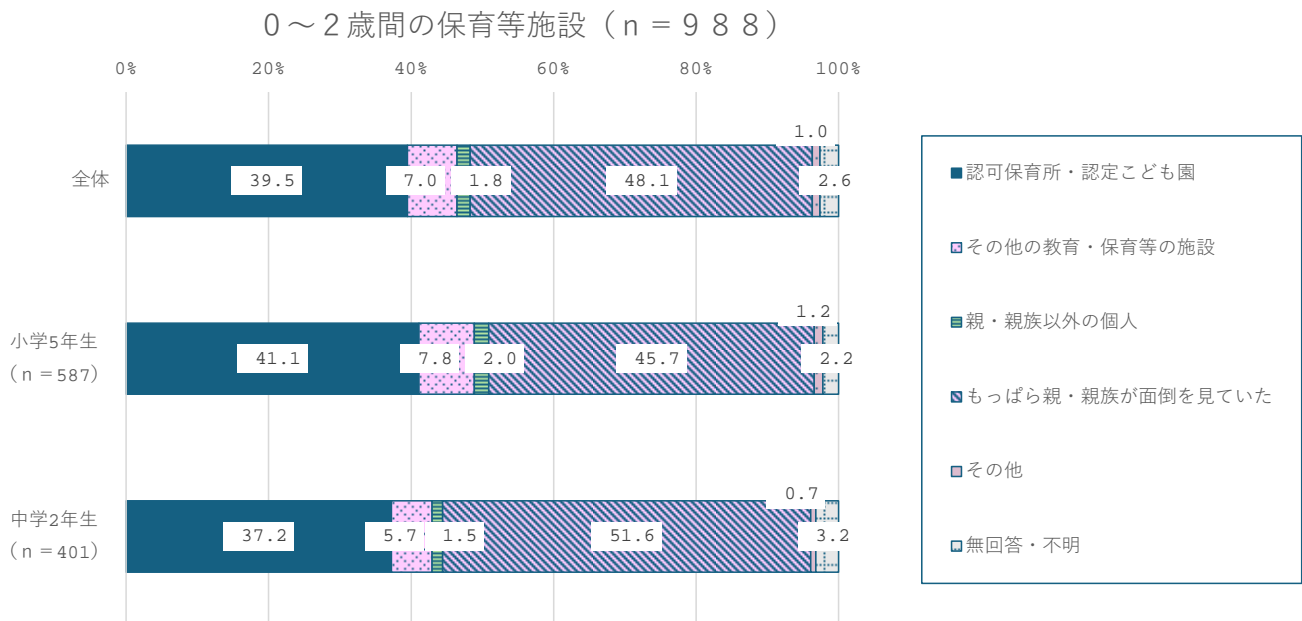
- 子どもが0～2歳の時に通っていた教育・保育施設等については、全体では、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」が48.1%で最も多く、続いて「認可保育所・認定こども園」が39.5%となった。

等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」で「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」の割合が44.6%、「認可保育所・認定こども園」の割合が39.1%となっていた。

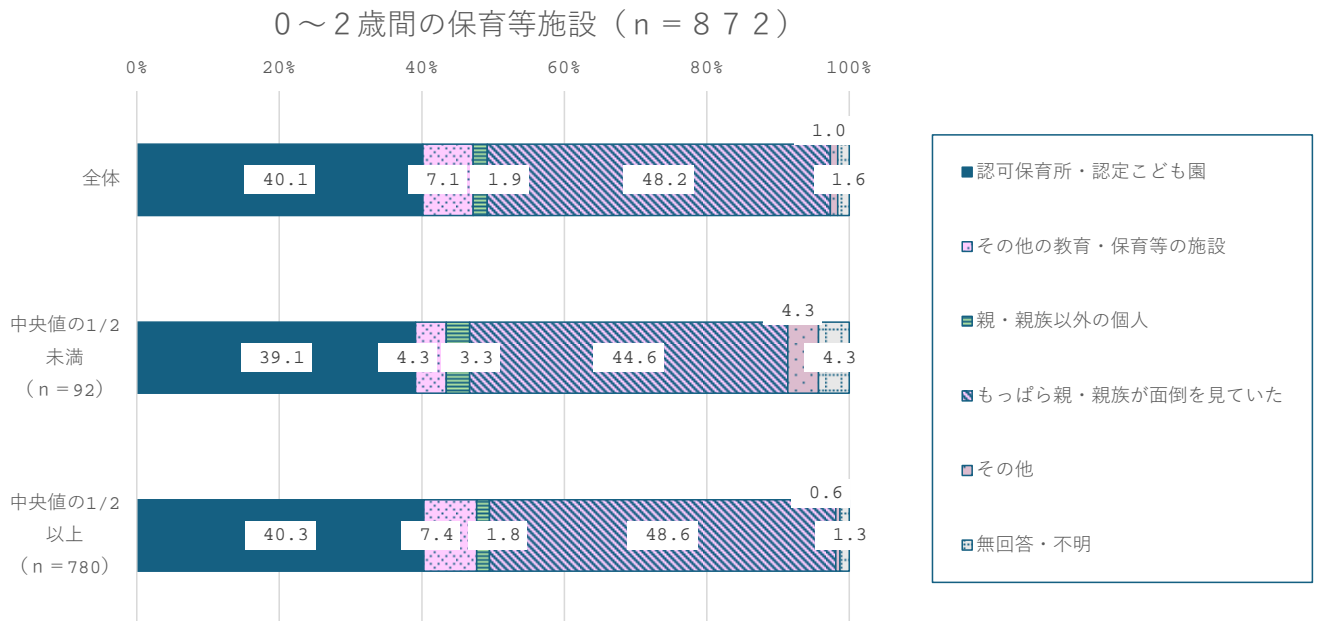
世帯の状況別の「ひとり親世帯」では、「認可保育所・認定こども園」の割合が54.3%と最も多く、続いて「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」が30.5%で多い結果となった。

「ふたり親世帯」では、「認可保育所・認定こども園」が37.9%、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」が50.8%となっており、「ひとり親世帯」と逆の結果となる傾向がみられた。

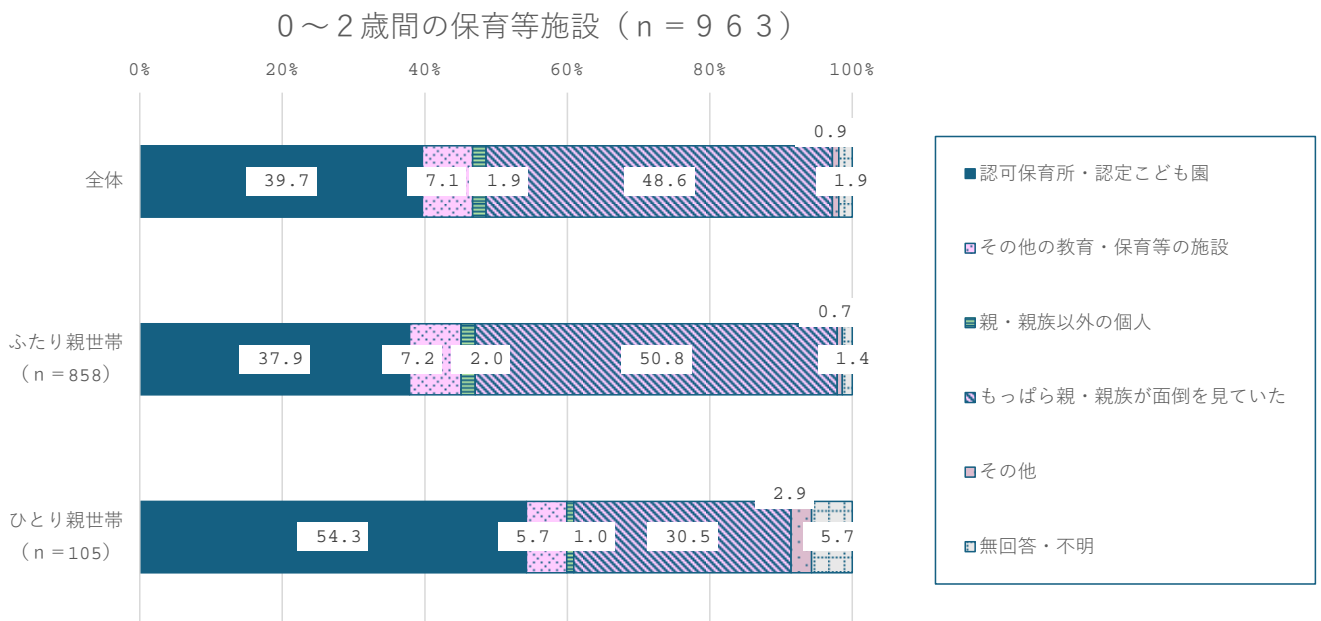
#### 【全体（学年別）】



### 【等価世帯収入別】



### 【世帯の状況別】



## （2）子どもが3～5歳の時に通っていた教育・保育施設等

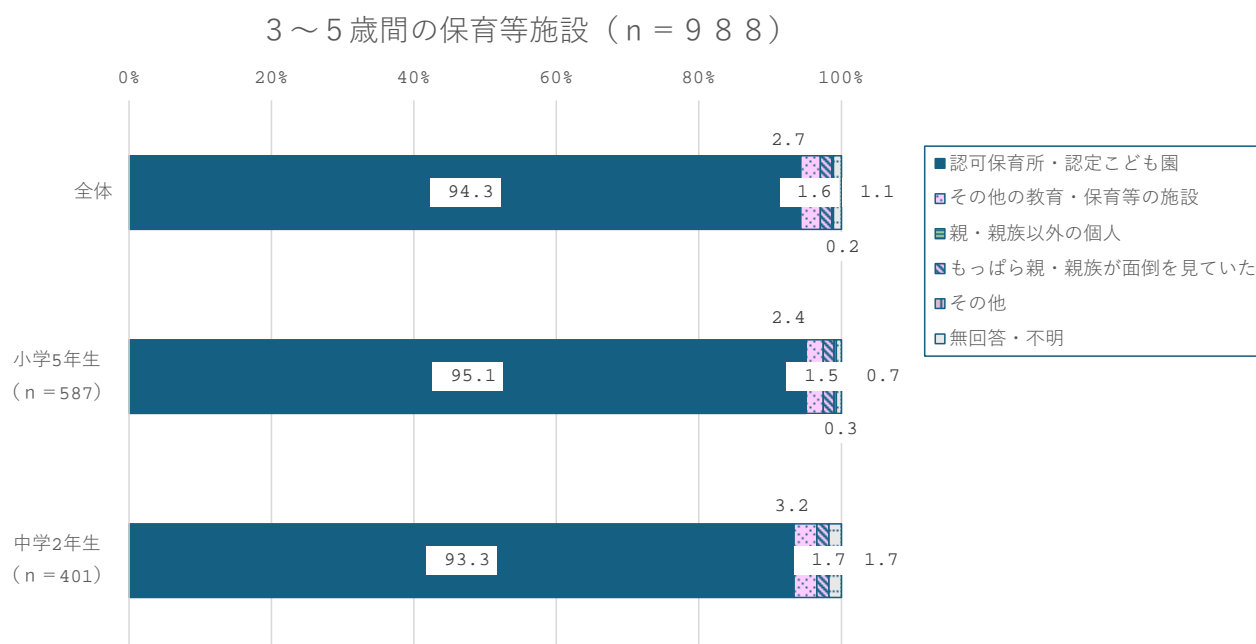
問 11 お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

- 子どもが3～5歳の時に通っていた教育・保育施設等では、「認可保育所・認定こども園」がどの層でも90%以上と多い結果となった。

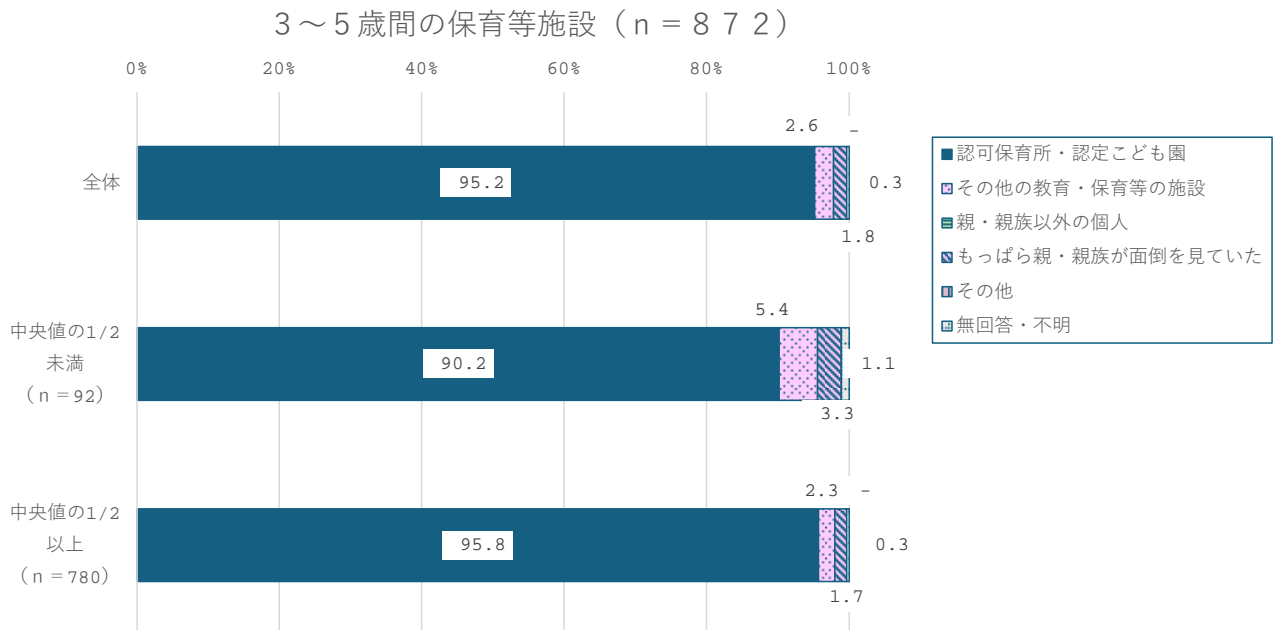
等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」が90.2%と「中央値の1/2以上」よりも少し低い結果となった。

世帯の状況別では、「ひとり親世帯」において、「ふたり親世帯」よりも若干低い結果となった。

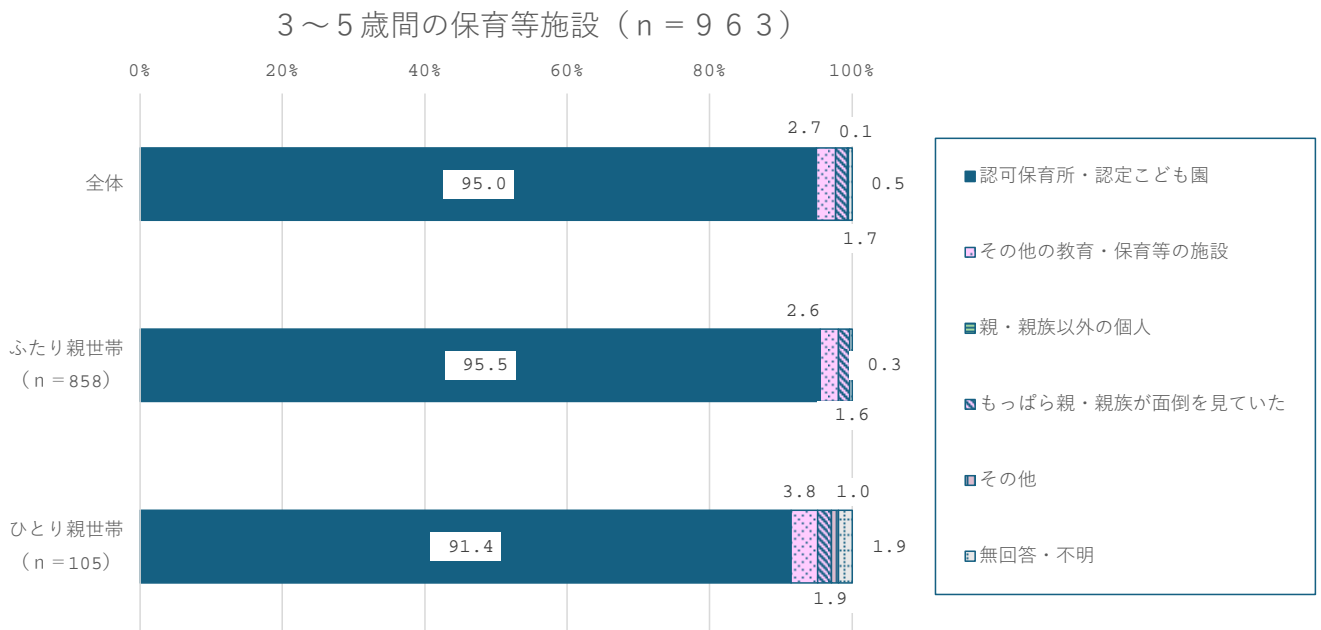
### 【全体（学年別）】



【等価世帯収入別】



【世帯の状況別】



## 4. 子どもとの関わり方

### （1）テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルール

問12 あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。（a～d それぞれについて、あてはまるもの1つに○）

#### a）テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている

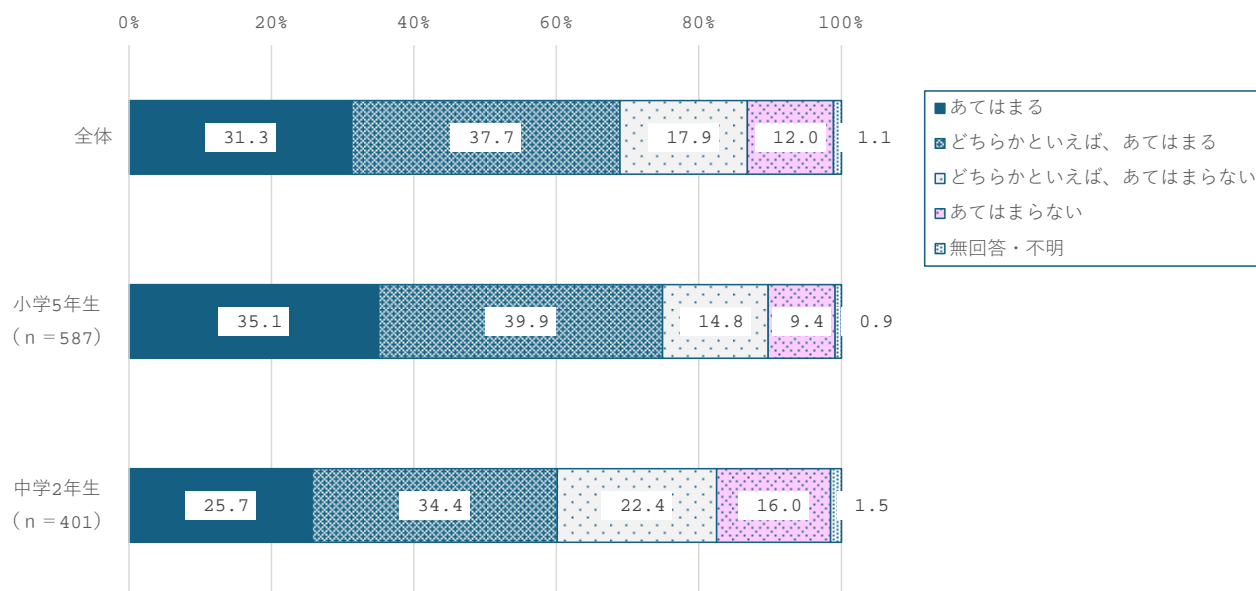
- テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールの設定については、小学5年生で「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合は75.0%で、中学2年生の60.1%よりも高い結果となり、年齢が上がるに従い、自分でルールを決めて、視聴していることが想定される。

等価世帯収入別では、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合は、「中央値の1/2未満」で55.5%、「中央値の1/2以上」で71.2%と、収入が高い方が多くなる傾向がみられた。

世帯の状況別では、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」で70.5%、「ひとり親世帯」で58.1%となった。

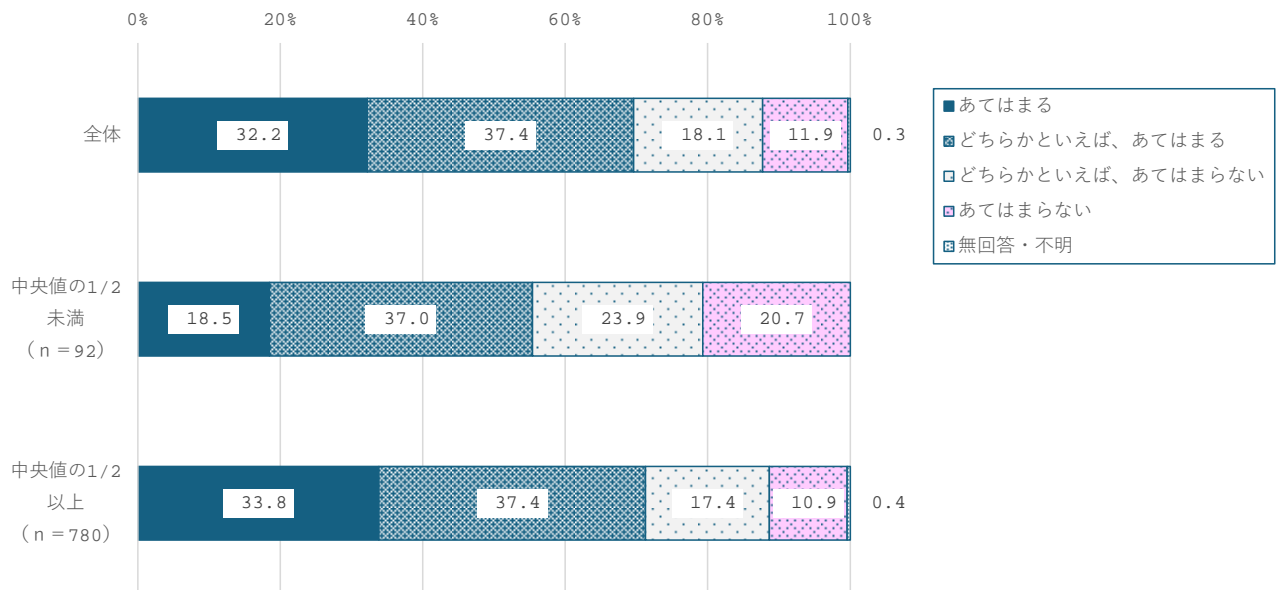
#### 【全体（学年別）】

テレビゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている（n = 988）



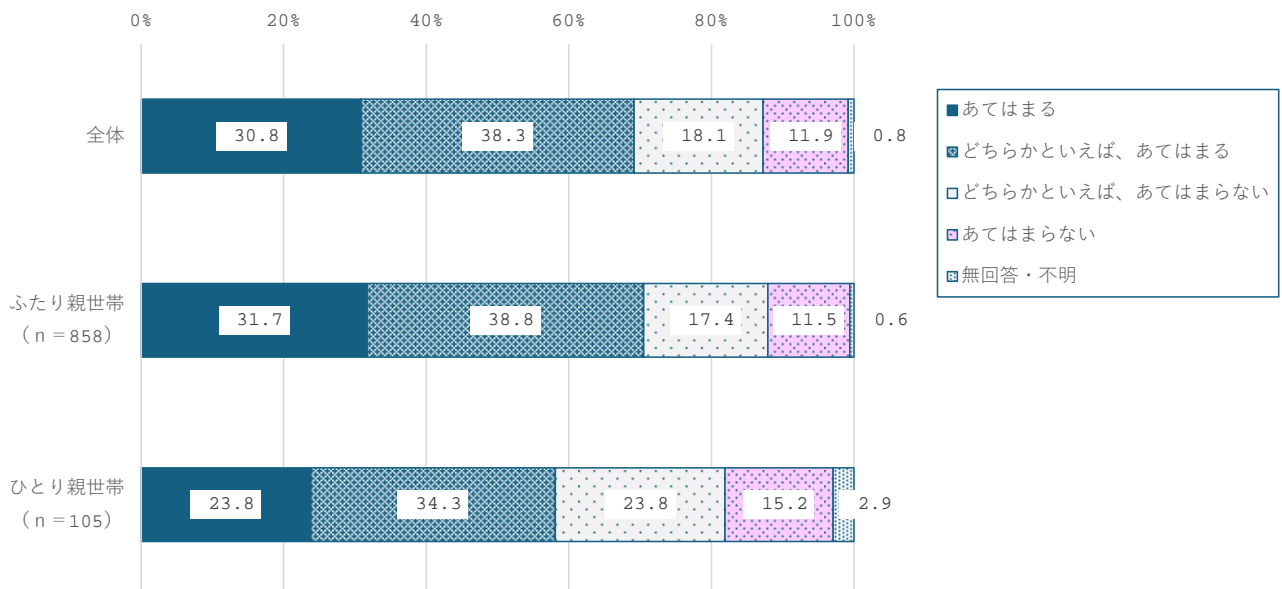
## 【等価世帯収入別】

テレビゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている（n = 872）



## 【世帯の状況別】

テレビゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている（n = 963）



## （2）本や新聞を読むことについて

問12 あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。（a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

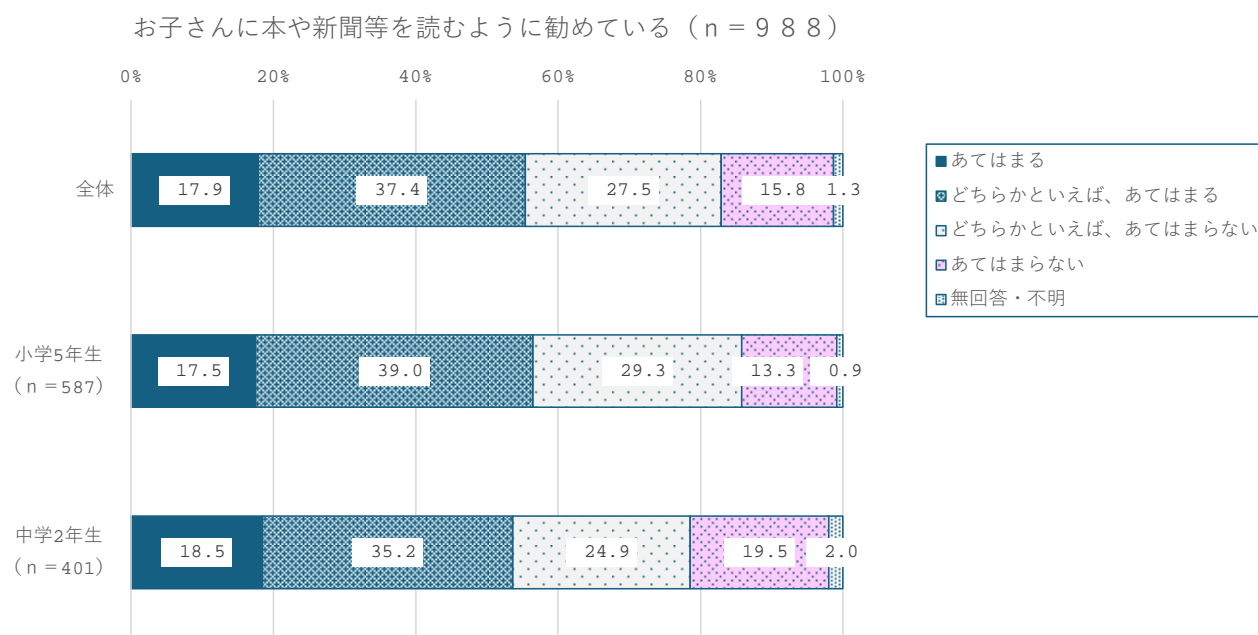
### b）お子さんに本や新聞を読むように勧めている

- 子どもへの本や新聞を読むことの勧めについては、全体では、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合は55.3%、「あてはまらない」、「どちらかといえばあてはまらない」を合わせた割合が43.3%と、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合が若干多い結果となった。

等価世帯収入別では、（1）テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルール同様に、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合が「中央値の1/2未満」で33.7%、「中央値の1/2以上」で58.1%と、収入が高い方が多くなる傾向がみられた。

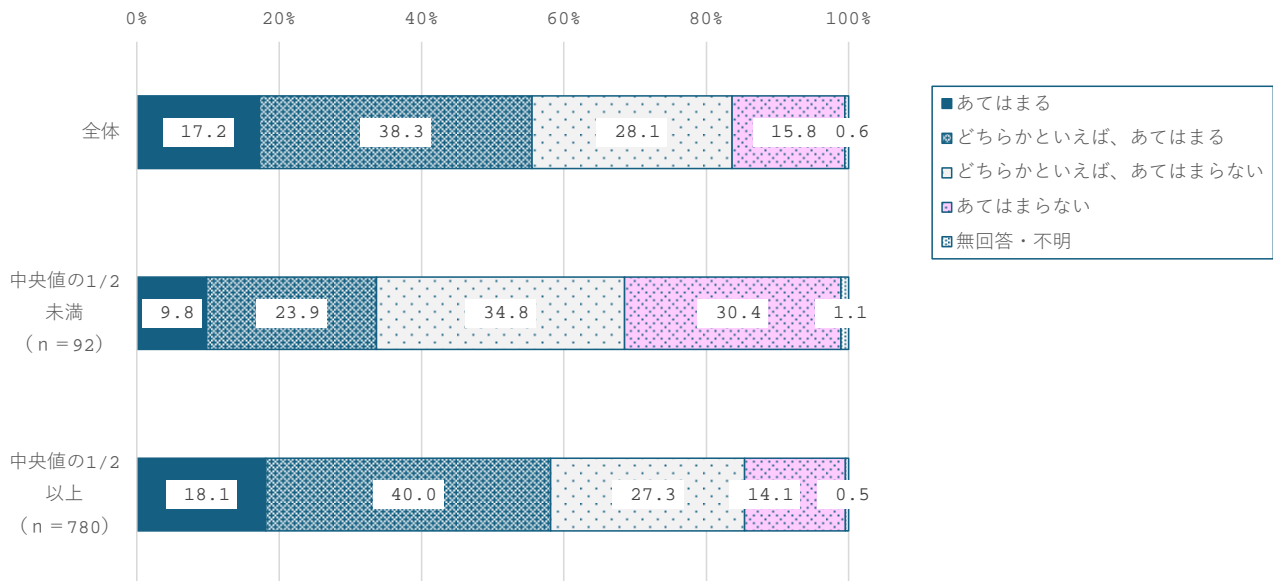
世帯の状況別でも、（1）テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルール同様に、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」で57.5%、「ひとり親世帯」で40.9%と、「ふたり親世帯」が「ひとり親世帯」に比べ多い結果となった。

### 【全体（学年別）】



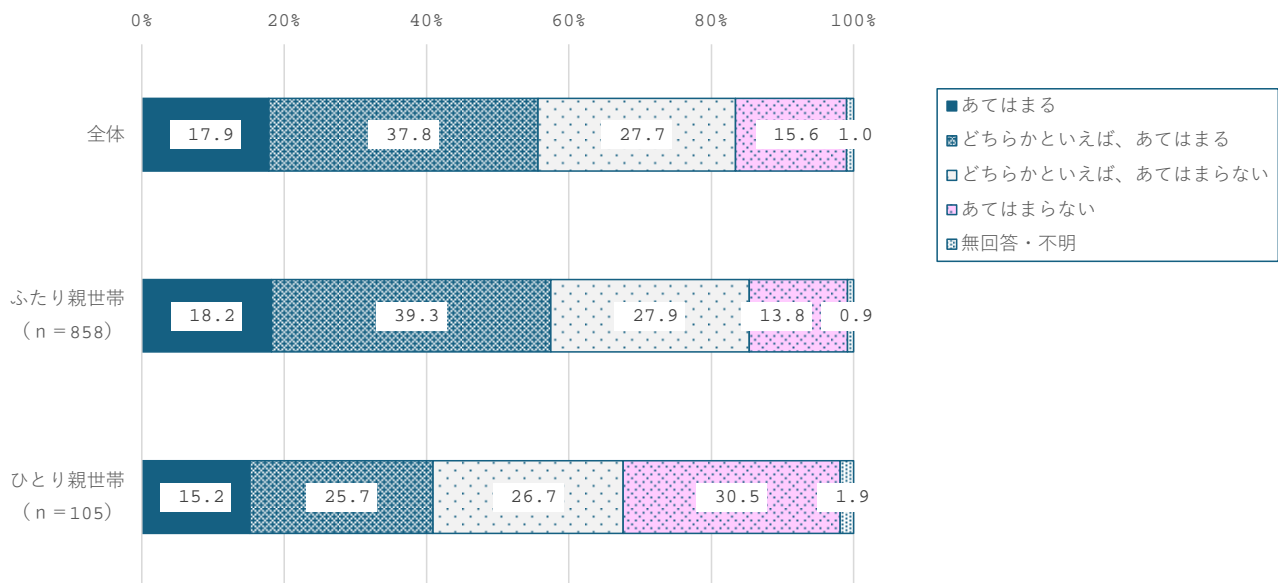
## 【等価世帯収入別】

お子さんに本や新聞等を読むように勧めている (n = 872)



## 【世帯の状況別】

お子さんに本や新聞等を読むように勧めている (n = 963)



### （3）絵本の読み聞かせについて

問12 あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。（a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

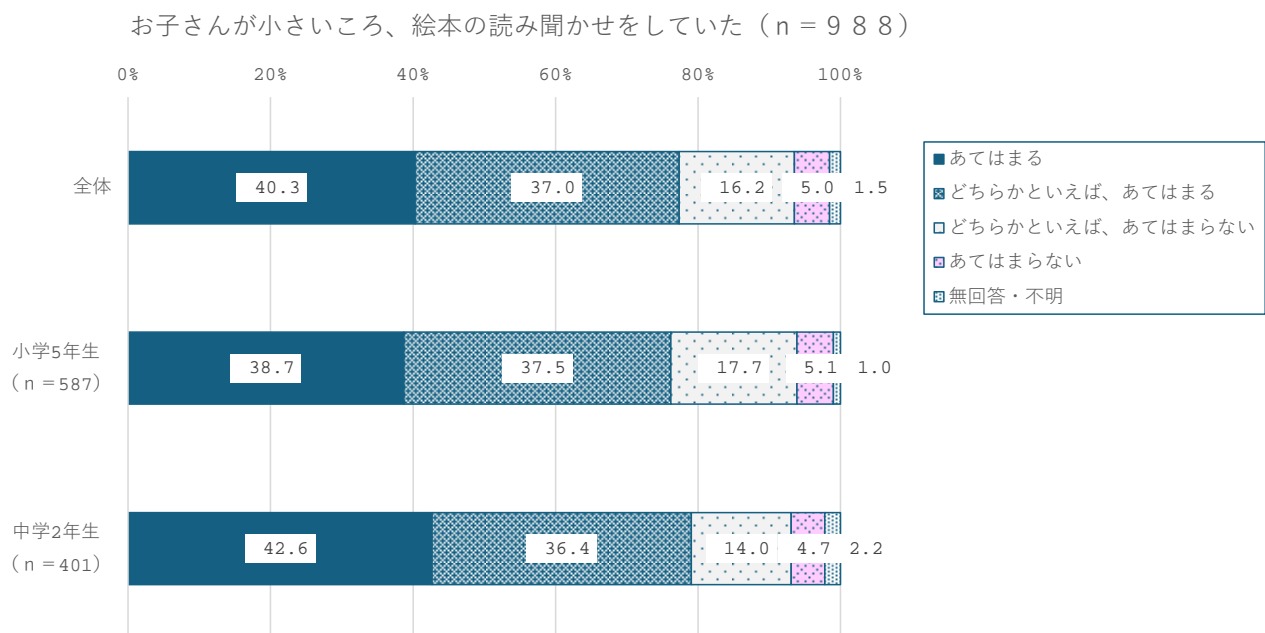
c）お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた。

- 子どもが小さいころの読み聞かせについては、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合が、小学5年生で76.2%、中学2年生で79.0%とほぼ同じで、学年による差はみられなかった。

等価世帯収入別では、（1）テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルール同様に、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合が「中央値の1/2未満」で66.3%、「中央値の1/2以上」で79.9%と、収入が高い方が多くなる傾向がみられた。

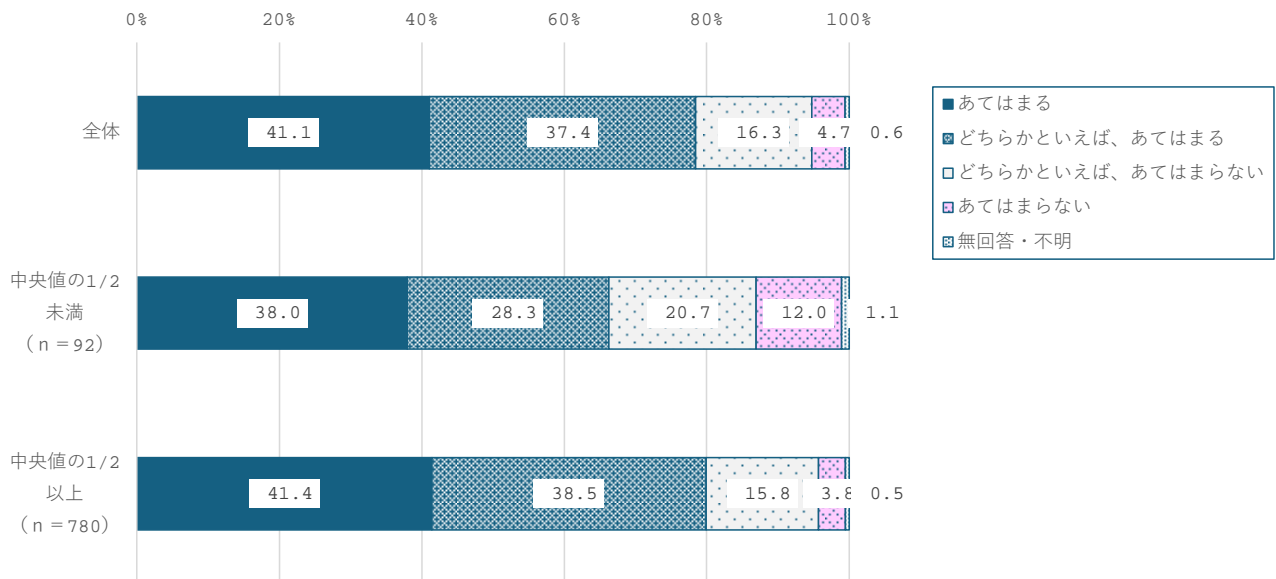
世帯の状況別でも、（1）テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルール同様に、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」で79.3%、「ひとり親世帯」で67.6%と、「ふたり親世帯」が「ひとり親世帯」に比べ多い結果となった。

#### 【全体（学年別）】



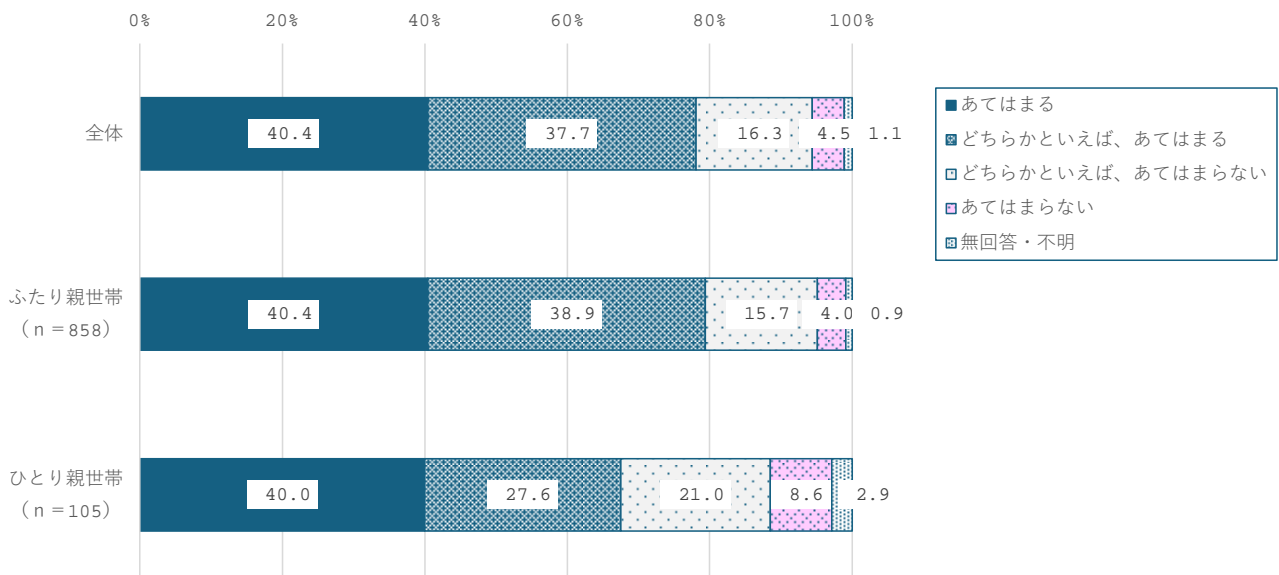
## 【等価世帯収入別】

お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた（n = 872）



## 【世帯の状況別】

お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた（n = 963）



#### （4）勉強や成績の話について

問12 あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。（a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

##### d）お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる

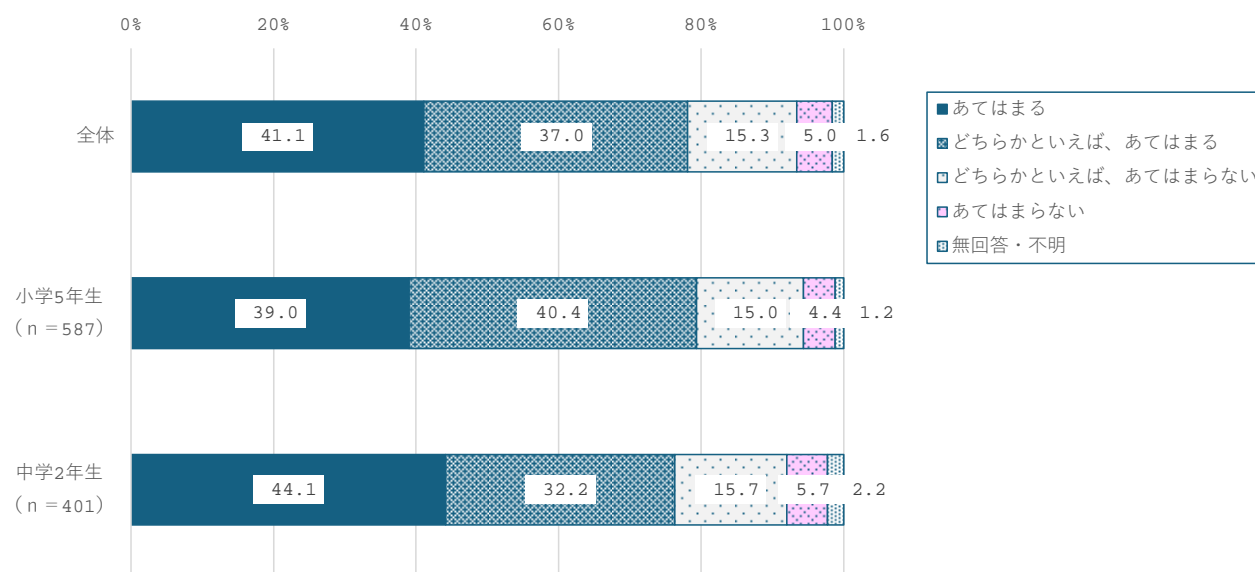
- 子どもからの勉強や成績についての話がけについては、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合が、小学5年生で79.4%、中学2年生で76.3%と、小学5年生が若干多い割合となった。

等価世帯収入別では、（1）テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルール同様に、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合が「中央値の1/2未満」で66.3%、「中央値の1/2以上」で81.1%と、収入が高い方が多くなる傾向がみられた。

世帯の状況別でも、（1）テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルール同様に、「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」で80.1%、「ひとり親世帯」で67.6%と、「ふたり親世帯」が「ひとり親世帯」に比べ多い結果となった。

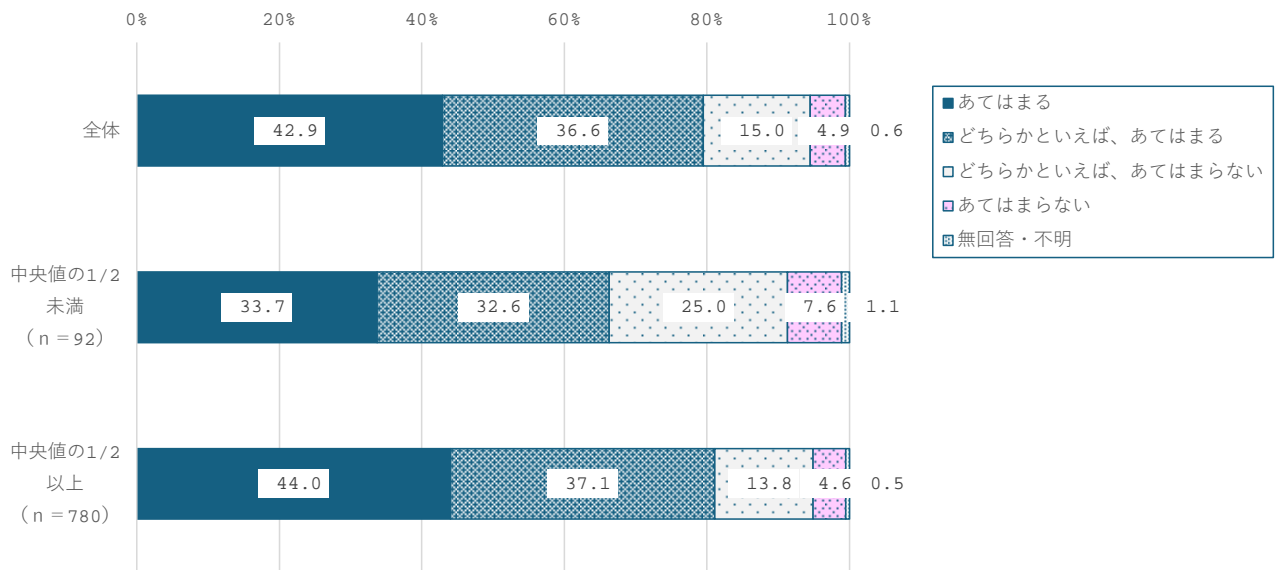
#### 【全体（学年別）】

お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる（n = 988）



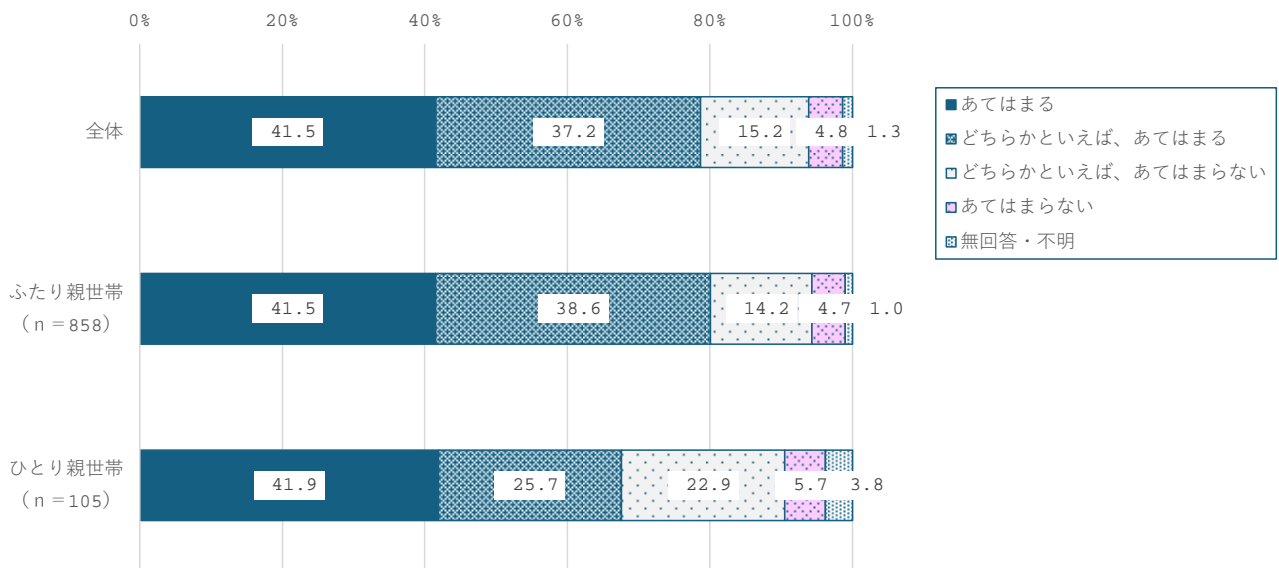
## 【等価世帯収入別】

お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる (n = 872)



## 【世帯の状況別】

お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる (n = 963)



## 5. 学校との関わり・参加

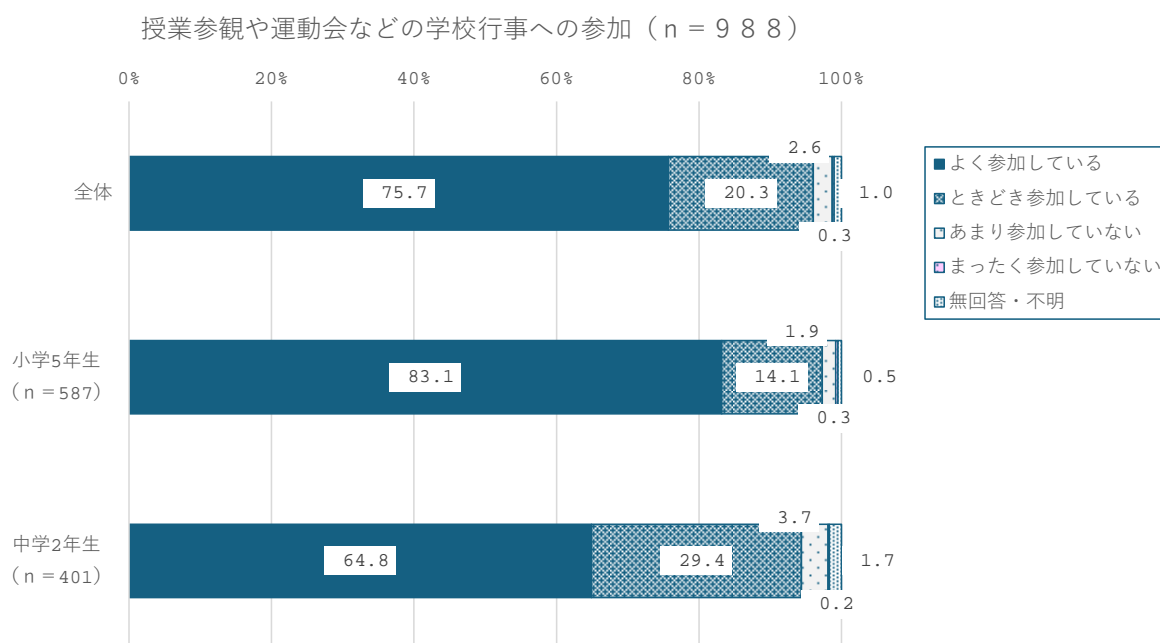
### （1）学校行事への参加

問13 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。（a、b それぞれについて、あてはまるもの1つに○）

#### a）授業参観や運動会などの学校行事への参加

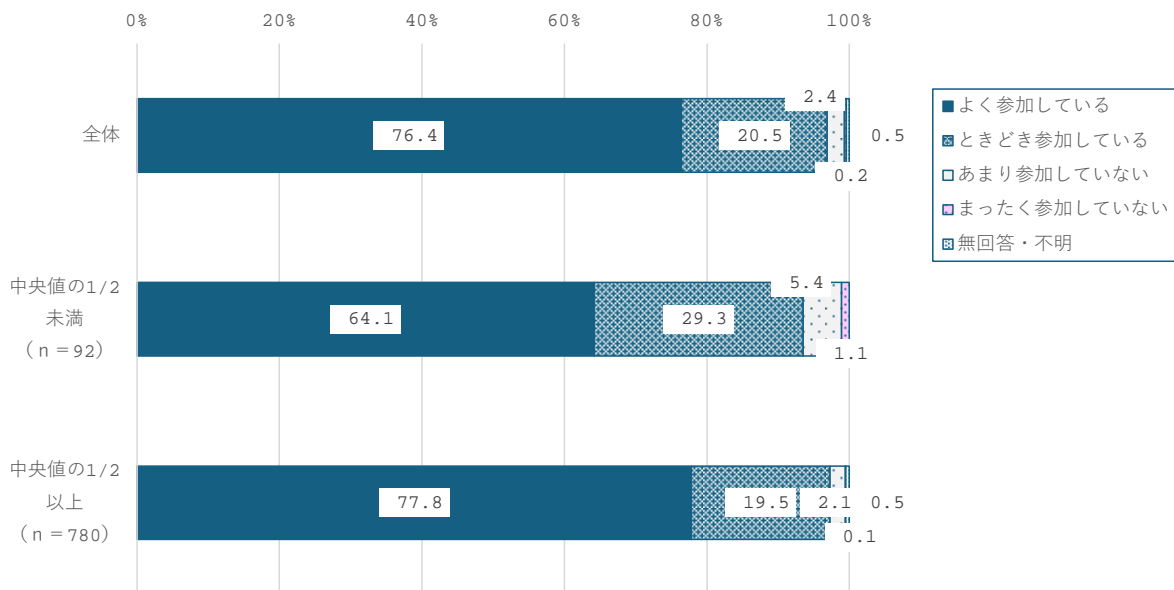
- 学校行事への参加については、全体、等価世帯収入別および世帯の状況別では、どの層も「よく参加している」と「ときどき参加している」を合わせた割合が90%以上と、多い結果になっていた。

#### 【全体（学年別）】



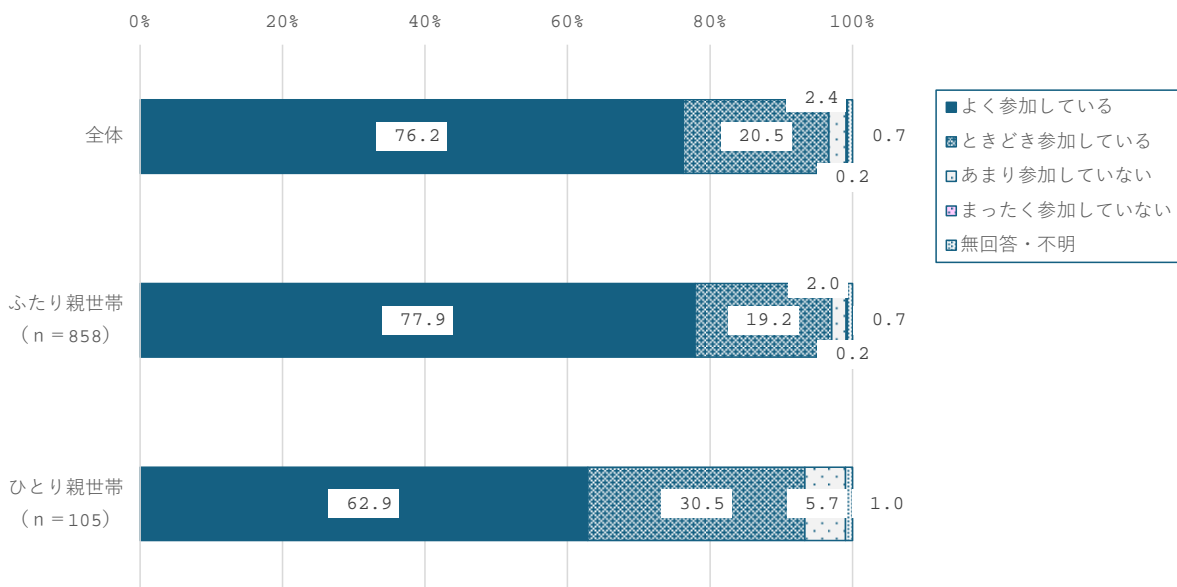
## 【等価世帯収入別】

授業参観や運動会などの学校行事への参加 (n = 872)



## 【世帯の状況別】

授業参観や運動会などの学校行事への参加 (n = 963)



## （2）PTA活動への参加

問13 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。（a、b それぞれについて、あてはまるもの1つに○）

### b）PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加

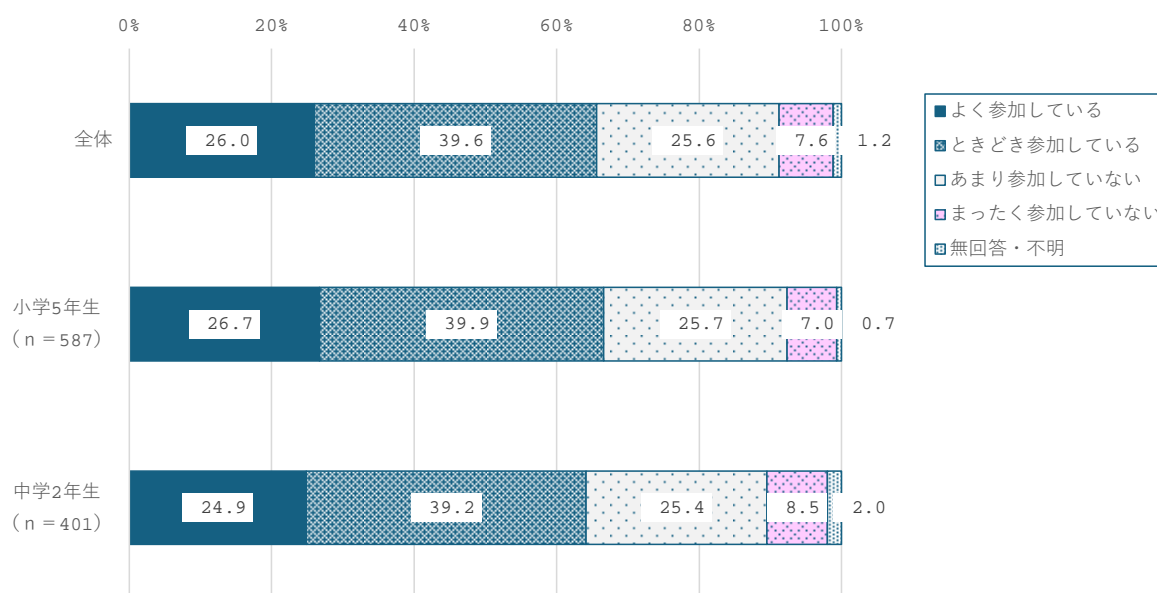
- PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加については、全体では「よく参加している」が26.0%、「ときどき参加している」が39.6%となっており、合わせた割合は65.6%となっていた。

等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」では「よく参加している」が20.7%、「ときどき参加している」が30.4%で、「中央値の1/2以上」では、「よく参加している」が26.5%。「ときどき参加している」が41.5%と、収入が高い方が多くなる傾向がみられた。

世帯の状況別では、「ひとり親世帯」で「よく参加している」は26.7%、「ときどき参加している」は41.6%となっており、合わせた割合は68.3%だった。

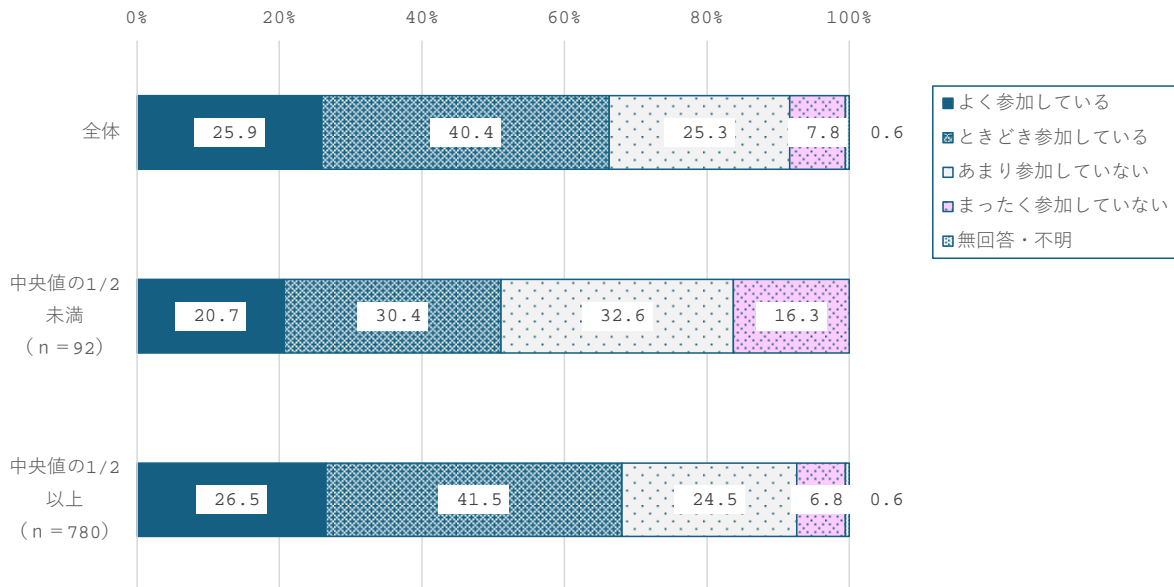
### 【全体（学年別）】

PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加（n = 988）



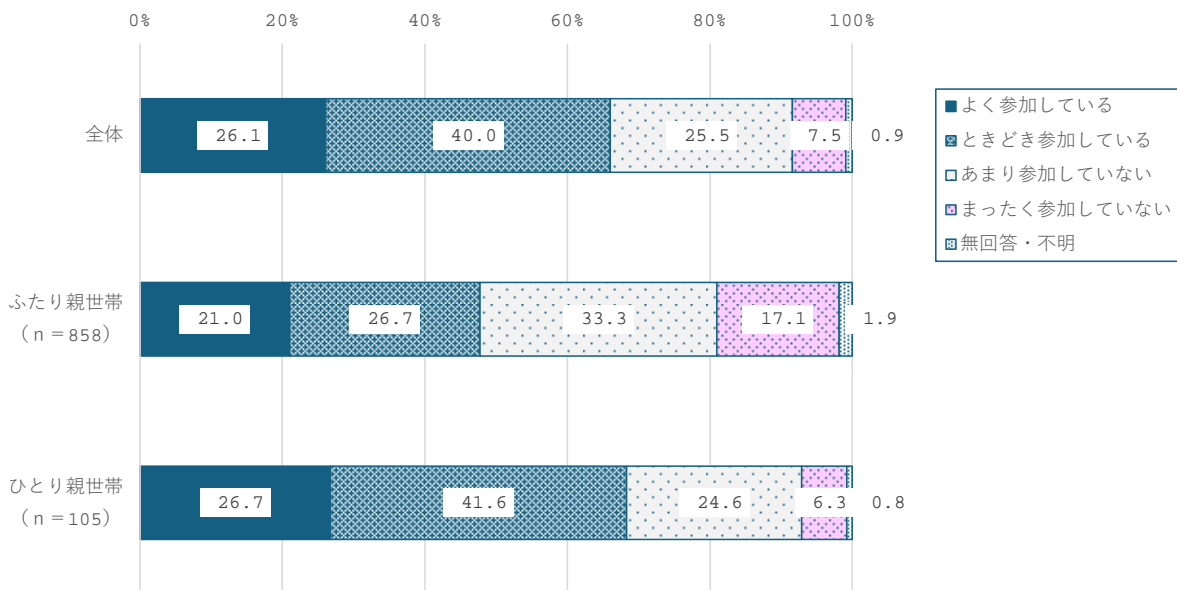
## 【等価世帯収入別】

P T A 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加 (n = 872)



## 【世帯の状況別】

P T A 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加 (n = 963)



## 6. 子どもに対する進学期待・展望

### （1）子どもの進学段階に関する希望・展望

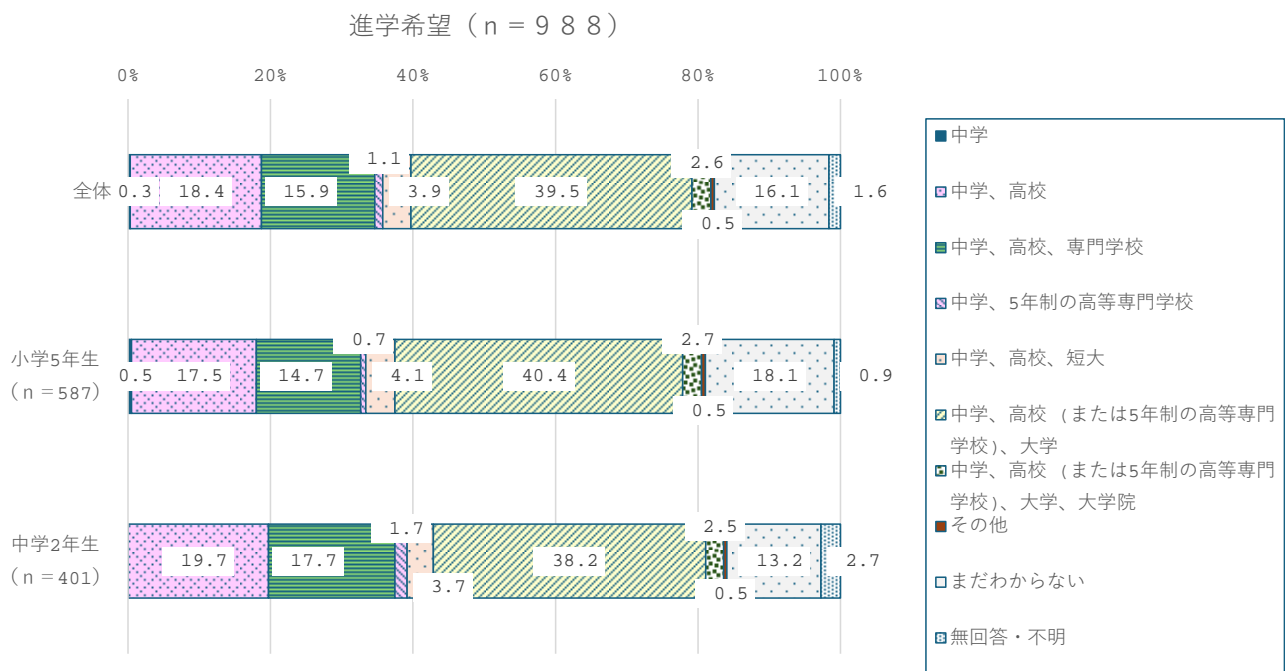
問14 お子さんは将来、現実的に見てどの学校に進学すると思いますか。（あてはまるものひとつに○）

- 子どもの進学への期待、展望については、全体では、「大学まで」が39.5%と最も多く、続いて「高校まで」（18.4%）、「専門学校まで」（15.9%）となった。

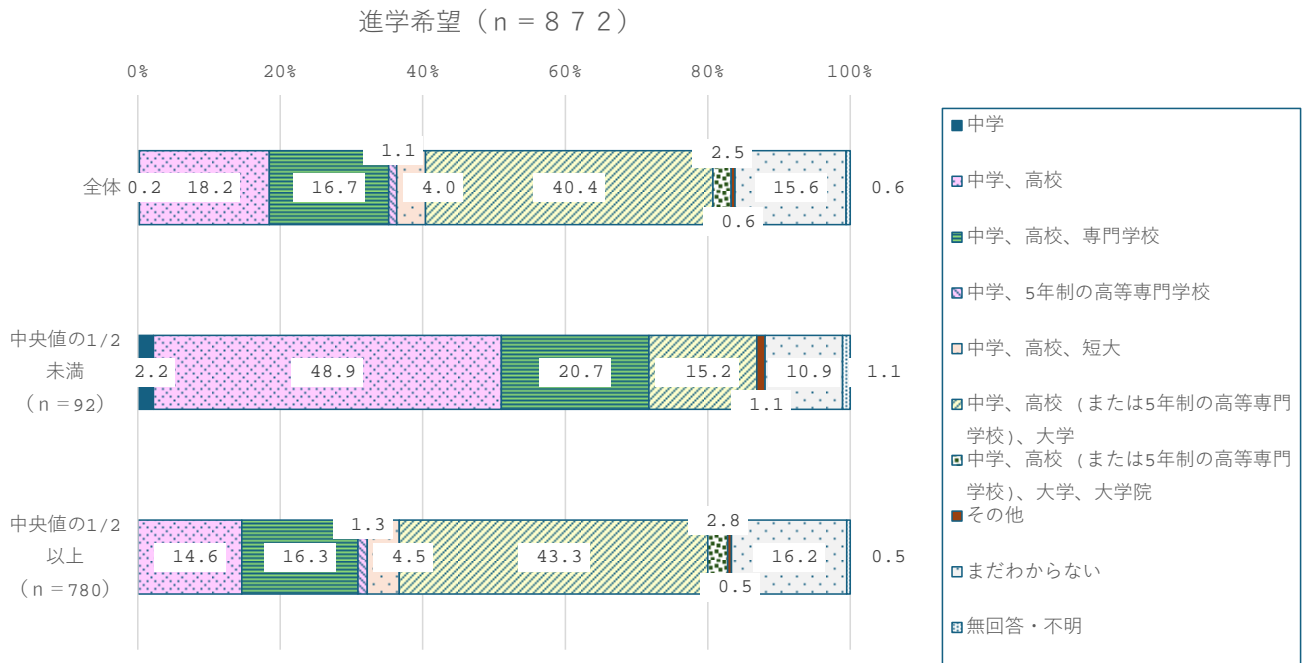
等価世帯収入別では、「中央値の1/2未満」は「高校まで」が48.9%と最も多く、「中央値の1/2以上」は「大学まで」が43.3%と最も多い結果となっていた。

世帯の状況別では、「ひとり親世帯」では「高校まで」が40.0%、「大学まで」が21.0%、「専門学校まで」が18.1%となった。また、「ふたり親世帯」では「大学まで」が42.5%、「高校まで」および「専門学校まで」が15.7%だった。

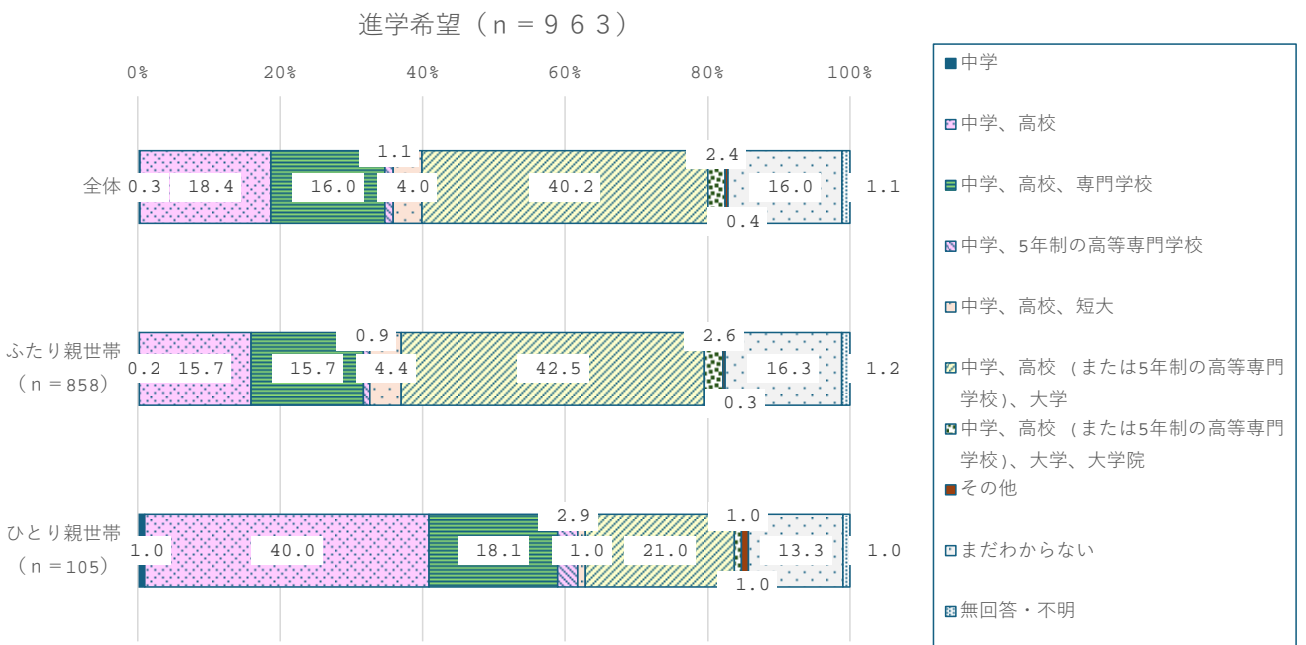
#### 【全体（学年別）】



## 【等価世帯収入別】



## 【世帯の状況別】



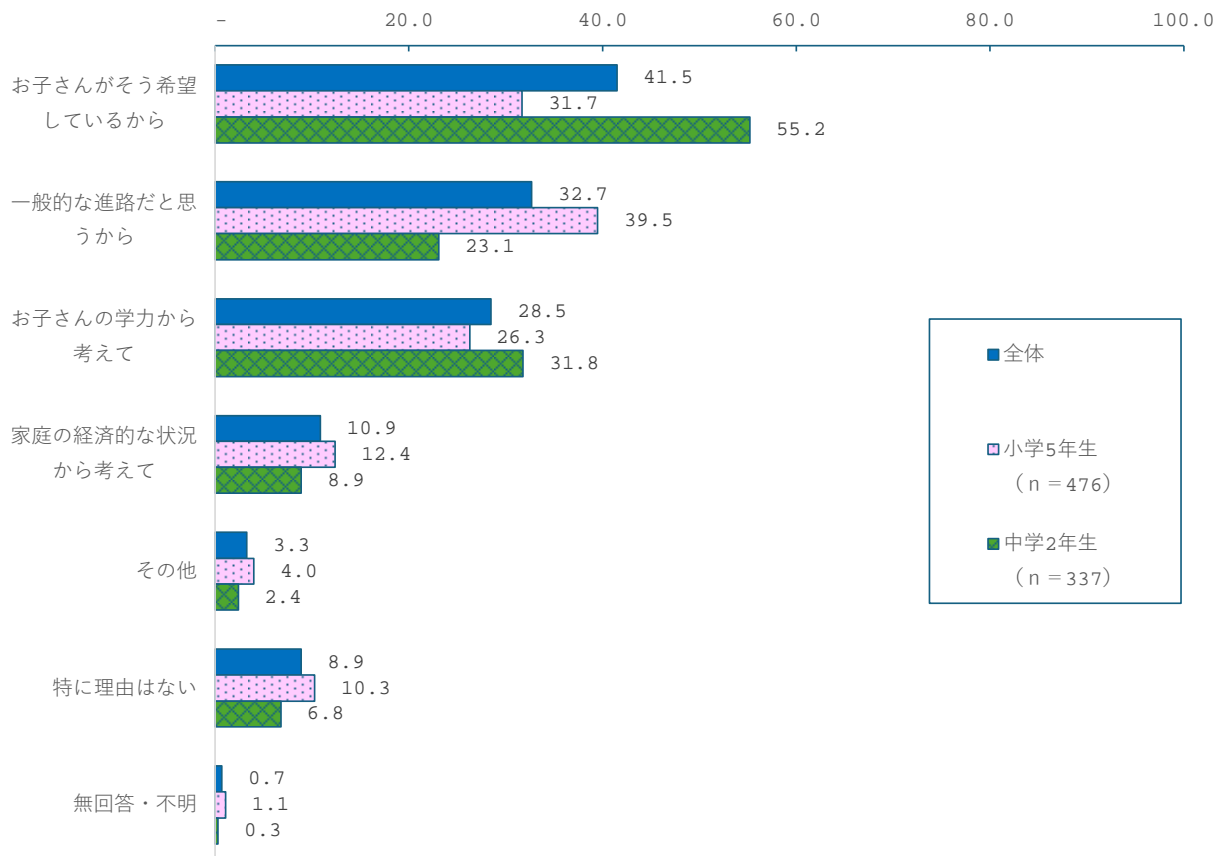
## （2）進学段階に関する希望・展望についてそう考える理由

問15 前問で1～8と答えた場合、その理由は何ですか。（1～5については、あてはまるものすべてに○）

- 進学の段階への希望・展望の理由については、全体では、「お子さんがそう希望しているから」が41.5%と最も多く、続いて「一般的な進路だと思うから」（32.7%）、「お子さんの学力から考えて」（28.5%）となった。  
等価世帯収入別の「中央値の1/2未満」、世帯状況別の「ひとり親世帯」においては、理由として、「家庭の経済的な状況を考えて」が15%以上となった。

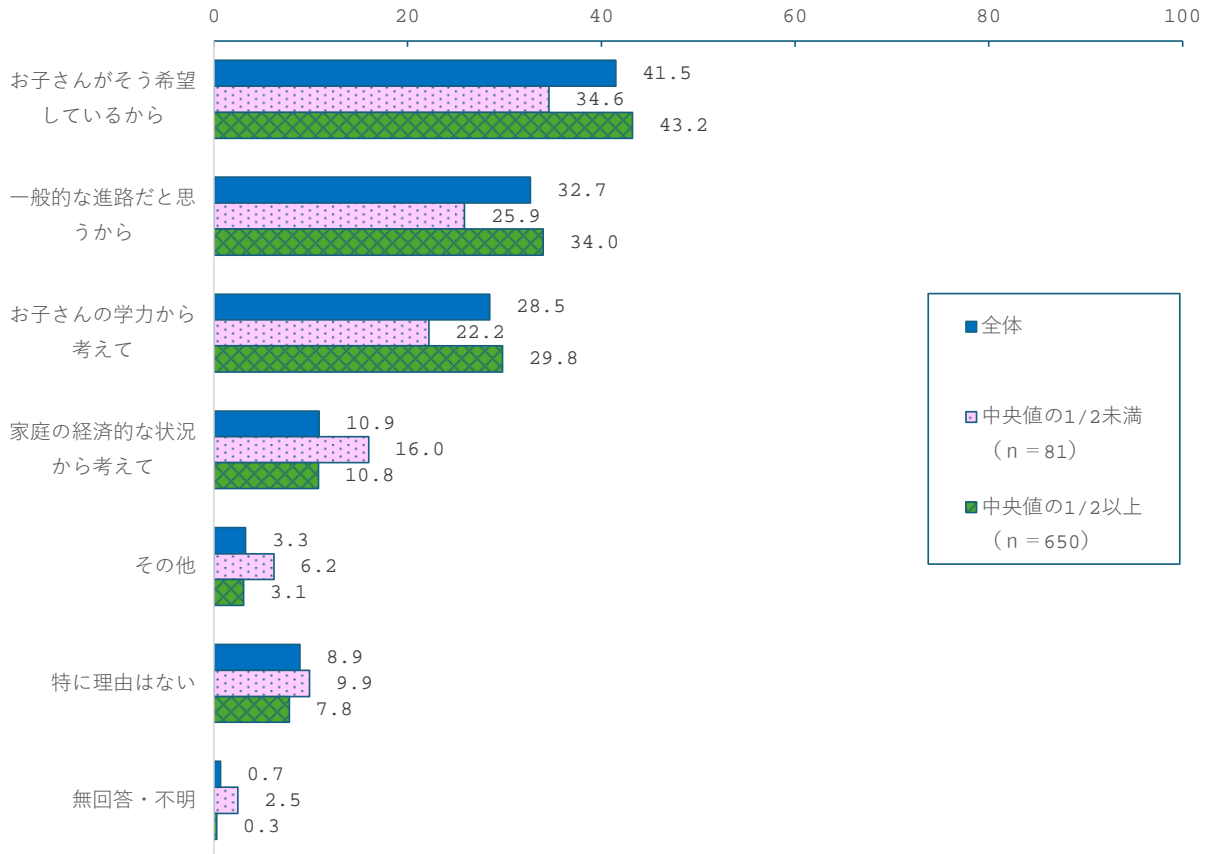
### 【全体（学年別）】

進学させたい理由（n = 813）



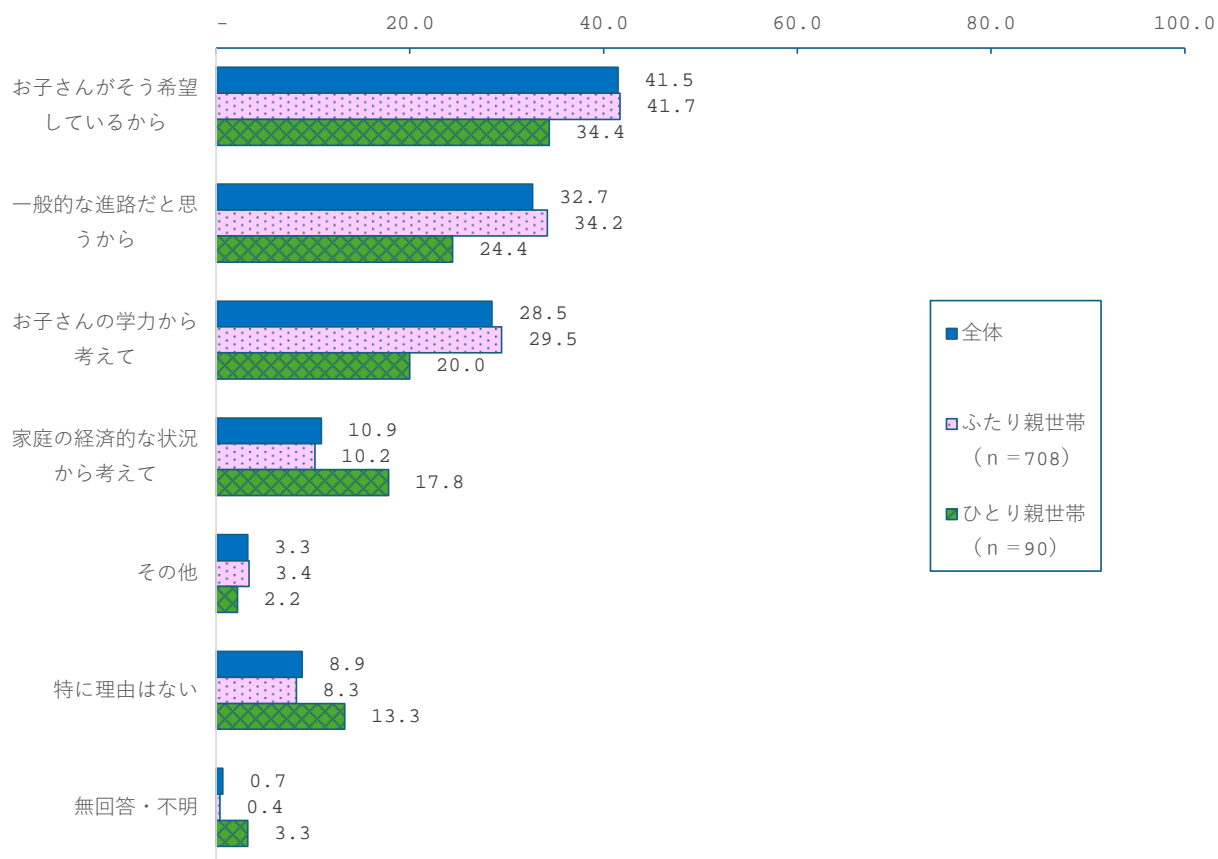
【等価世帯収入別】

進学させたい理由 (n = 731)



【世帯の状況別】

進学させたい理由（n = 326）



## 7. 頼れる人の有無・相手

### (1) 子育てに関する相談

問 16 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(a～c それぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)

また、「1 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。(①～⑦のあてはまるものすべてに○)

#### a) 子育てに関する相談

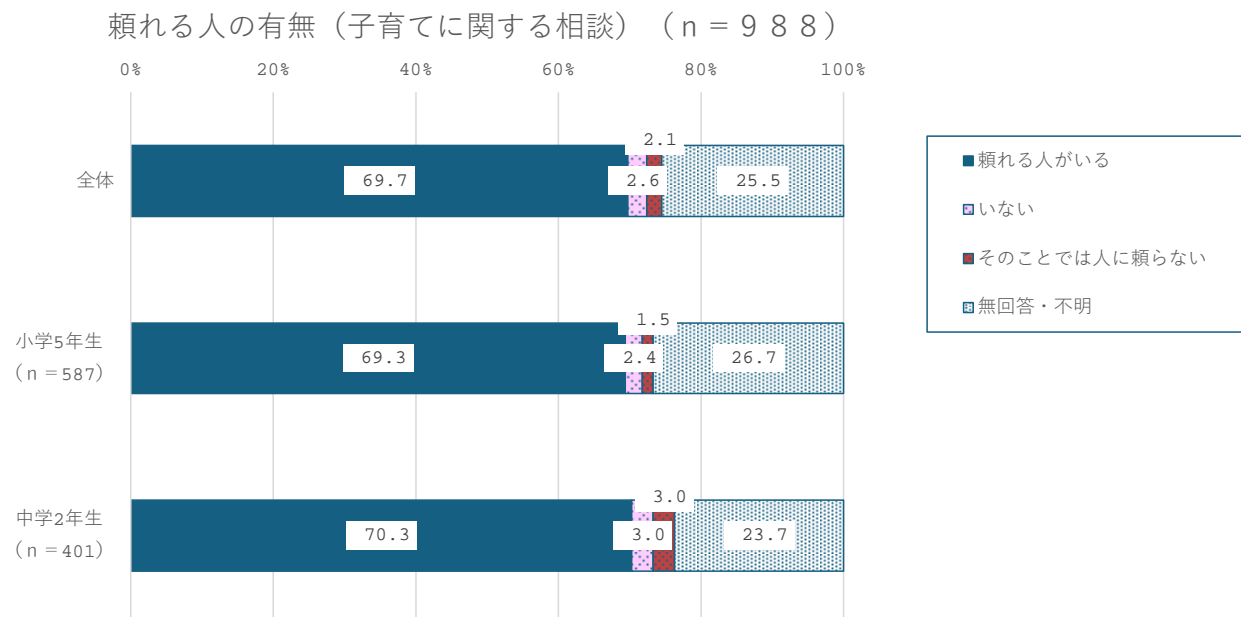
##### 【相手の有無】

- 子育てに関する相談の頼れる相手の有無について、全体では「頼れる人がいる」は約 70%だった。

等価世帯収入別では、「頼れる人はいる」の割合は世帯収入が高い方が割合も高くなった。

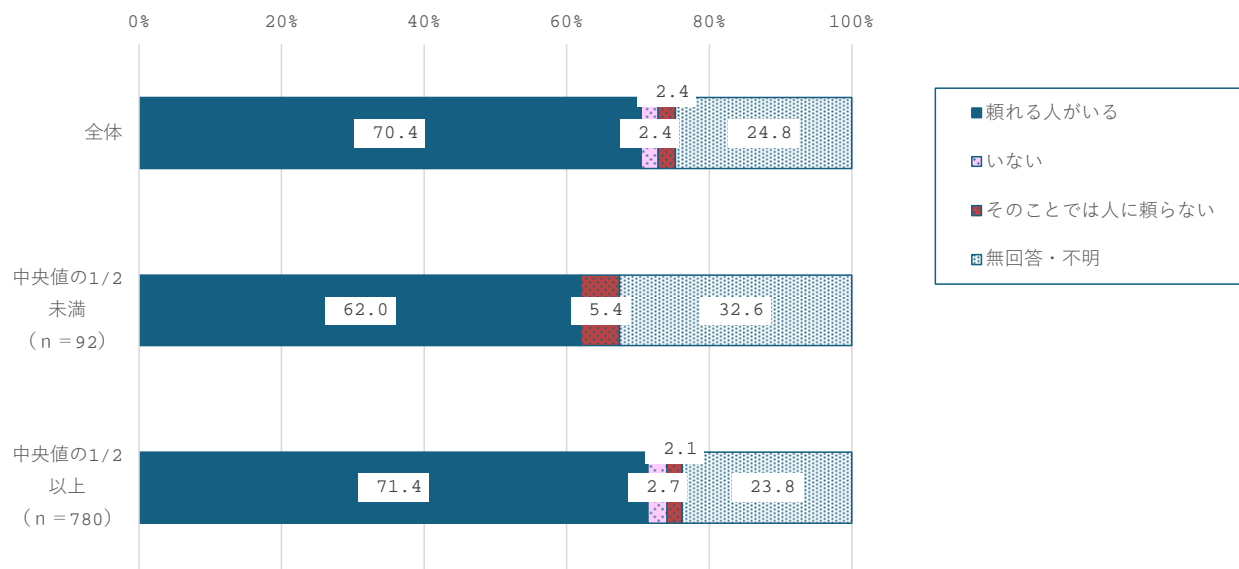
また、世帯の状況別では、「頼れる人はいる」の割合は「ふたり親世帯」で 71.4%、「ひとり親世帯」で 58.1%と大きな差がみられた。

##### 【全体（学年別）】



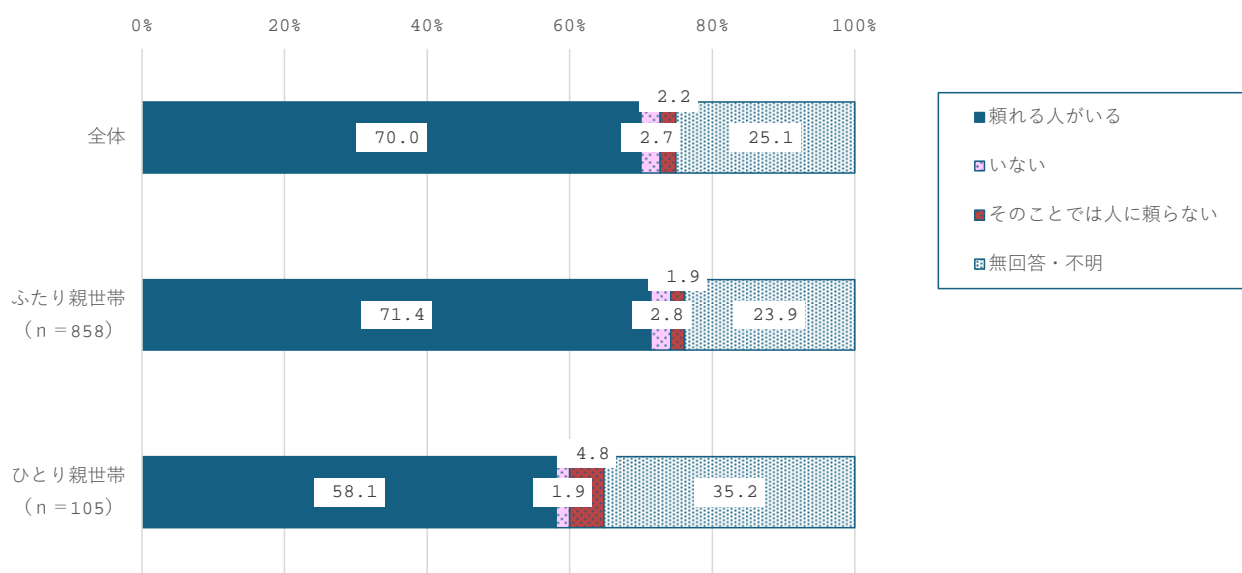
### 【等価世帯収入別】

頼れる人の有無（子育てに関する相談）（n = 872）



### 【世帯の状況別】

頼れる人の有無（子育てに関する相談）（n = 963）



## 【相手】

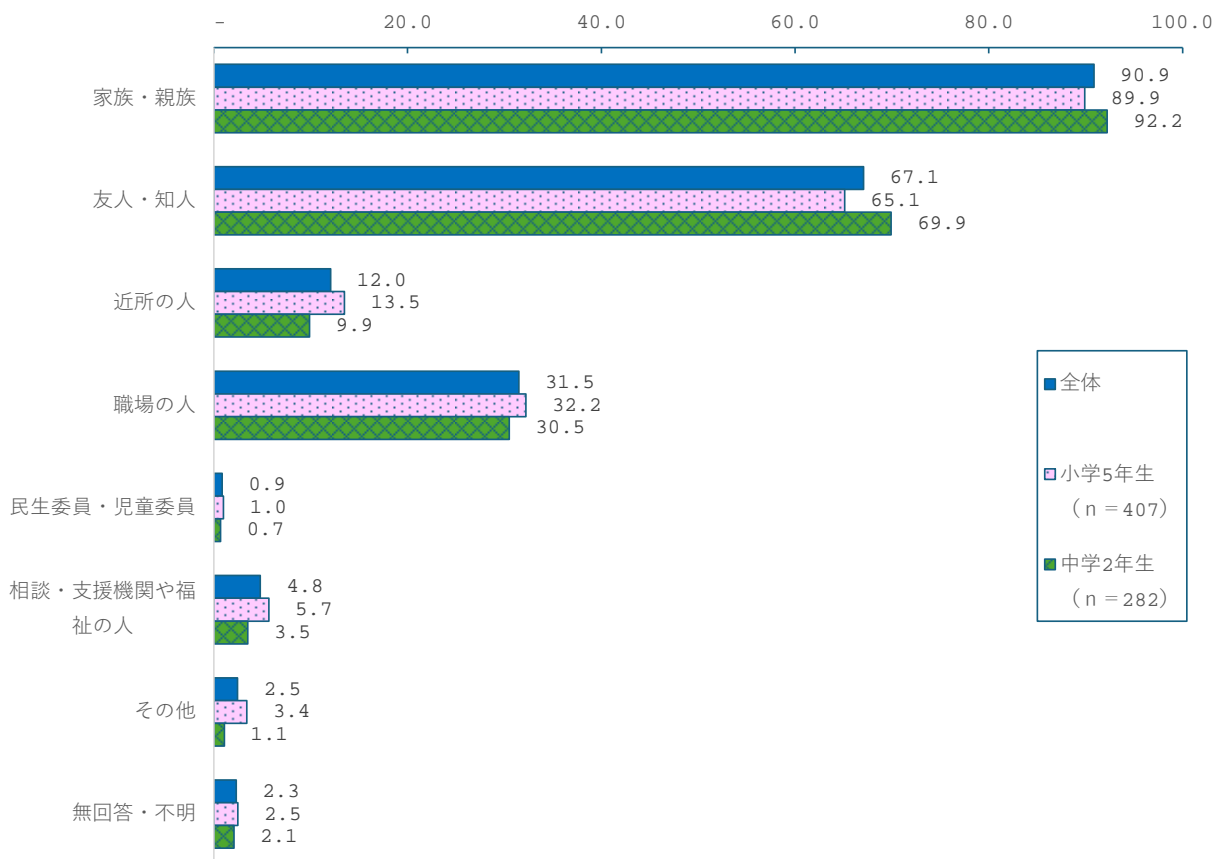
- 頼れる人については、全体では「家族・親族」が90.9%と最も多く、続いて「友人・知人」が67.1%、「職場の人」が31.5%となった。

等価世帯収入別では、「家族・親族」、「友人・知人」、「近所の人」、「職場の人」において、収入が高い方が割合も高い結果となった。

世帯の状況別では、「家族・親族」、「友人・知人」、「近所の人」において、「ひとり親世帯」よりも「ふたり親世帯」の割合が高い結果となった。

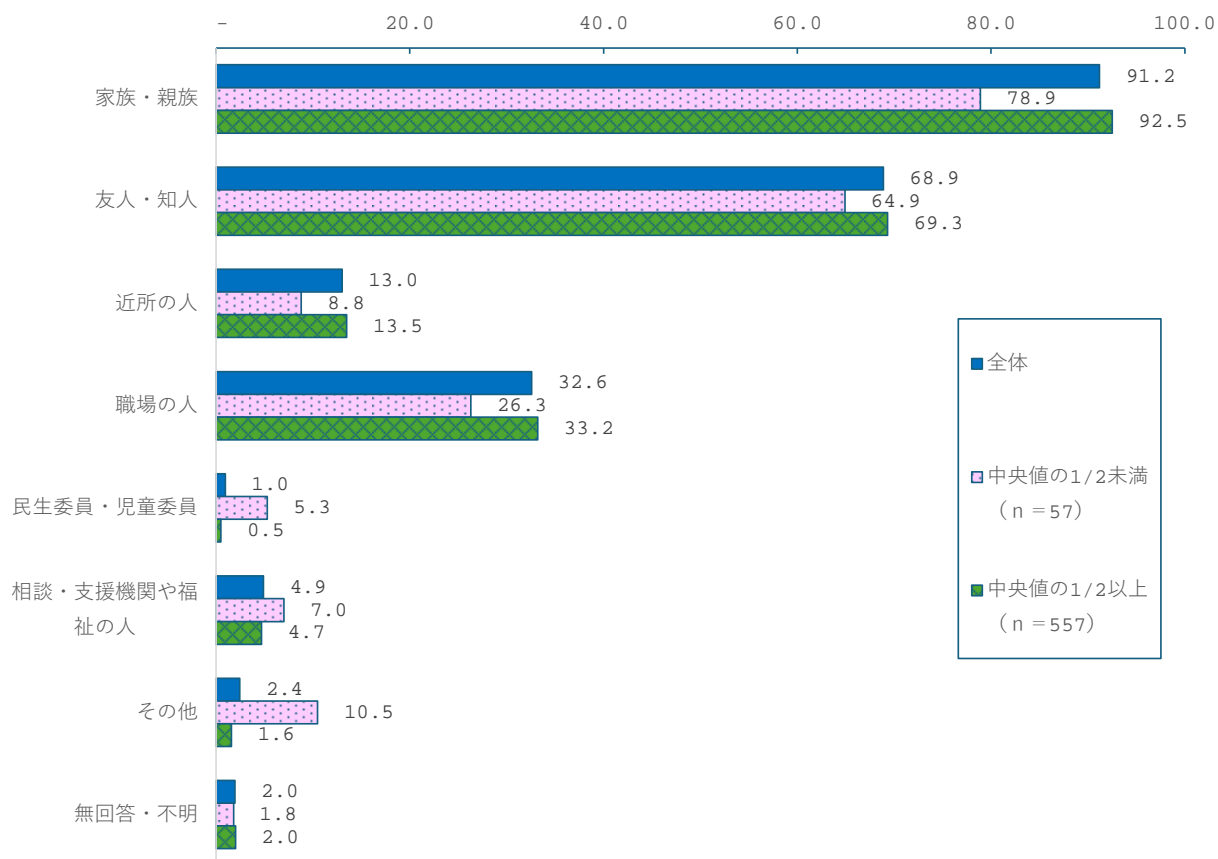
## 【全体（学年別）】

頼れる人（子育てに関する相談）（n = 689）



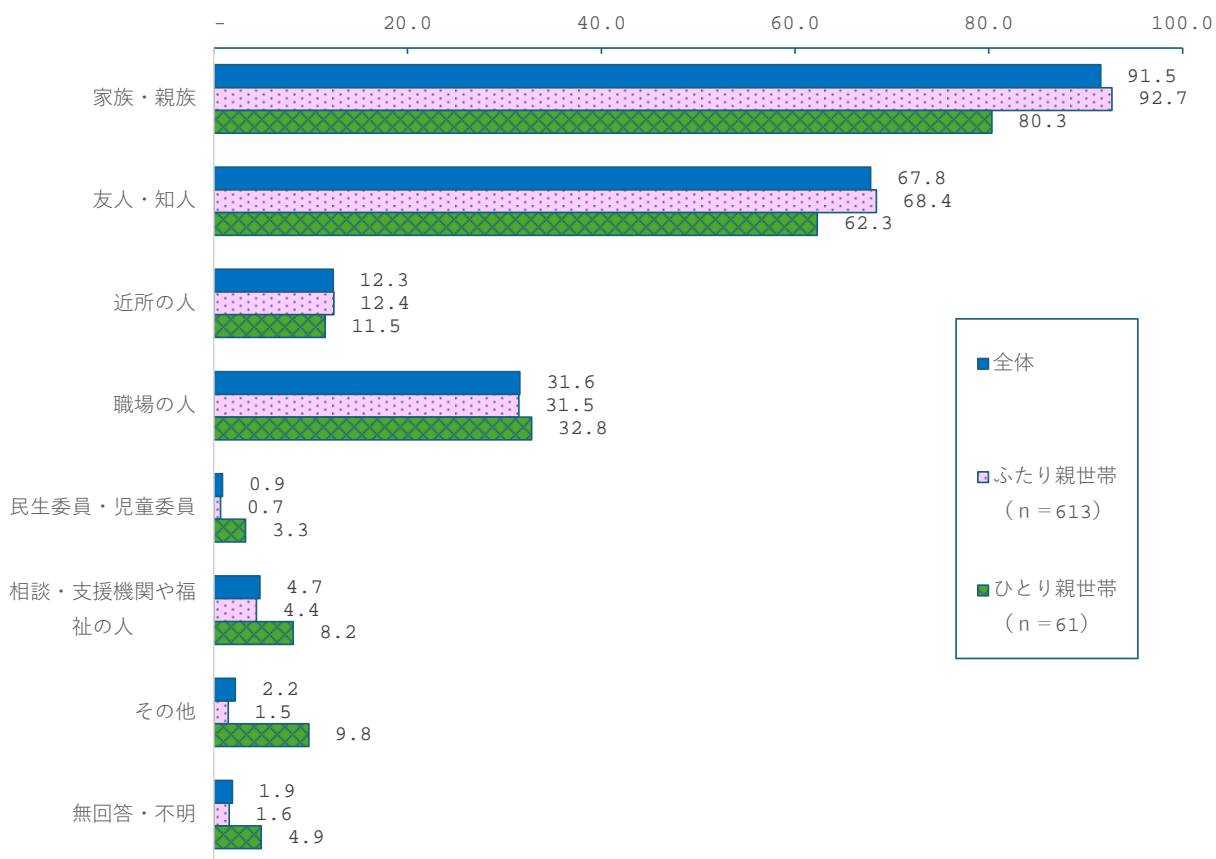
【等価世帯収入別】

頼れる人（子育てに関する相談）（n = 614）



【世帯の状況別】

頼れる人（子育てに関する相談）（n = 674）



## （2）重要な事柄の相談

問16 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。（a～c それぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○）

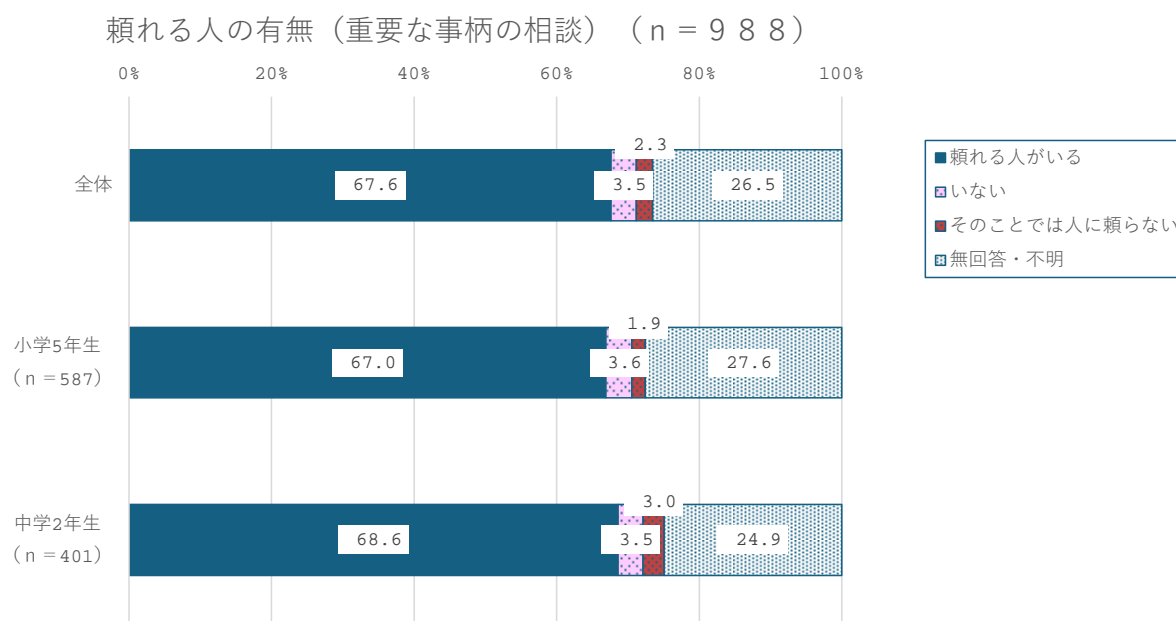
また、「1 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。（①～⑦のあてはまるものすべてに○）

### b) 重要な事柄の相談

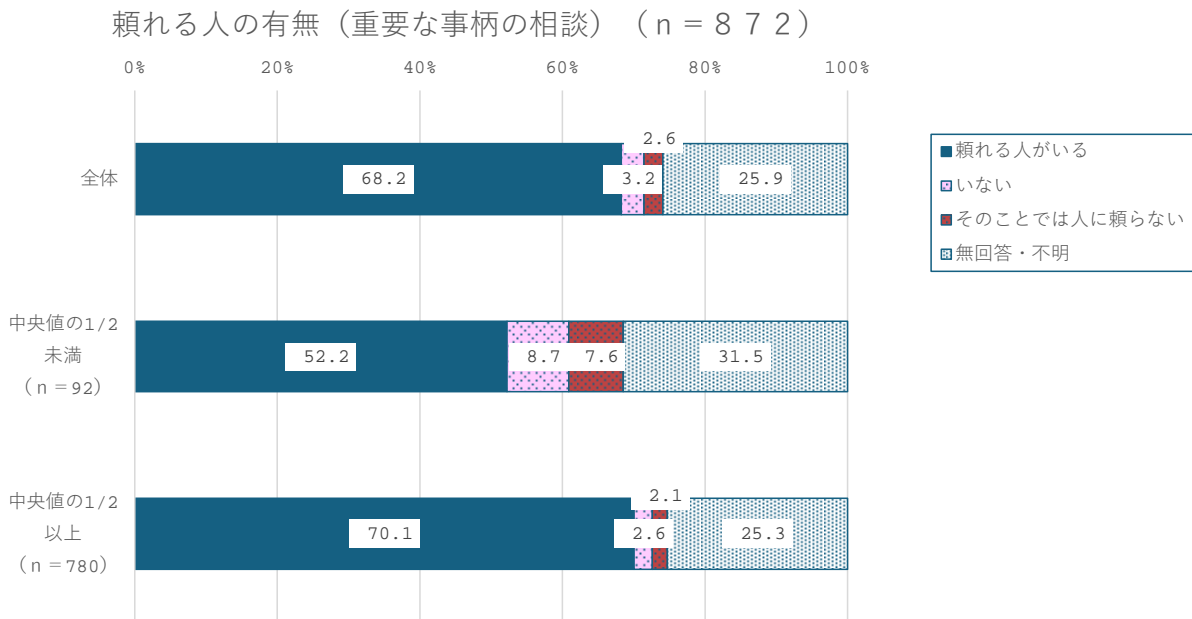
#### 【相手の有無】

- 重要な事柄の相談に関しては、全体では「頼れる人がいる」は65%以上となった。等価世帯収入別では、「頼れる人はいる」の割合は世帯収入が高い方が割合も高くなった。また、世帯の状況別では、「頼れる人はいる」の割合は「ふたり親世帯」で70.3%、「ひとり親世帯」で49.5%と大きな差がみられた。

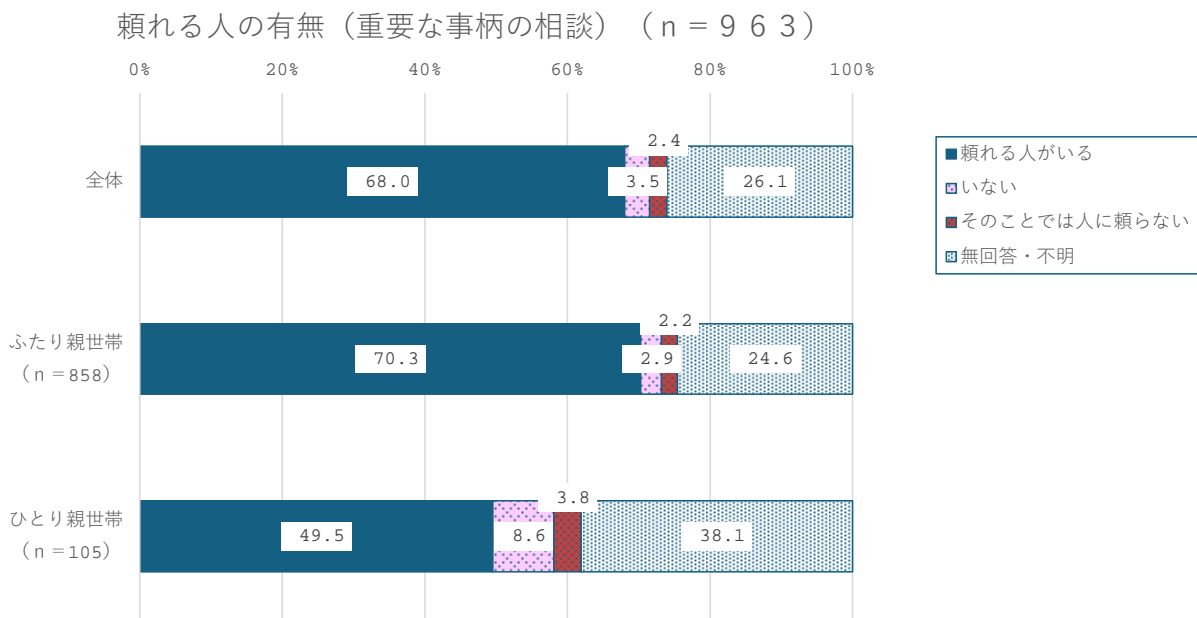
#### 【全体（学年別）】



### 【等価世帯収入別】



### 【世帯の状況別】



## 【相手】

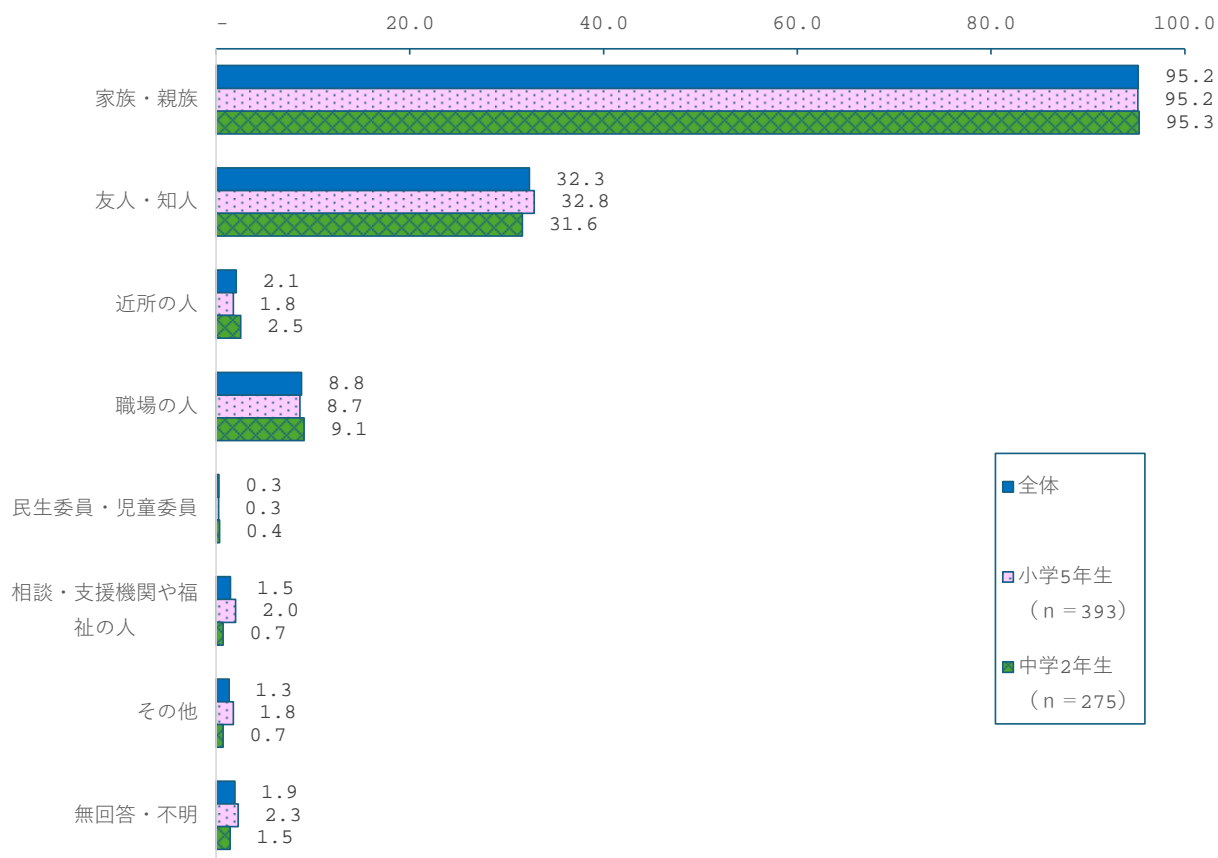
- 頼れる人については、全体では「家族・親族」が 95.2%と最も多く、続いて「友人・知人」が 32.3%だった。

等価世帯収入別では、「家族・親族」、「友人・知人」、「近所の人」、「職場の人」において、収入が高い方が割合も高い結果となった。

世帯の状況別では、「家族・親族」において、「ひとり親世帯」よりも「ふたり親世帯」の割合が高い結果となった。

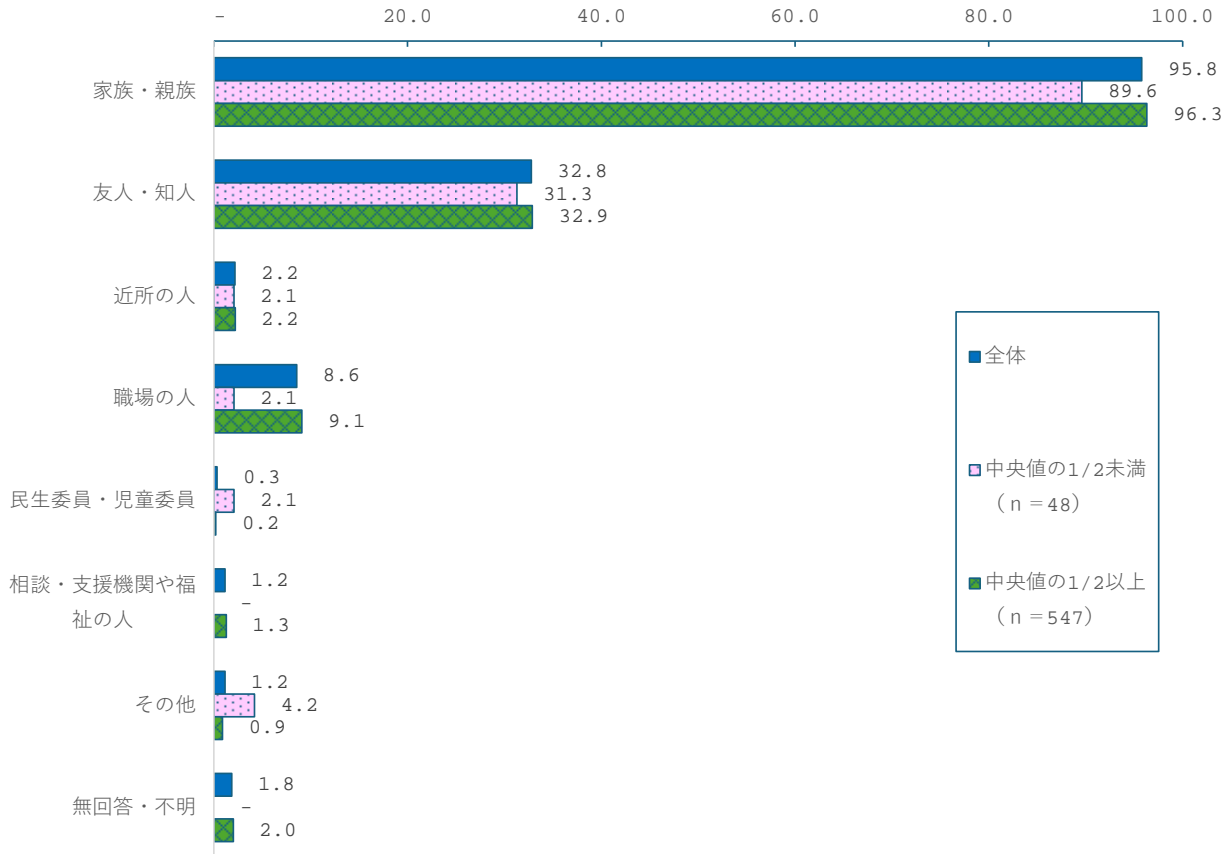
## 【全体（学年別）】

頼れる人（重要な事柄の相談）（n = 689）



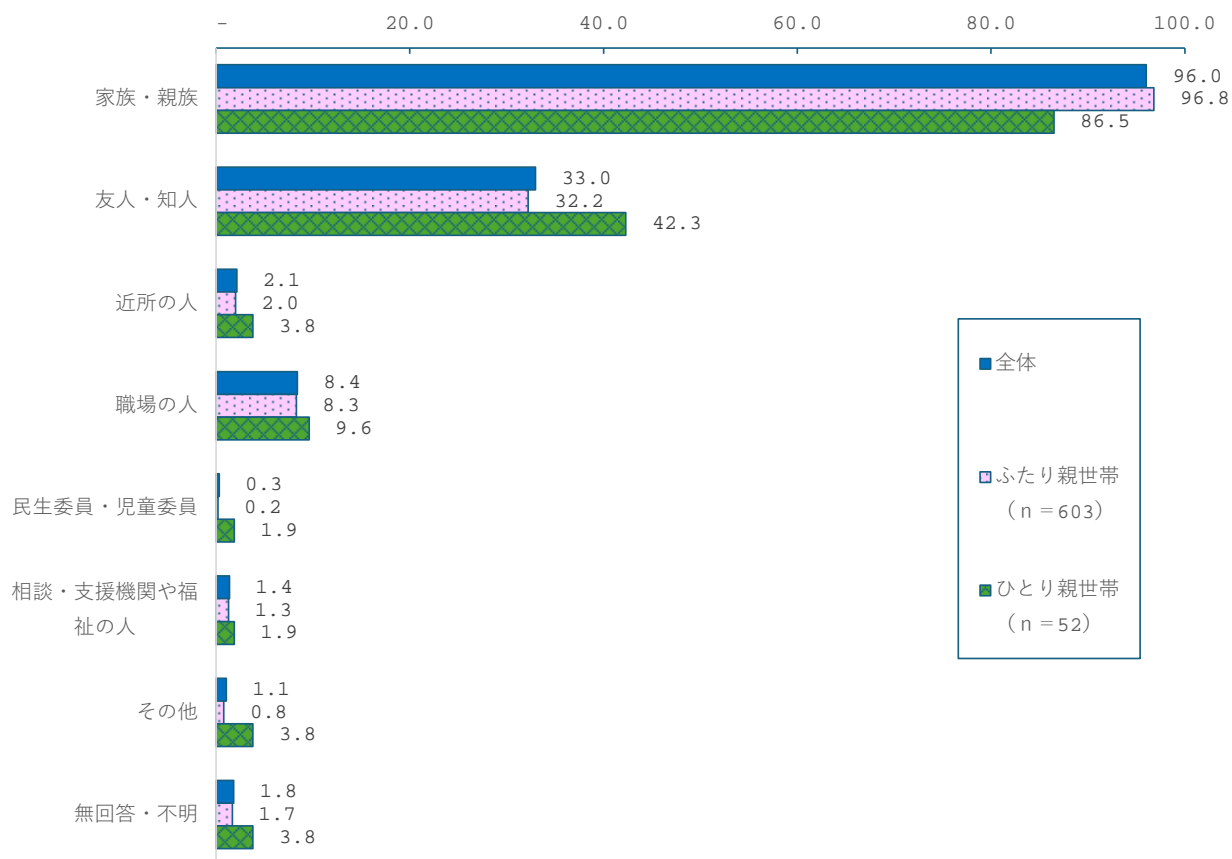
【等価世帯収入別】

頼れる人（重要な事柄の相談）（n = 595）



【世帯の状況別】

頼れる人（重要な事柄の相談）（n = 655）



## (3) いざというときのお金の援助

問16 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(a～c それぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)

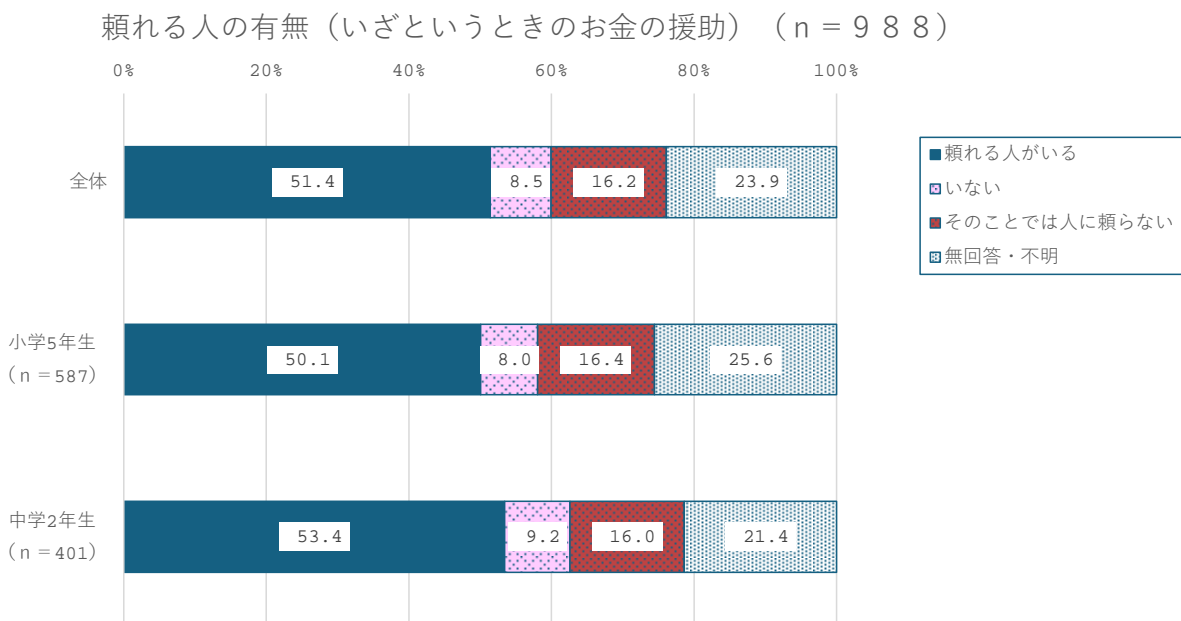
また、「1 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。(①～⑦のあてはまるものすべてに○)

## c) いざというときのお金の援助

## 【相手の有無】

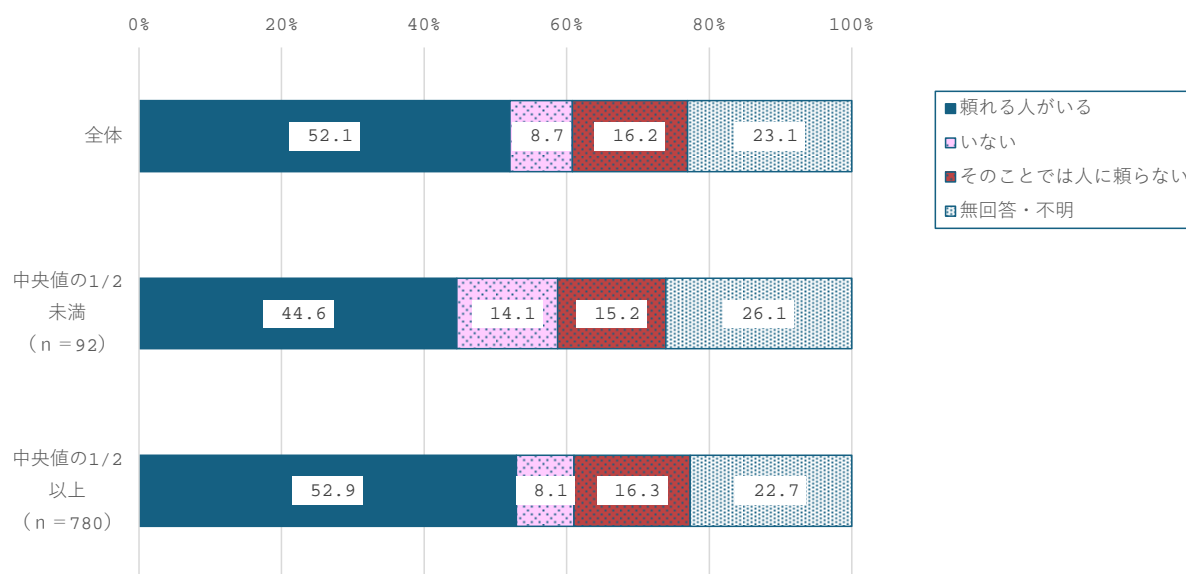
- いざという時のお金の援助については、全体では「頼れる人がいる」は51.4%となった。等価世帯収入別では、「頼れる人はいる」の割合は世帯収入が高い方が割合も高くなった。また、世帯の状況別では、「頼れる人はいる」の割合は「ふたり親世帯」で53.7%、「ひとり親世帯」で37.1%と大きな差がみられた。

## 【全体（学年別）】



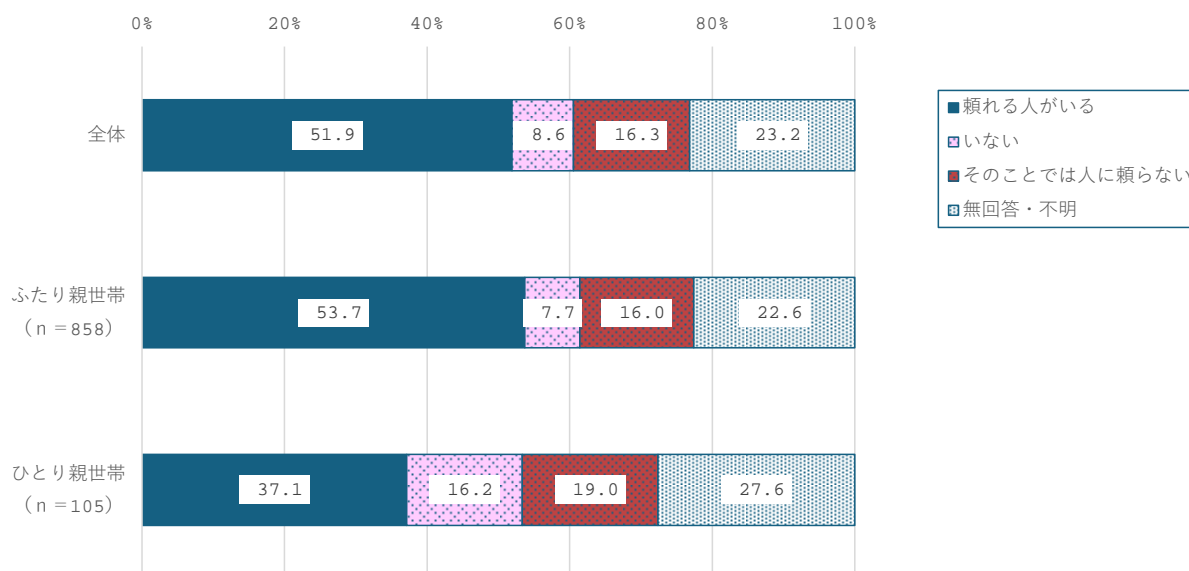
### 【等価世帯収入別】

頼れる人の有無（いざという時のお金の援助）（n = 872）



### 【世帯の状況別】

頼れる人の有無（いざという時のお金の援助）（n = 963）

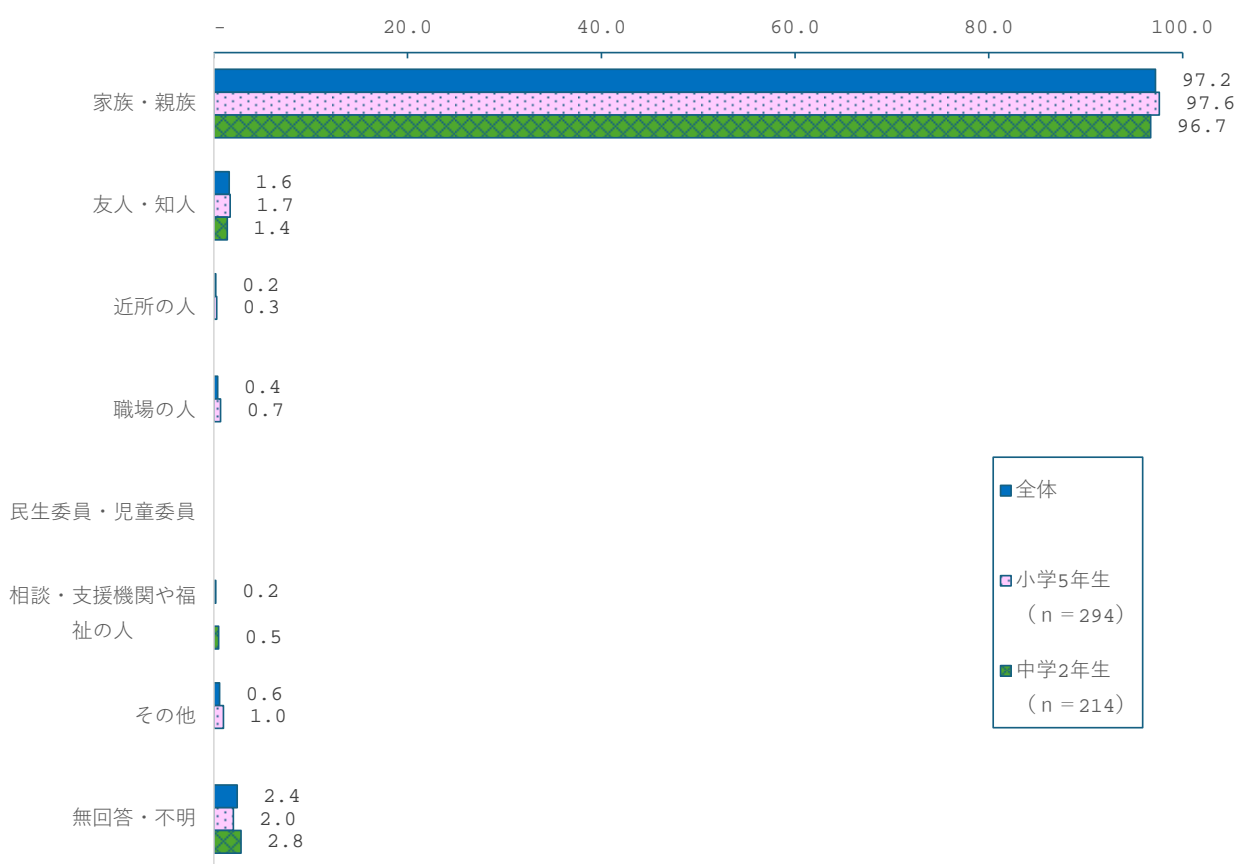


## 【相手】

- いざというときのお金の援助については、全体では「家族・親族」の割合が他の頼れる人の項目よりもかなり大きい結果（97.2%）となった。  
等価世帯収入別では、「友人・知人」、「近所の人」、「職場の人」において、収入が高い方が割合も高い結果となった。  
世帯の状況別では、「家族・親族」において、「ひとり親世帯」よりも「ふたり親世帯」の割合が高い結果となった。

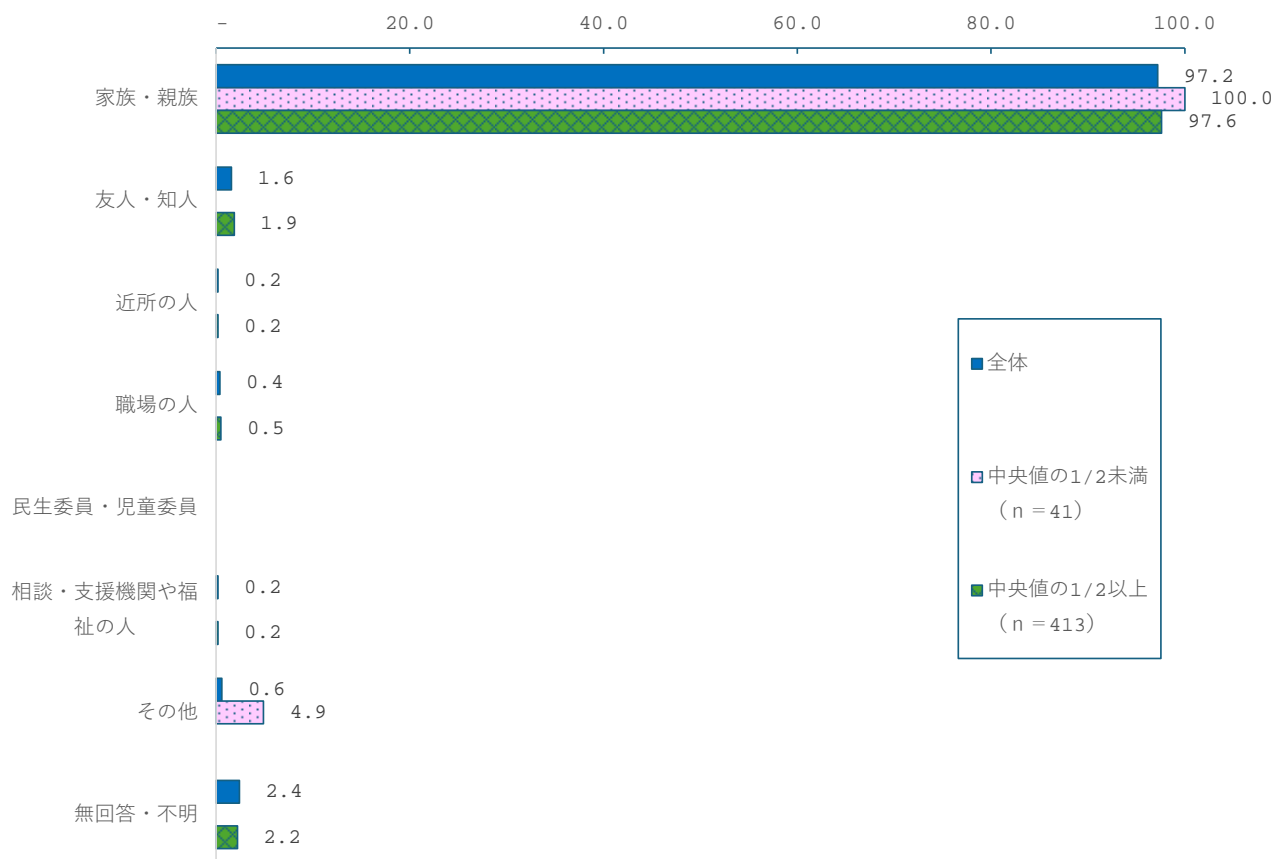
## 【全体（学年別）】

頼れる人（いざという時のお金の援助）（n = 508）



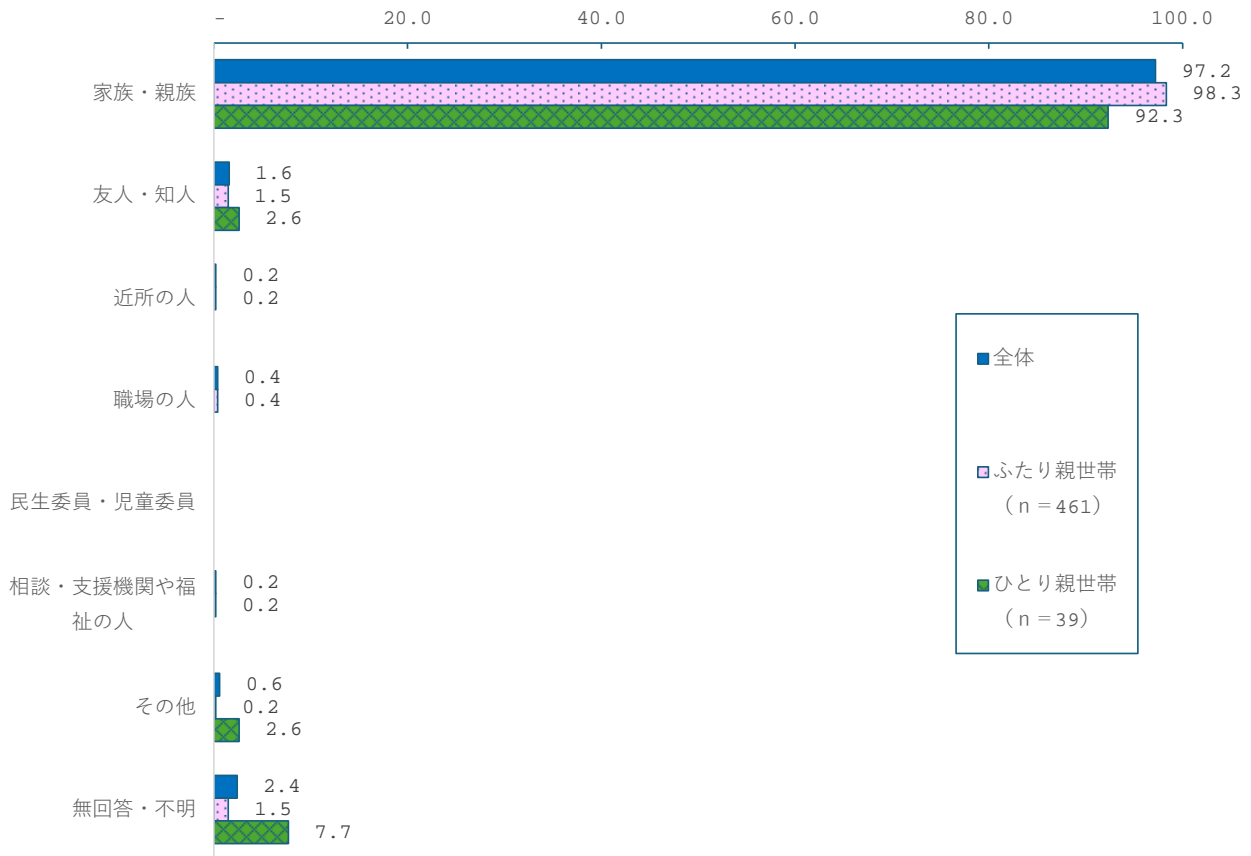
【等価世帯収入別】

頼れる人（いざという時のお金の援助）（n = 454）



【世帯の状況別】

頼れる人（いざという時のお金の援助）（n = 500）



## 8. 保護者の心理的な状態

問22 次の a)～f)の質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようでしたか。

(a～f それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

- a) 神経過敏に感じた
- b) 絶望的だと感じた
- c) そわそわ、落ち着かなく感じた
- d) 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた
- e) 何をするのも面倒だと感じた
- f) 自分は価値のない人間だと感じた

- 「保護者の心理的な状態」に関して、内閣府の「令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書」を参考に、本調査においても「K6」※1 と呼ばれる指標を把握するための6つの項目を設定し、調査を行った。

6つの調査項目の結果を足し合わせて、K6のスコアの算出を行った（0～24点）。

その結果、「うつ・不安障害相当」とされている「13点以上」の割合は全体で7.4%だった。

等価世帯収入別では、K6のスコアが「13点以上」※2の割合は、「中央値の1/2以上」の世帯では6.0%、「中央値の1/2未満」では、16.3%となった。

世帯の状況別では、「ひとり親世帯」で「13点以上」が20.0%となった。

※1 K6は米国のKesslerらによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されている。

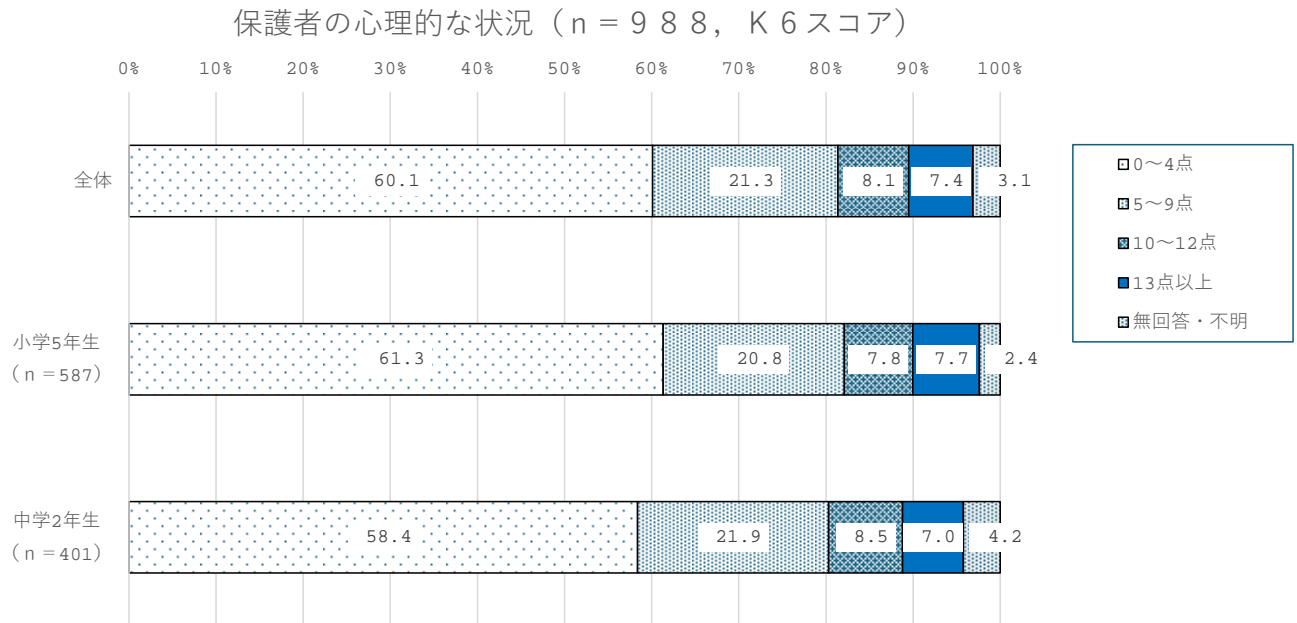
採点方法は、ひとつの質問ごとに0点（5. まったくない）から4点（1. いつも）を振り、0点から24点で合計を計算した。高くなるほど抑うつ状態が強いことを示している。

厚生労働省による解説・紹介ページ

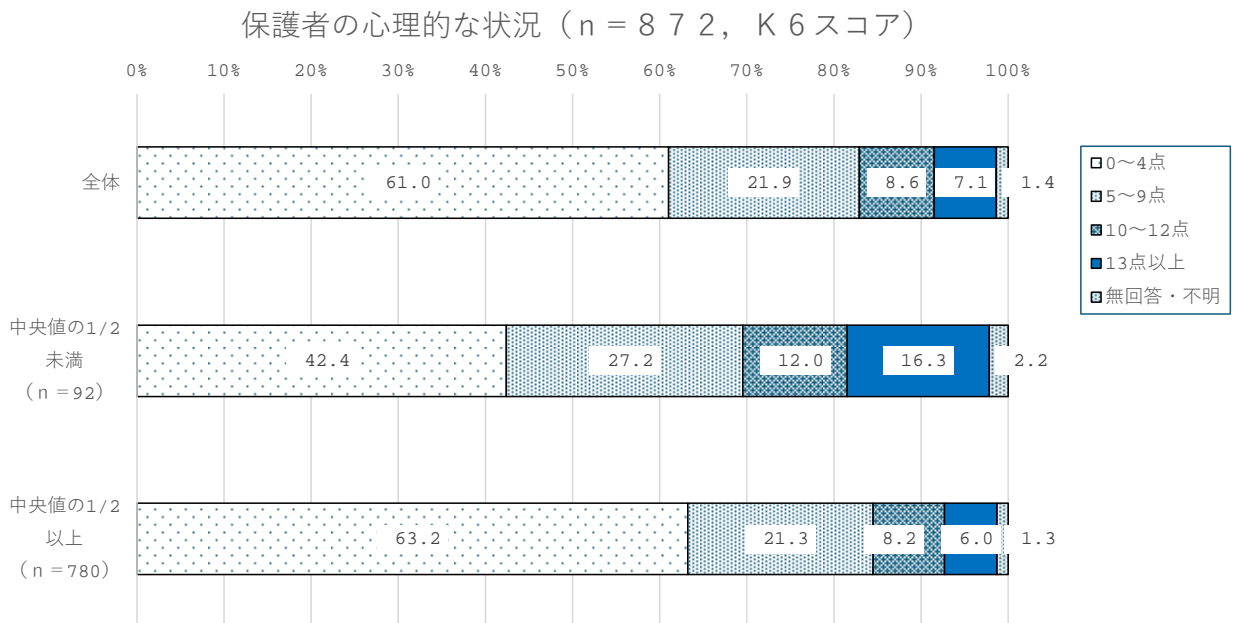
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ktyosa/k-tyosa10/yougo.html>)

※2 国立精神・神経医療研究センター「うつ・不安に対するスクリーニングと支援マニュアル」

## 【全体（学年別）】

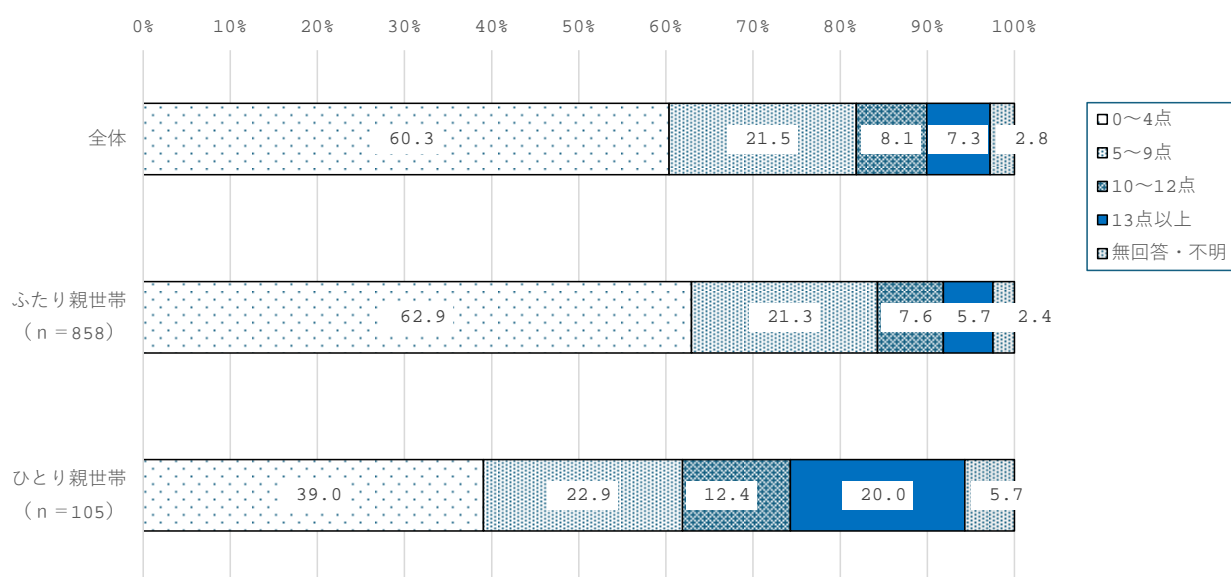


## 【等価世帯収入別】



## 【世帯の状況別】

保護者の心理的な状況（n = 963, K6スコア）

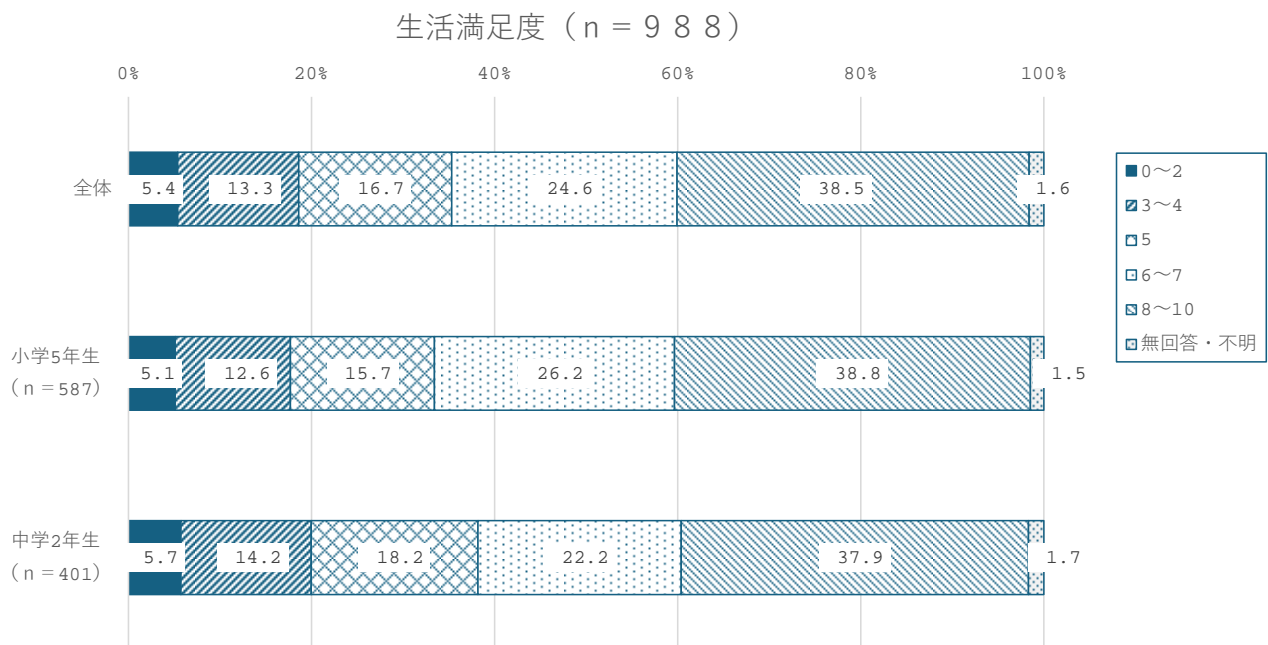


## 9. 保護者の生活満足度

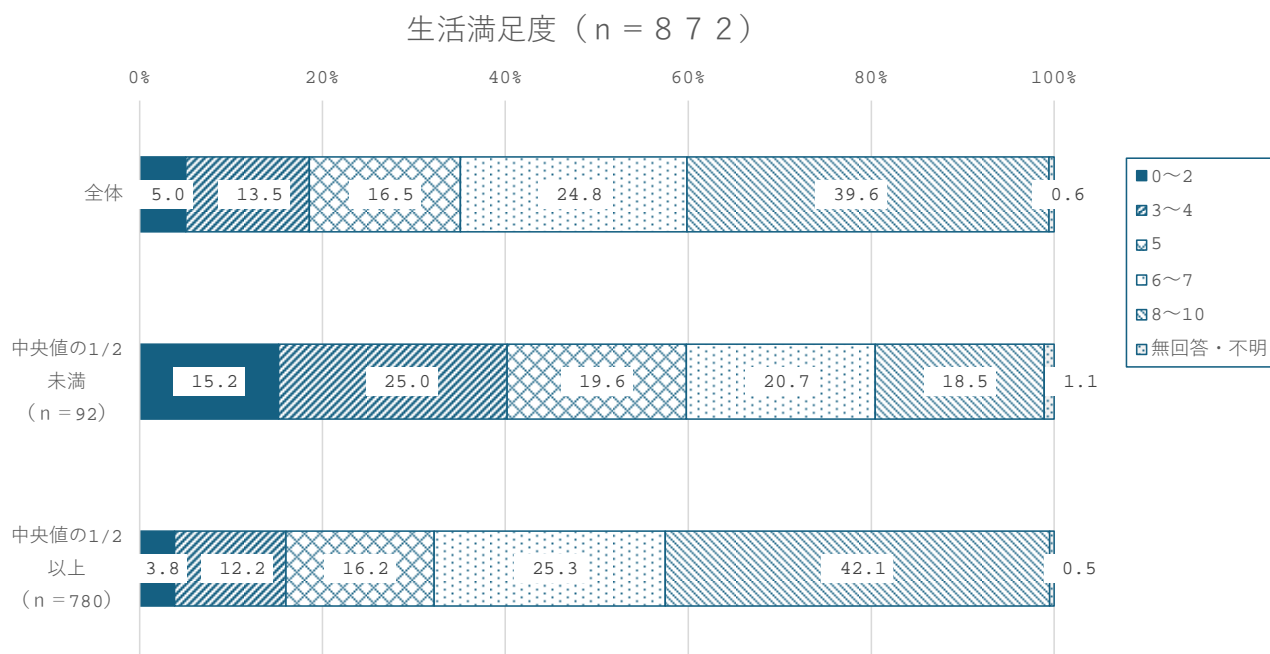
問23 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」(まったく満足していないから「10」(十分に満足している)の数字で教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- 生活の満足度については、全体ではどの学年でも60%程度が6点以上の満足となっていた。等価世帯収入別では、収入が高い方が満足度も上がる結果となった。世帯の状況別では、「ふたり親世帯」で「4点以下」は16.2%となっており、「ひとり親世帯」では38.1%と大きな差がみられた。

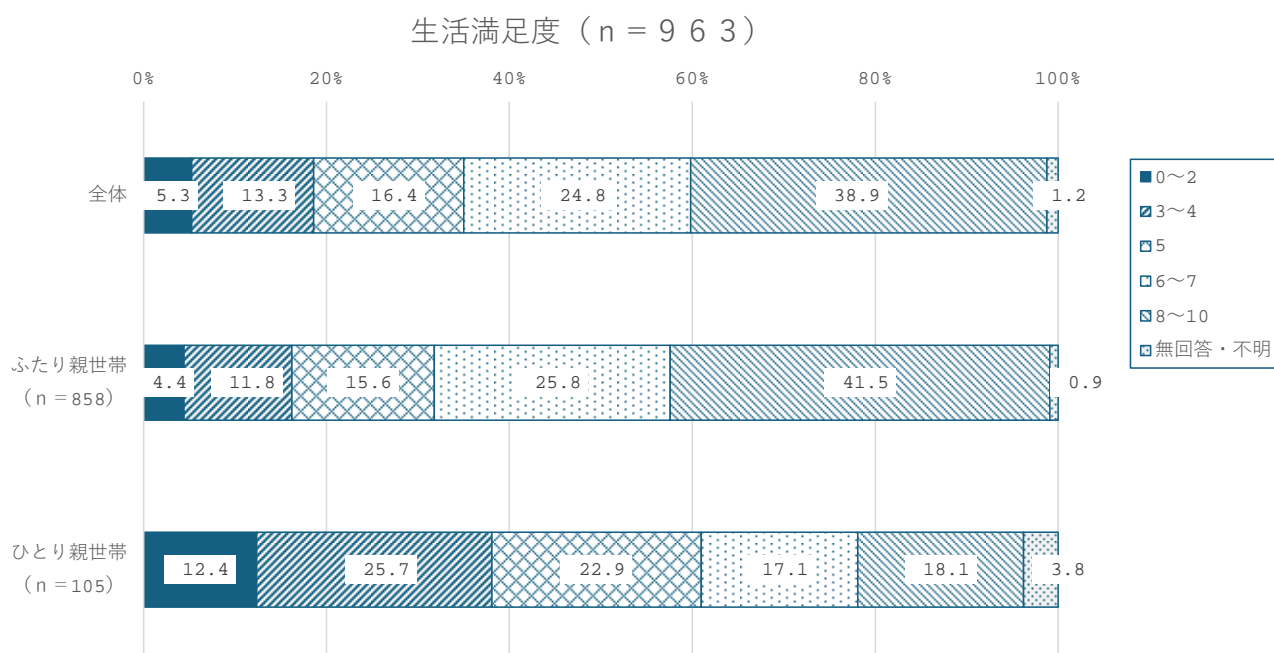
### 【全体（学年別）】



## 【等価世帯収入別】



## 【世帯の状況別】



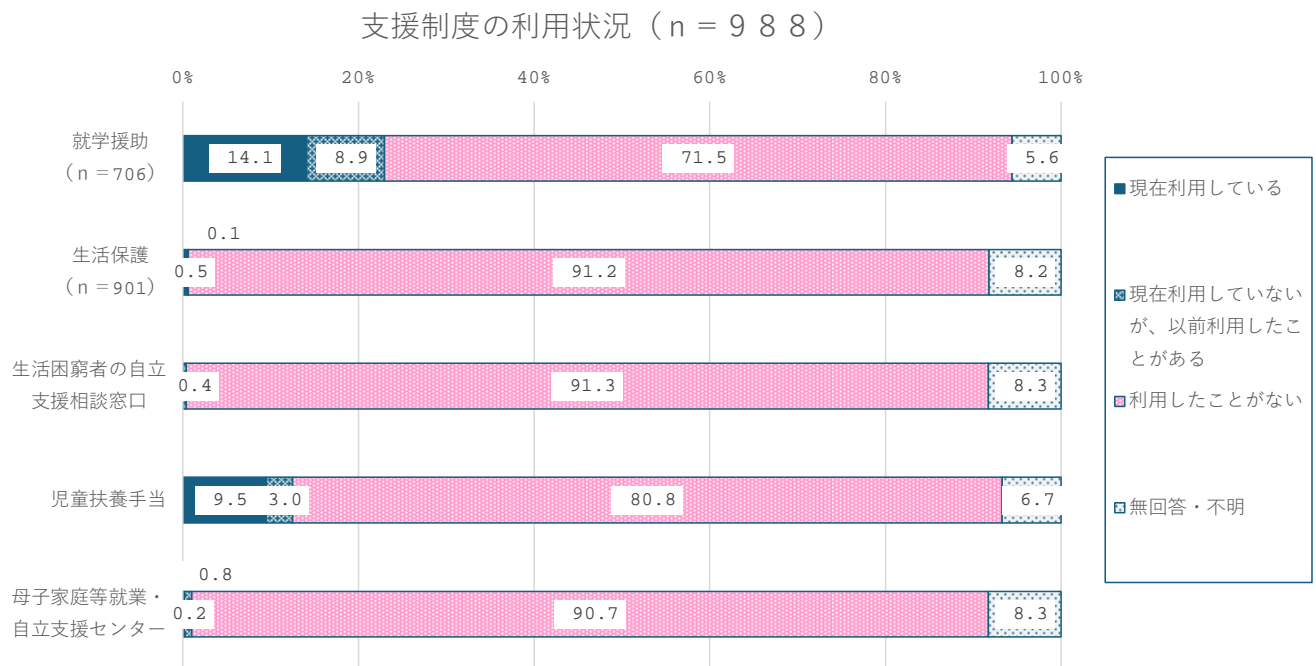
## 10. 支援制度の利用状況

### (1) 保護者の支援制度の利用状況

問24 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。(a～eそれぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)

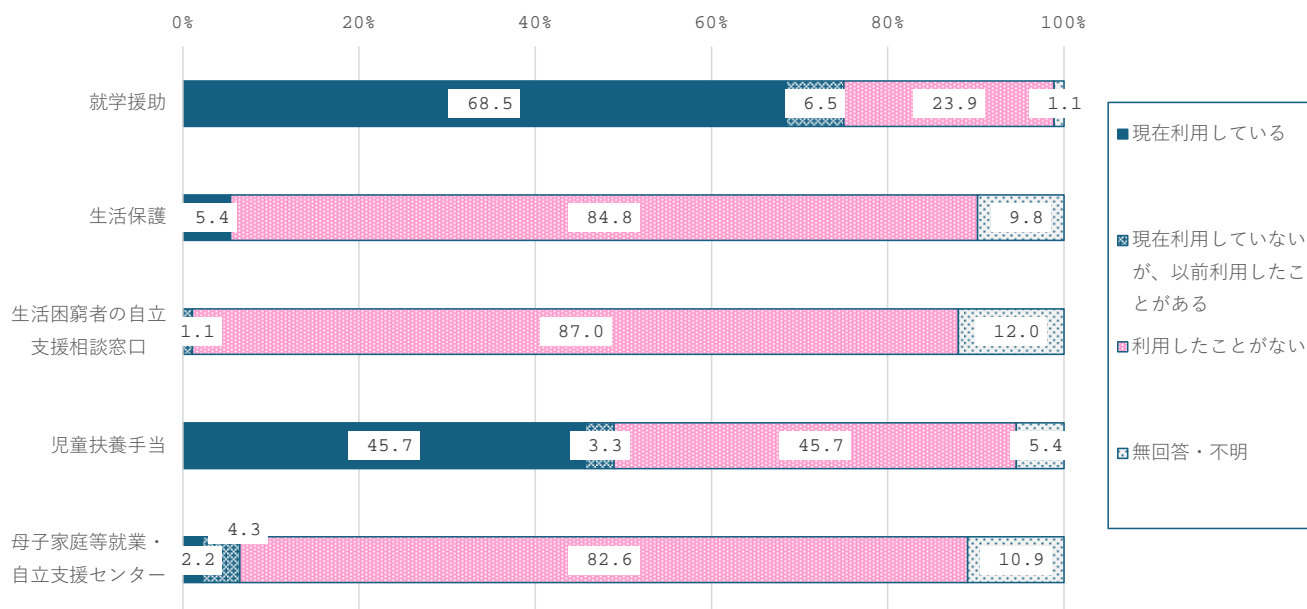
- 保護者の支援制度の利用状況については、「就学援助」が14.1%、次いで「児童扶養手当」が9.5%あった。「生活困窮者の自立支援相談窓口」は、「現在利用している」との回答はなかった。

#### 【全体】



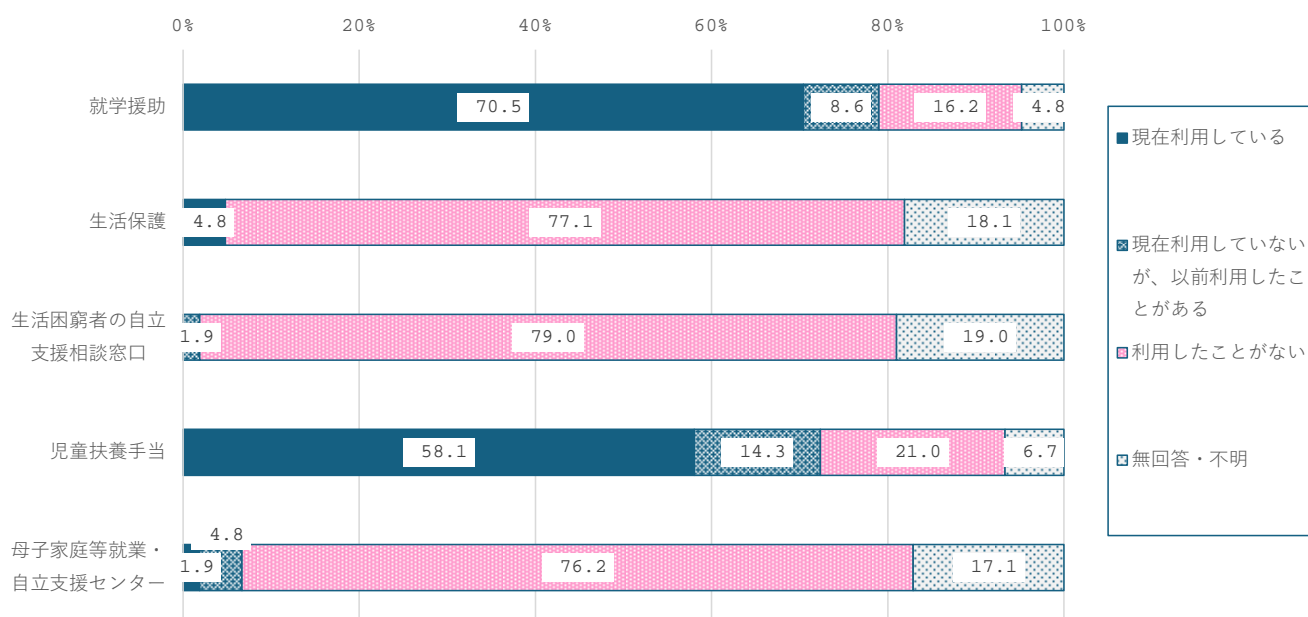
【等価世帯収入別】  
（中央値の1/2未満）

支援制度の利用状況（中央値の1/2未満，n = 92）



【世帯の状況別】  
（ひとり親世帯）

支援制度の利用状況（ひとり親世帯，n = 105）



## (2) 支援制度を利用していない理由

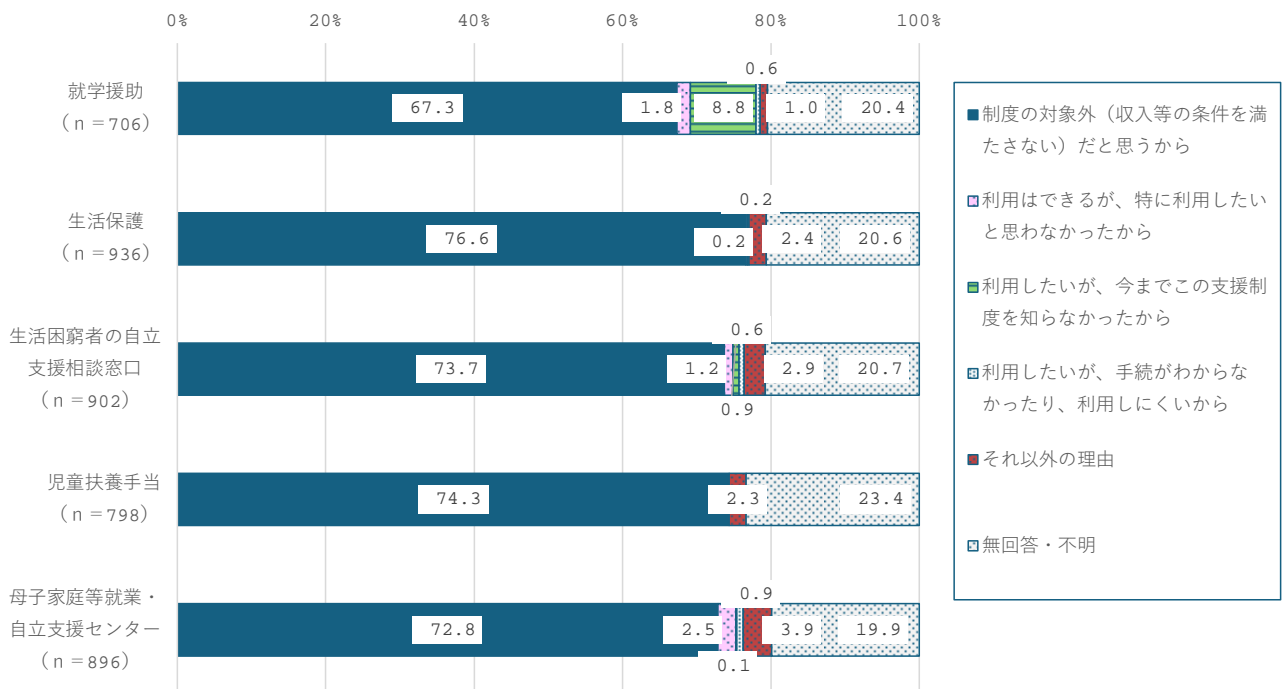
問24 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。(a～eそれぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)

また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(①～⑤のあてはまるもの1つに○)

- 制度を利用していない理由については、全体では「制度の対象外だと思っから」が、どの支援制度でも割合が約70%となった。

### 【全体】

支援制度を利用していない理由（全体）



【等価世帯収入別】  
（中央値の1/2未満）

支援制度を利用していない理由（中央値の1/2未満）



【世帯の状況別】  
(ひとり親世帯)

支援制度を利用していない理由(ひとり親世帯)

